

2020

大学概要

千葉大学



CHIBA UNIVERSITY

# CONTENTS

## 大学概要

01	理念 .....	
01.1	学長挨拶・千葉大学憲章	02
01.2	ビジョン	03
02	トピックス .....	
02.1	データで見る千葉大学	04
02.2	歴史・沿革・歴代学長	06
02.3	トピックス	08
03	特色 .....	
03.1	千葉大学グローバル人材育成戦略－ENGINEERの始動	10
03.2	学術研究・イノベーション推進機構 (IMO)	13
03.3	卓越大学院プログラム	14
03.4	企業等との連携によるイノベーションの創出	15
03.5	グローバルプロミネント研究基幹	16
03.6	大学の世界展開力強化事業	23
03.7	先進科学プログラム / 飛び入学	24
03.8	附属図書館 / アカデミック・リンク・センター	25
03.9	ミツバチプロジェクト	26
03.10	亥鼻キャンパス高機能化構想と亥鼻IPE	27
03.11	環境ISO	28
03.12	コミュニティ・イノベーションオフィスによる地域との連携	29
04	組織・施設 .....	
04.1	組織・施設の整備	30
04.2	組織図	31
04.3	学部	32
04.4	大学院	35
04.5	医学部附属病院	38
04.6	共同利用教育研究施設	40
04.7	学部等附属の教育研究施設	43
04.8	附属学校	45

05	国際交流 .....	
05.1	戦略的海外拠点形成	46
05.2	海外キャンパス・海外オフィス設置	48
06	学生 .....	
06.1	学生数(学部・大学院・研究生等)	49
07	財務 .....	
07.1	決算・予算	50
08	学章等 .....	
08.1	学章等	51
	キャンパスマップ .....	52
	アクセス .....	56
	SEEDS 基金 .....	57

## "つねに、より高きものをめざして"

## 学長挨拶

千葉大学は約150年前に設立された千葉師範学校や共立病院を前身として、昭和24年に5学部から成る新制国立大学としてスタートしました。現在では10学部と多数の大学院や教育研究センターを有する大規模総合大学に発展しています。この間の平成16年には法人化され、独自の理念とビジョンに基づく機構改革とともに文理融合型の教育研究や社会貢献活動を積極的に推進しています。

特に教育面では、グローバル人材育成に向けて国際教養学部や海外3大学に千葉大キャンパスを開設しており、本年度より「ENGINE」プランの下全学生に海外留学を必修化しています。また、高度専門人材の養成に向けて学部と大学院修士課程の連携した6年一貫の教育プログラムを整備するとともに、大学院博士課程では文部科学省の支援によるリーディング大学院や卓越大学院プログラムを多数開講しています。

研究面ではグローバル・プロミネント研究基幹の下で、異分野融合型の独創的研究や人工知能(AI)研究センター等と協働した革新的最先端研究を支援しています。さらにイノベーション・マネジメント機構(IMO)を新設して、企業等との共同研究の推進に向けた支援体制を強化しています。本冊子が、千葉大学の現状や改革内容の理解に役立つことを願っています。

国立大学法人 千葉大学長

徳久 剛史



## 千葉大学の理念

千葉大学は、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命とし、生命のいっそうの輝きをめざす未来志向型大学として、たゆみない挑戦を続けます。

## 千葉大学の目標

私たち役員と教職員は、上記の理念のもと、自由・自立の精神を堅持して、地球規模的な視点から常に社会とかわりあいを持ち、普遍的な教養(真善美)、専門的な知識・技術・技能および高い問題解決能力をそなえた人材の育成、ならびに現代的課題に応える創造的、独創的研究の展開によって、人類の平和と福祉ならびに自然との共生に貢献します。

**01** 私たちは、学生が個々の能力を発揮して「学ぶ喜び」を見だし、鋭い知性と豊かな人間性を育ていく自律成長を支援するために、最高の教育プログラムと環境を提供します。千葉大学は、学生と私たちがともに学ぶ喜びを生きがいと感じ、ともに成長していく知的共同体です。

**02** 私たちは、学生とともに、社会で生じるさまざまな問題の本質を、事実を踏まえて深く考察し、公正かつ誠実な問題解決に資する成果を速やかに提供して、社会と文化ならびに科学と技術の発展に貢献します。

**03** 私たちは、総合大学としての多様性と学際性を生かし、国内外の地域社会・民間・行政・教育研究諸機関と連携して、領域横断的研究と社会貢献を積極的に推進します。

**04** 私たちは、各人の個性・能力・意欲および自主性が継続的に最大限発揮され、意欲ある人材が積極的に登用される仕組みと環境を構築し、時代の変化に応じて柔軟に大学を運営します。

## VISION CHIBA UNIVERSITY 2015-2021

### 世界に輝く未来志向型の総合大学へ!

平成16年度の国立大学法人化以降、千葉大学では「つねに、より高きものをめざして」を基本理念に掲げ、教養(普遍)教育の充実と教育活動の国際化を積極的に進めるとともに、学問の多様性を尊重しつつ、世界レベルの基礎研究や応用研究を強力に推進するなど、世界を先導する創造的な教育・研究活動の実践を通して、世界に輝く未来志向型の総合大学を目指し、たゆみない挑戦を続けてまいりました。

平成28年度からの第3期中期目標期間を迎えるに当たっては、国内外の急激な社会変化により人類が直面する様々な課題を的確に捉えるとともに、これまでの取り組みから得られた本学の強みや特色、可能性を十分に見極め、本学が有する卓越した研究力と質の高い教育力を、それら課題の解決に向けて効果的に発揮することにより、本学が「世界最高水準の教育研究機能を有する総合大学」としてさらなる発展を遂げていくため、この期間における本学のビジョンを策定いたしました。

千葉大学においては、強みとなる独創的な研究分野への戦略的支援や、次世代型イノベーションの創出、自立した個人として、自主的に学び、グローバル社会の中心となって活躍できる次世代型人材の育成などにより、全学の教職員が一丸となって本ビジョンの実現に向けて取り組んでまいります。

### 01 Global 国際社会で活躍できる次世代型人材の育成

- 国際未来教育基幹の創設による世界水準の教育実践と次世代型人材育成
- 「グローバル千葉大学の新生」(スーパーグローバル大学等事業)の着実な実施
- 国際的なネットワークの構築による教育研究拠点の創成

### 02 Research 研究三峰(トリプルピークチャレンジ)の推進

- グローバルプロミネント研究基幹の創設による独創的な次世代研究への戦略的支援
- 亥鼻キャンパス高機能化構想による治療学創成に向けた未来医療研究拠点形成
- 文理の枠を超えた融合型研究の推進

### 03 Innovation 次世代を担うイノベーションの創出

- イノベーションの創出に向けた産業連携研究の推進・強化
- 研究成果の社会実装へ向けた知的財産の確保と活用
- イノベーション創出人材の育成と組織改革

### 04 Branding 千葉大学ブランディングの強化

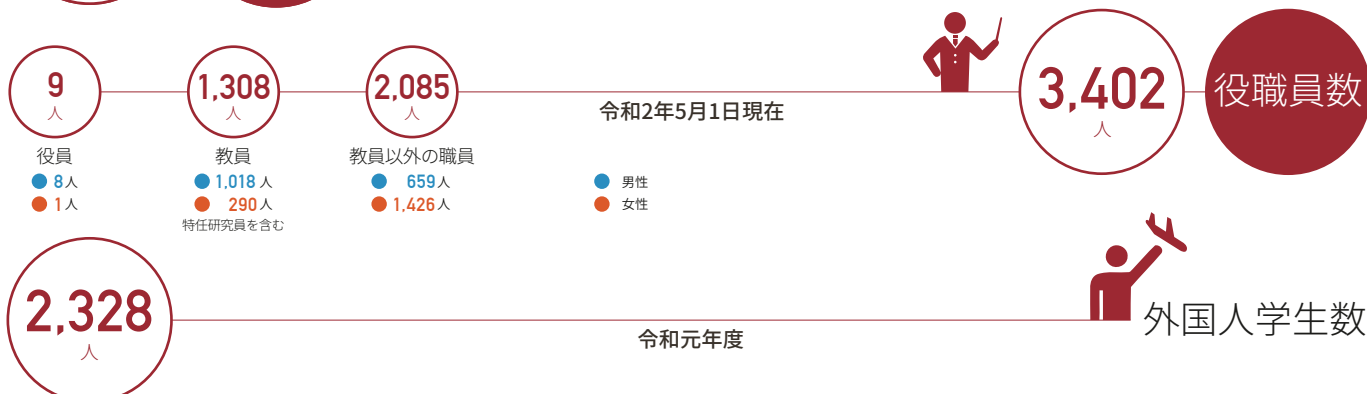
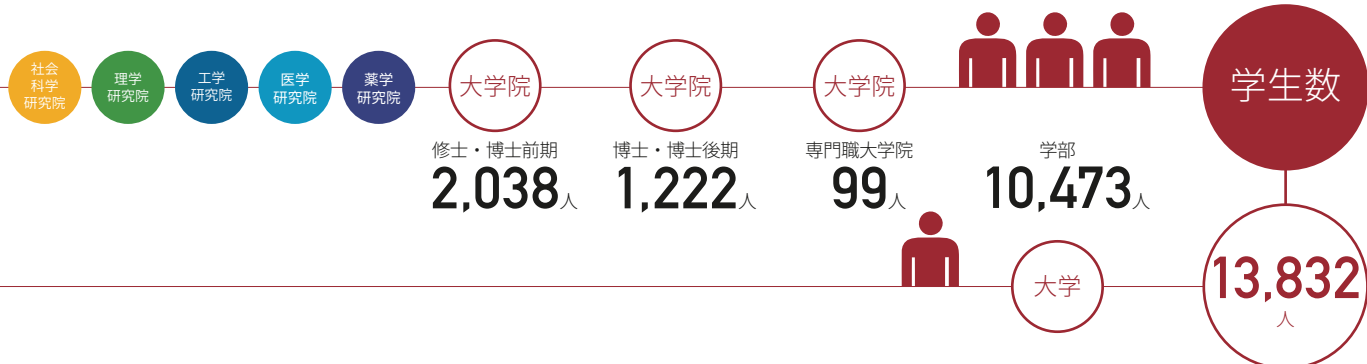
- 卓越した教育・研究力による国際的な信頼の向上
- 戦略的広報活動の推進
- 卒業生・企業・社会等との連携強化

### 05 Synergy 教職員による協働体制の強化

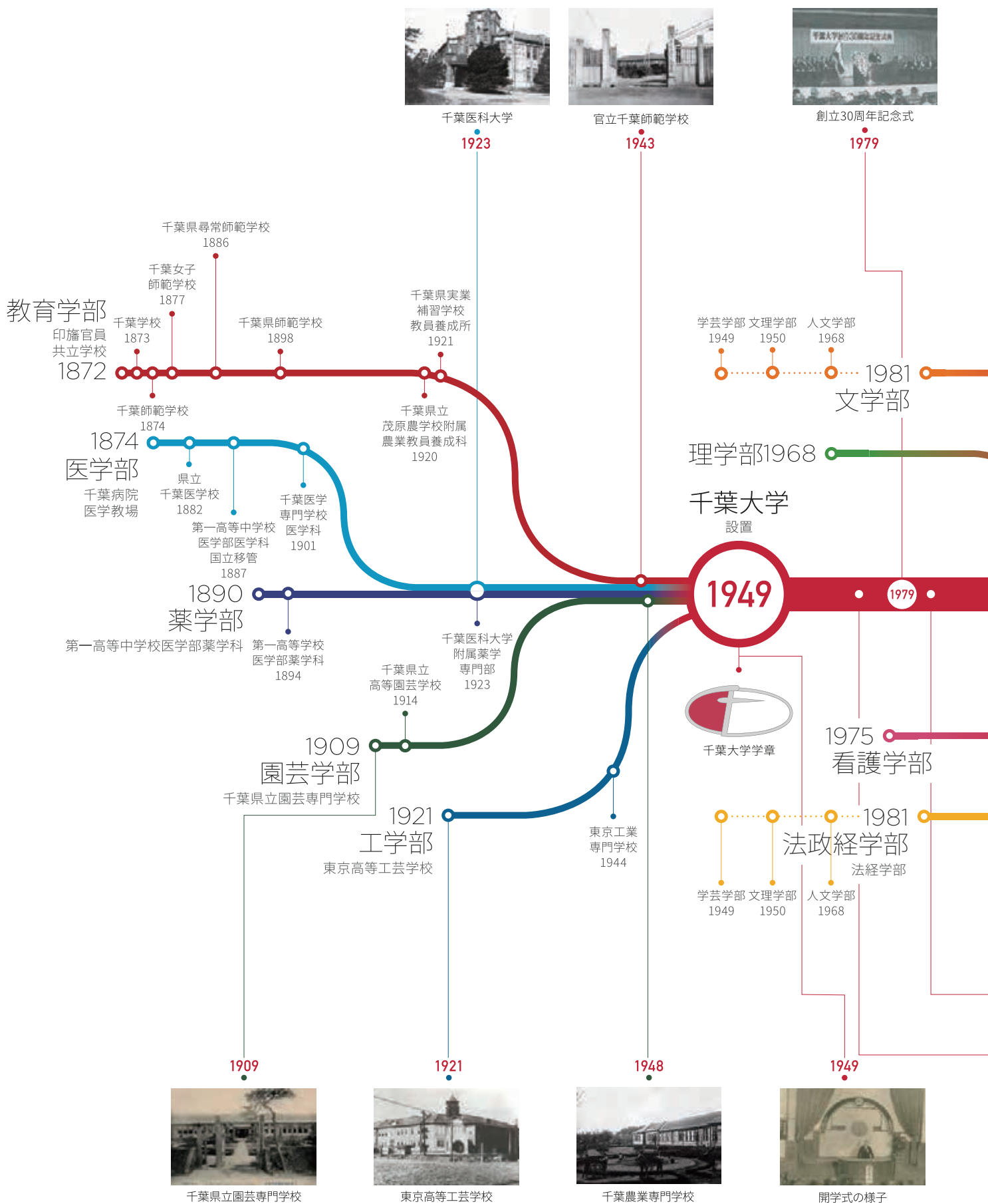
- 戦略的な大学運営に向けたガバナンス機能の強化
- 多様な人材(ダイバーシティ)の活用による教育研究活動の活性化
- リスクマネジメントシステムの充実

## | データで見る千葉大学





# 歴史・沿革・歴代学長





歴代学長

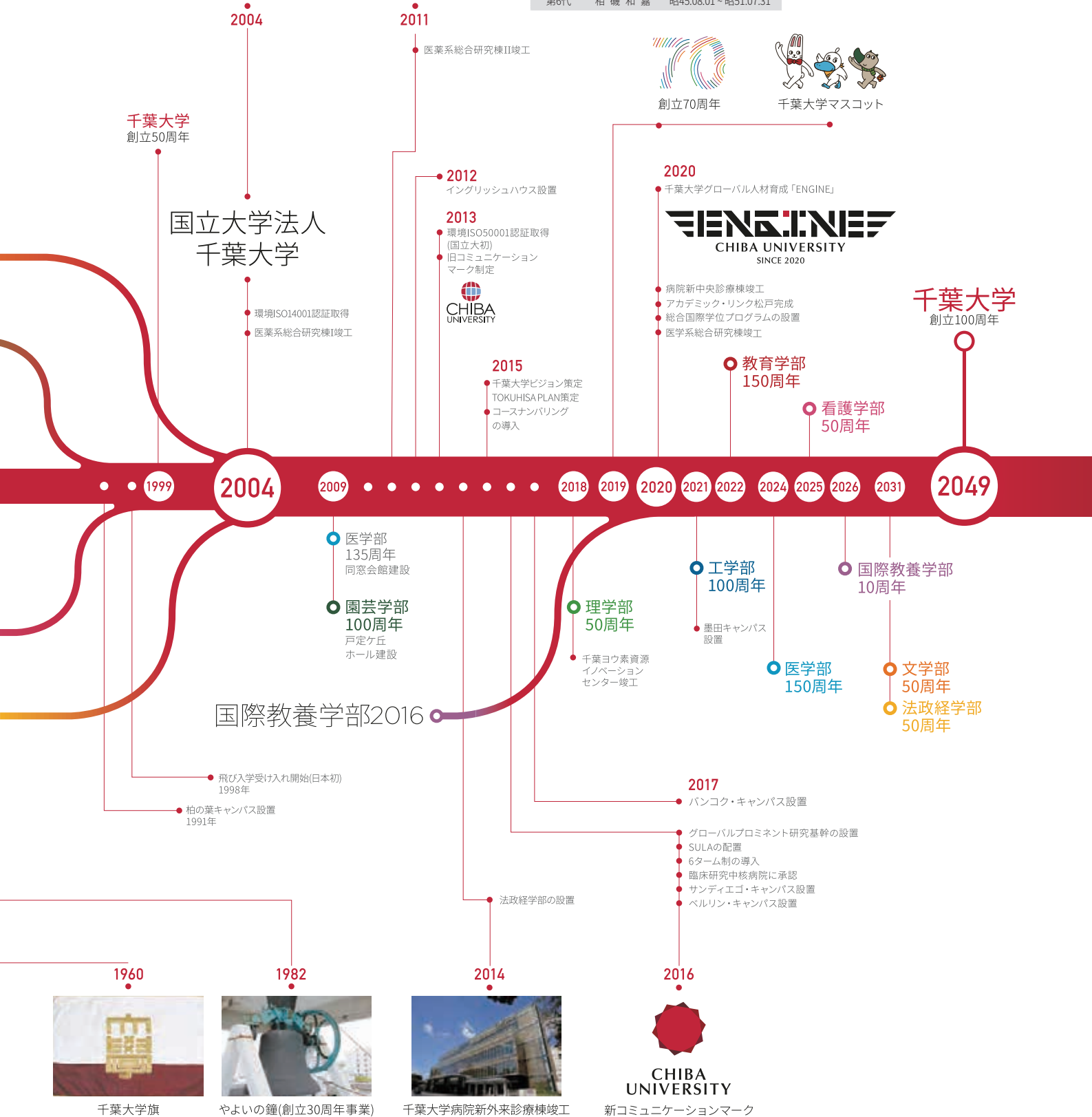
初代	小池 敬事	昭24.05.31~昭32.05.31	第7代	香月 秀雄	昭51.08.01~昭57.07.31
第2代	小林 政一	昭32.06.01~昭36.05.31	第8代	井出 源四郎	昭57.08.01~昭63.07.31
第3代	荒木 直躬	昭36.06.01~昭37.01.30	第9代	吉田 亮	昭63.08.01~平06.07.31
(事務取扱)	谷川 久治	昭37.01.30~昭37.03.01	第10代	丸山 工作	平06.08.01~平10.07.31
第4代	谷川 久治	昭37.03.02~昭43.03.01	第11代	磯野 可一	平10.08.01~平17.03.31
第5代	川喜田 愛郎	昭43.03.02~昭44.04.01	第12代	古在 豊樹	平17.04.01~平20.03.31
(事務取扱)	湊 顕	昭44.04.01~昭44.06.23	第13代	齋藤 康	平20.04.01~平26.03.31
(事務取扱)	香月 秀雄	昭44.06.24~昭45.07.31	第14代	徳久 剛史	平26.04.01~
第6代	相磯 和嘉	昭45.08.01~昭51.07.31			



理学系総合研究棟竣工



アカデミック・リンク・センター竣工



※図中の西暦は年度を表す。

## トピックス

### 学術研究・イノベーション推進機構 (IMO) 発足

詳しくはこちら ▶P.13



内閣府の「イノベーション創出環境強化事業」の令和元年度重点支援枠に採択され、2020年4月に学術研究・イノベーション推進機構 (IMO) を西千葉キャンパスに設置しました。研究支援と産学官連携機能の強化により、民間企業等からの資金獲得の増大と「イノベーション・エコシステム」の実現をめざします。

### 令和元年度卓越大学院プログラムに2プログラムが採択

詳しくはこちら ▶P.14



高度な知のプロフェッショナルとなる博士人材の育成を目的とした文部科学省事業「卓越大学院プログラム」に、「アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム」・「革新医療創生CHIBA卓越大学院」の2件が採択され、新たな大学院教育がスタートします。

### 植物分子科学研究センター、インテリジェント飛行センター 新設

詳しくはこちら ▶P.42-43



左:薬用植物の例 右:飛行生物の羽ばたきの解析

2019年10月、千葉大学の特色ある研究分野のさらなる発展をめざし、「植物分子科学研究センター (センター長:グローバルプロミネント研究基幹 齊藤和季 特任教授)」「大学院工学研究院附属インテリジェント飛行センター (センター長:大学院工学研究院 劉浩 教授)」の2つの研究拠点が新設されました。

### 「アカデミック・リンク松戸」竣工

詳しくはこちら ▶P.30



施設の中核となる附属図書館松戸分館は同年11月にオープン

附属図書館松戸分館、松戸地区事務課事務室、大学院園芸学研究科・園芸学部実験室の3つの機能を兼ね備えた「アカデミック・リンク松戸」が2019年7月、松戸キャンパスに竣工しました。整備にあたっては、同窓会や後援会をはじめとする皆さまからいただいたご寄付やクラウドファンディングが活用されました。

## 大学院総合国際学位プログラム 開設

詳しくはこちら▶P.37



社会課題と学術知を統合する高度な能力を有する人材を育成することを目的に、2020年4月に大学院総合国際学位プログラムが新しく設置されました。同大学院は全国で初の研究科等連係課程基本実施組織であり、人文公共学府と融合理工学府との緊密な関係及び協力のもと、既存の学問領域を横断した教育を実施します。

## 創立70周年記念シンポジウム 開催



前駐日パナマ共和国特命全権大使のRitter Nobel DIAZ GOMEZ千葉大学名誉博士による記念講演

2019年11月2日、西千葉キャンパスにて千葉大学創立70周年記念シンポジウム「千葉大学が挑むグローバル人材育成戦略」が開催されました。グローバル人材育成“ENGINE”をテーマとした講演のほか、卒業生によるダンスのパフォーマンスも催され、節目の年を祝うとともに千葉大学の更なる発展を祈念しました。

## 新型コロナウイルス感染症への千葉大学の対応

### 学生に3億円規模の支援体制

感染症拡大に伴う収入減などにより生活に支障を来している学生に向け、2020年5月に、総額3億円規模の緊急学生支援事業を実施しました。

### メディア授業の実施

メディア授業（インターネットを使った遠隔授業）を本格的に導入しました。困難をチャンスととらえ、新たな未来志向型の教育を提供していきます。

### 附属小中学校の取り組み

双方向型のオンライン学習やホームページを活用した学習支援など、全国の小中学校に先駆けて休校措置中の学習体制づくりに取り組みました。

### 附属病院の取り組み

新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行っている医学部附属病院では、2020年2月に新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、行政や関係各所と連携しながら様々な対策を実施。また、院内の安全確保を第一に、大学内で完結型の検査体制の整備や、職員等へのメンタルヘルス支援などにも力を入れています。



千葉大学グローバル人材育成  
—ENGINE—

千葉大学は、国際教養学部を中心に成果を上げてきている千葉大学のグローバル人材育成戦略を更に拡大展開するプランである「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”(Enhanced Network for Global Innovative Education)」を策定し、2020年度から新たに実施しています。このENGINEの推進により、発信力・自己表現力・コミュニケーション力を備えた世界で活躍する人材を育成します。

## ENGINEの取組

ENGINEでは、“学部・大学院生の全員留学”を目指して、留学プログラムや留学支援体制を強化するとともに、外国人教員の増員等による教育改革や留学中でも科目履修が継続出来る教育環境整備等を行います。具体的には、次の取組を行います。



## 01 海外留学環境の充実

国際的な感覚を身に付けることを主な目的とし、学部学生・大学院生ともに、留学を必修化します。

留学目的や語学力に合わせた多様なプログラムを全学及び部局で設置するとともに、留学支援職員を配置し、プログラム実施を支援します。

## 02 グローバル教育の充実

世界の共通語である英語について、多角的に学べる環境を提供します。

なお、リーディングとライティングは、論文レベルの授業を開講し、リスニングとスピーキングは、イングリッシュ・コミュニケーションを拡充し、実践型教育を実施します。また、外国人教員を新たに採用し、部局の特性に合わせた英語教育を行います。

## 03 スマートラーニングの実践

eラーニングを活用した教育システムである「スマートラーニング」により、いつでもどこでも学べる環境の整備を行います。

国際社会の様々な分野において真のリーダーとなるグローバル人材の育成



グローバル千葉大学の新生  
—Rising Chiba University—



千葉大学は、平成26年度文部科学省「スーパーグローバル大学等事業『スーパーグローバル大学創成支援』」のタイプB(グローバル化牽引型)に採択されました。本事業は、我が国の高等教育の国際競争力の向上のため、大学改革により徹底した国際化を進める世界レベルの教育研究を行うトップ大学や、国際化を牽引するグローバル大学に対して文部科学省が支援を行うものです。

スーパーグローバル大学創成支援への採択を受け、グローバル化教育のためには「人間力のある人材の育成」が必須であると再認識し、日本を理解し日本をアピールできるグローバルな人材を育成するための様々な取組を実施していきます。

## 01 人間力育成のための3つの力

千葉大学は人間力のある人材の育成を強化します。人間力とは、様々な事象を俯瞰し、そこからの新たな発見をもとに、エキスパートとして実践する力です。千葉大学はこの人間力がグローバル人材になるうえで大変重要な力であると考えています。

## 02 千葉大学を新生する4つの改革

- ・ガバナンス改革による新生
- ・学修制度の改革による新生
- ・プログラム改革による新生
- ・グローバル・ネットワーク改革による新生

## 03 千葉大学を新生する4つの独自目標753 (シチゴサン)+1(タスイチ)計画

- 7 — 700科目の英語での授業を実施
- 5 — 50%— 入学定員の半分(1,200人)が留学
- 3 — 3,000人の外国人留学生を受入
- 1 — 10%— 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

平成28年4月から、全学的にターム制  
(6ターム制)を導入

ターム制(6ターム制)を導入することにより、ギャップタームを創出し、留学、インターンシップやボランティア等、学生の多様な社会体験の機会を確保します。

新たな学修支援専門職“SULA”で  
テラーメード教育を実現

学修支援や関連する専門的業務を行う新しい専門職として“SULA(Super University Learning Administrator)”を創設しました。学生の学習計画・支援・実施・フォローを行い、個々のニーズに即したテラーメードな学修支援を行うことで、実質的な学修時間の確保に繋げていきます。

ショート・プログラム(サマー・ウィンタープログラム)で  
留学生数を拡大

海外からの短期留学生数を拡充するため、ショート・プログラムを実施しています。“Cool Japan”等、各学部・大学院による多彩で魅力的なコンテンツを開発し、多様なプログラムを提供していきます。

グローバル人材育成プログラム  
—skipwise(スキップワイズ)—

skipwise(スキップワイズ)は、学生の皆さんが将来グローバル人材として各方面で活躍できるよう応援するプログラムです。

skipwiseプログラムとは?



**S**kip & skip

飛び入学や早期卒業を駆使した多様な修業年数を持つグローバル・プログラムの実施

**K**nowledge stock

グローバル社会で活躍するための素養を身につける教育プログラム「国際日本学」の設置

**I**nternational support

イングリッシュ・ハウスの活用、コミュニケーション英語の実施、海外留学情報の提供・支援

**P**rofessional experience

国際的なインターンシップやボランティア活動への参加支援

<https://www.ccr.chiba-u.jp>

イノベーション創出のための新たな産学官連携拠点



千葉大学は、内閣府の「イノベーション創出環境強化事業」の一環で、2020年4月に学術研究・イノベーション推進機構 (Academic Research & Innovation Management Organization: IMO) を西千葉キャンパスに設置しました。IMOはこれまで千葉大学の研究推進・産学官連携を担ってきた学術研究推進機構の機能と役割をさらに発展させ、研究推進・産学官連携に必要な機能をワンループに集約し、研究推進基盤やベンチャー支援の体制を強化することで、千葉大学発のイノベーション創出を推進します。

千葉大学は、内閣府の「イノベーション創出環境強化事業」の一環で、2020年4月に学術研究・イノベーション推進機構 (Academic Research & Innovation Management Organization: IMO) を西千葉キャンパスに設置しました。IMOはこれまで千葉大学の研究推進・産学官連携を担ってきた学術研究推進機構の機能と役割をさらに発展させ、研究推進・産学官連携に必要な機能をワンループに集約し、研究推進基盤やベンチャー支援の体制を強化することで、千葉大学発のイノベーション創出を推進します。

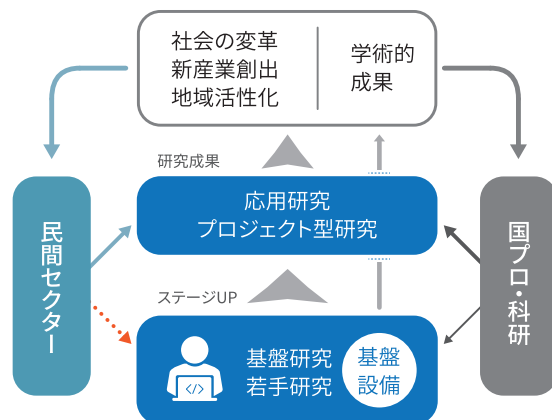


2021年度初めにオープン予定のIMO施設イメージ

イノベーション・エコシステムの創出をめざして

IMOは、研究支援と産学官連携機能の強化により、民間企業等からの資金獲得の増大をめざしています。千葉大学の研究成果や技術・知的財産を活かした共同研究や受託研究を実施することで、外部資金の流入を促します。そして、間接経費や戦略的産学連携経費等として得られた新たな財源の一部を基盤研究の支援に充てることで、次世代に向けた新たなシーズを育成し、ベンチャー支援、地域産業との連携強化などを推進します。この取り組みにより、新たなシーズが応用研究・プロジェクト型研究へと発展し、その研究が新たな資金を呼び込む「イノベーション・エコシステム」を実現させることをめざしています。

IMO イノベーション・エコシステム



イノベーション創出のためのスペースの提供

IMOでは、戦略・IR部門、学術研究基盤支援部門、プロジェクト推進部門、管理・リスクマネジメント部門、知財・技術移転戦略部門の5つの部門が連携をとって、イノベーション創出を推進します。また、西千葉キャンパスの建物を改修し、「オープン・イノベーション・スペース」と「プロジェクト推進スペース」の設置を進めています。2021年度初めに完成予定のこれらのスペースを、ベンチャー支援、組織を超えた連携によるオープンイノベーション、研究推進・交流、企業誘致の拠点などとして活用していきます。これらの組織とスペースの機能により、千葉大学や周辺教育機関の教員・研究者・学生に加え、地域の民間企業研究者、ベンチャー関係者、個人起業家、周辺自治体関係者などのネットワークや協働を促進し、共同研究等によるイノベーション創出を加速させていきます。



IMOのオープン・イノベーション・スペース (イメージ)

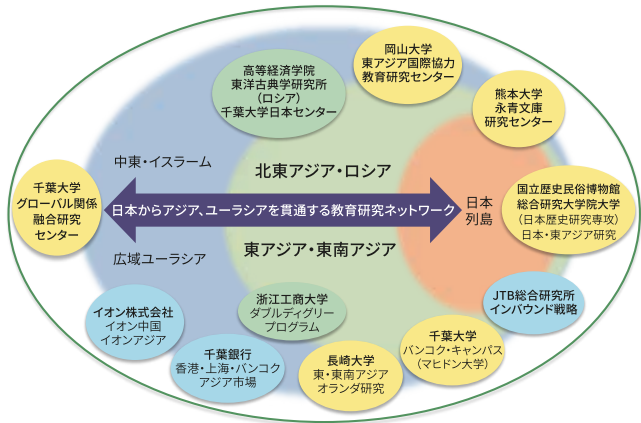
卓越大学院プログラムとは

各大学が自身の強みを核に、国内外の大学・研究機関・民間企業等と組織的な連携を行いつつ、世界最高水準の教育力・研究力を結集した5年一貫の博士課程学位プログラムを構築することで、新たな知の創造と活用を主導し、時代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材(高度な「知のプロフェッショナル」)を育成することを目的とする事業です。

01 アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム

本プログラムでは、大学院人文公共学府を中心として、国内外に構築された幅広いネットワークのもと、「臨床人文学」大学院教育を創生します。教育の焦点は第1に、多元的世界の中から未来社会に向けたあらゆる課題が生起している実験場＝「課題先進地域」としての『アジアユーラシア』であり、第2に、社会調査統計、多言語対応テキストマイニング(計量テキスト分析)及びGIS(地理情報システム)を3つの柱とした人文的データサイエンスの技法(Digital Humanities)です。アジアユーラシア地域の文化と感性の壁に分け入るミクロな観点・技法と、データサイエンスから俯瞰するマクロな観点・技法(Digital Humanities)とを、二つながら統合的に修得することにより、変化してやまない世界に対処する力を備え、これからのダイバーシティ環境をリードしていく人材の養成を目指しています。

国内外の多様な機関の横断的連携ネットワークによるアジアユーラシアの統合的俯瞰



02 革新医療創生CHIBA卓越大学院

本プログラムでは、100年以上の医学教育の伝統と、医学と薬学を融合させた日本初の大学院医学薬学府が中心となり、理化学研究所とカリフォルニア大学サンディエゴ校(UC San Diego)などの世界トップ研究機関や多数の企業と連携し、新しい大学院教育「クラスター制CHIBA教育システム」を実施します。様々な分野のトップの大学院生が、所属機関や部局等の既成の枠を越えて組織された6つの教育研究クラスターの複数クラスターで学修し、主体的に自ら切磋琢磨することで、学生の主体性を伸ばし、俯瞰力と多角的な視点、柔軟な思考力、イノベーションマインド、失敗を恐れないスピリッツとレジリエンスを涵養し、新たな「医学の知」の創出者、革新的な治療薬や治療法を開発するイノベーター、医療格差などの社会の歪みを正すリーダーを育成します。

革新医療創生 CHIBA 卓越大学院





大学と産業が連携し、革新的・持続的イノベーションを創出していくことの必要性が高まる中、千葉大学では学内にオープンイノベーション拠点を形成し、複数の企業等との連携を推進しています。

## 千葉ヨウ素資源イノベーションセンター (CIRIC)

ヨウ素世界シェアの約21%を産出する千葉県の地域特性を活かし、千葉県から世界へ発信する新しい高付加価値ヨウ素製品の開発と、地域経済の活性化を目的として、2018年6月に新たな研究拠点「千葉ヨウ素資源イノベーションセンター: Chiba Iodine Resource Innovation Center (CIRIC)」を開設しました。

ヨウ素関連企業4社を誘致し、本学と5者合同の包括連携協定を締結するとともに、最先端の研究開発に日々取り組んでおり、既に特許共願7件、論文5報などの実績を上げ、2020年5月には世界初の触媒の不斉ヨードエステル化の成功についてプレスリリースを発信しています。



## Well Active Community(WACo)共創コンソーシアム

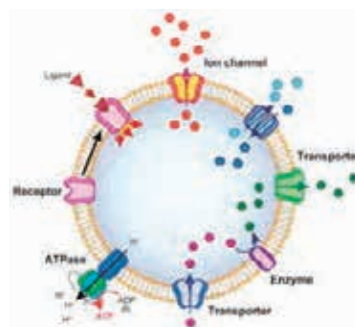
本人が意識的努力をせずとも、暮らしているだけで健康で活動的になるコミュニティの創出を目指す研究プロジェクトが、科学技術振興機構(JST)が公募した平成30年度「産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA)」に採択され、参画した複数の連携企業とコンソーシアムを設立しました。

本コンソーシアムでは、学問的挑戦性と産業的革新性を併せ持つ社会的インパクトの高い「新たな価値」の創出を目指すとともに、「健康まちづくり」をテーマとし

て多岐に亘る広がりのある取組を進めており、令和2年度から4年間、総予算が約3億円/年となる大規模プロジェクトに発展しました。



## 膜タンパク質研究コンソーシアム



### 【膜タンパク質の役割】

- ・外からの情報伝達(光、温度、ホルモン)
- ・物質(栄養素・代謝物)の輸送
- ・生体エネルギー産生・変換

などの細胞(生体)維持活動において必須

膜タンパク質とは生物の細胞膜に存在し、細胞と外部の物質輸送や五感のセンサーとしての役割を果たすタンパク質で、人間の場合は約1万種類が存在すると言われていま

す。その構造を詳細に解明することにより、創薬や農業など様々な分野で社会的インパクトの大きい成果が期待できます。例えば、膜タンパク質を介して感染するタイプのウイルスに対しても、ウイルスの進化に左右されない画期的な新薬が創出できる可能性があります。

ただ、その構造の脆さや耐熱性の低さにより、構造解析に必要な膜タンパク質を取り出すことが困難であり、世界的にもこれらの研究は進んでいません。千葉大学では、クリーンな膜タンパク質を取り出して大量精製する独自の技術を保有しており、その技術を使って膜タンパク質の研究を行うための企業とのコンソーシアム形成を予定しています。

本学の研究戦略

本学では、学長のリーダーシップの下、「人文社会科学系、理工学系及び生命科学系の3分野における世界レベルの研究(研究三峰)」及び「次世代を担うイノベーションの創出」を推進するとともに、国立大学に対する社会的な要請である「イノベーション創出人材の育成」や「融合分野・新領域創出の基礎となる幅広く多様な学術研究の継承・発展」等への貢献を目的とする戦略(「グローバルプロミネント研究基幹による独創的な次世代研究の創出と戦略的推進」)を策定しています。

グローバルプロミネント研究基幹の設置

第3期中期目標期間中において当該戦略を着実に実施し、本学の研究の核となる新規性・独創性を備えた多様で発展性のある研究群を長期間に渡り継続的に創出するシステムとして、平成28年4月に「グローバルプロミネント研究基幹(以下「GP基幹」という)」を設置しました。GP基幹では、研究IR(Institutional Research)によって明らかとなった本学の戦略的・重点的推進研究分野において、分野横断的に実施される先導プロジェクトを推進するとともに、当該プロジェクトへの重点的な支援を行っています。

グローバルプロミネント研究基幹の概要

GP基幹には、世界レベルの研究の創出とそれに基づく国際的卓越研究拠点の形成を進める①「研究部門」及び、次なる本学の重点推進分野を育成する②「次世代研究インキュベータ」の二階層の研究推進部門を設けており、双方に複数の研究プロジェクトを配置しています。

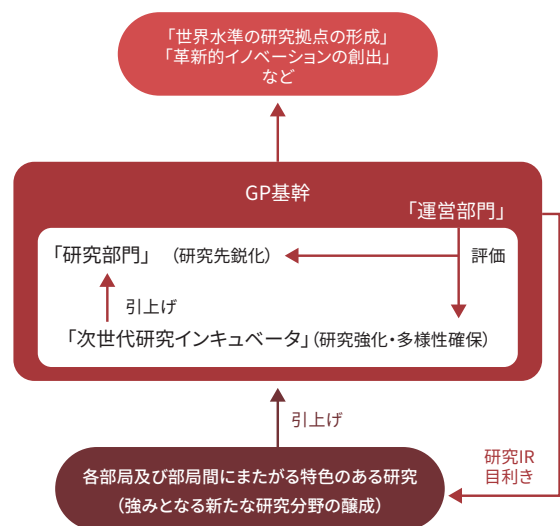
**01 研究部門** 本学の研究の核となる「重点推進分野」として、トップダウン方式により指定した研究分野の中から選定した3つの先鋭的研究プロジェクト群で構成されています。このプロジェクト群では、世界トップクラスの国内外研究者が参画して研究を加速させ、国内外の先端研究拠点とのネットワークを構築することにより、

「世界水準の研究拠点の構築」や「革新的イノベーションの創出」を目指しています。

**02 次世代研究インキュベータ** 研究の強化と多様性の確保を目的として、若手・中堅研究者が中心となって推進する研究推進構想のうち、本学の次世代の重点推進分野となり得る研究分野をボトムアップ方式により選定・育成しています。

GP基幹では、世界レベルの研究の創出とそれに基づく国際的卓越研究拠点の形成を実現するための研究強化手段として「戦略的重点研究強化プログラム」及び「リーディング研究育成プログラム」を運営しています。両プログラムを通して、学長のリーダーシップによってGP基幹に集約された学内資源(研究人材、機器、研究資金、研究スペース、時間)を各プロジェクトに対して配分しています。この支援は、研究推進構想の進捗状況と評価結果を踏まえた「オーダーメイド方式」による重点支援となっています。

このほか、国際レベルの若手研究人材を育成するプログラムや、GP基幹を総括し、研究プロジェクトの審査・評価、分野分析・目利き、研究資源の集約・重点配分、PDCAサイクルを実践する運営部門を設置しており、これらを一体的に機能させることにより、本学の研究力の強化を目指しています。

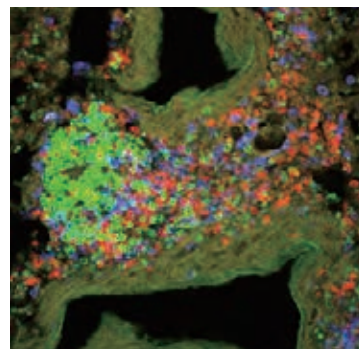


本学の「強み・特色」研究の中から、学長が指定したプロジェクトに対して、重点的な支援を行っています。これにより、先端的研究拠点とのネットワーク構築と国際共同研究の推進、外部資金の獲得による研究力強化を行い、国際的卓越研究拠点の形成を目指します。

## 国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究拠点形成事業

大学院医学研究院 教授 中山 俊憲

本プロジェクトは粘膜免疫の理論・技術を基盤とし、感染症・アレルギー・癌等の新規予防・治療法を開発研究する新しい学術領域「粘膜免疫・アレルギー治療学」を創成することを目的としています。現在の注射型ワクチンは、疾病の重症化を押しとどめるだけで、体を感染から十分に守ることはできません。本プロジェクトが開発に着手するワクチンは、病原体の入口である粘膜において免疫力を上げ、病原体の感染そのものを止めることができる「病気にかからない予防ワクチン」であり、完成すれば、「世界初となる次世代型粘膜ワクチン」となります。平成28年4月に設置したカリフォルニア大学サンディエゴ校(UC San Diego)の「サンディエゴ研究センター」、及び、千葉大学亥鼻キャンパスの「千葉研究センター」を研究拠点とし、日本及び全米規模での臨床試験等を行い、10年後を目途に新規治療法の開発を目指します。



肺内の誘導性気管支関連リンパ組織(iBALT)の免疫蛍光顕微鏡写真

## 世界最高感度のニュートリノ観測と数値シミュレーションで切り拓く高エネルギーハドロン宇宙国際研究拠点形成

大学院理学研究院 教授 吉田 滋

ハドロン宇宙国際研究センターは、「ニュートリノ天文学」と「プラズマ宇宙研究」の2部門により、ニュートリノ探索と理論シミュレーション研究との連携で超高エネルギーハドロン放射源と粒子加速メカニズム解明を目的としています。

「ニュートリノ天文学」部門では、南極点のIceCube国際共同実験に日本から唯一参加し、2022年に建設が始まるIceCubeアップグレード計画に向け、新型検出器「D-Egg」の製造に着手しています。ニュートリノ天文学の進展により可能となったマルチメッセンジャー観測を用い、宇宙線放射源天体特定にも成功しました。

「プラズマ宇宙研究」部門では、「宇宙エンジン」候補天体がどのようにジェットを噴出し、光を放射しているのかをシミュレーションしています。日本の新フラグシップ計算機「富岳」ではニュートリノが発生する環境を計算機内に生み出せると期待され、IceCube観測で得た検出結果をもとに模擬実験が可能になります。宇宙の解明に向け研究に取り組んでいます。

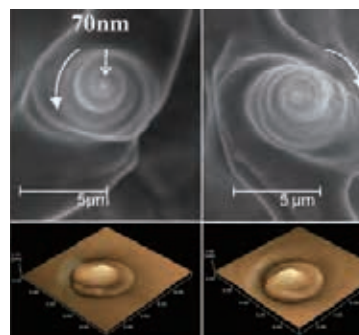


Hunter Davis, IceCube / NSF

## キラリな光で拓く革新的物質科学

大学院工学研究院 教授 尾松 孝茂

キラリティーとは構成要素が同じなのに立体構造(右手系)がその鏡像(左手系)と空間的に重ならないという異なる性質のことで、キラリティーのある物質の右手系あるいは左手系だけを完全に創り分けることがこの研究のテーマです。不思議なことに身体の中のアミノ酸は左手系しかなく、糖類は右手系しかありません。これはホモキラリティーの謎といわれ、生命科学の大きな謎です。千葉大学では光のキラリティーがナノの空間( $10^{-9}$ m)で物質を螺旋の構造へ変形させる(キラリティーのない均質な物質をキラリティーのある物質に変形させる)ことを発見しました。原理的には右手系あるいは左手系の物質だけを100%創り分けることも不可能ではありません。キラリティーによって物質の特性は劇的に変化するので、エレクトロニクスやエネルギー技術を大きく進歩させる夢の素材ができたり、化学薬品の製造プロセスが激変させコスト低減ができるかもしれません。



左手系

右手系

## ファイトケミカル植物分子科学

グローバルプロミネント研究基幹 特任教授 齊藤 和季

植物が作る多様な化学成分(ファイトケミカル)は、葉や食品、燃料、工業原料などに使われ、人間の生命を支えています。本来、植物化学成分は、外敵に対する植物の防御や繁殖などのために作られた物質です。本研究プロジェクトは、この植物化学成分に関する分子科学的な原理を明らかにします。多様なファイトケミカルは、どのように植物ゲノムの機能によって作られ、その植物ゲノムはどのような多様性と普遍性を有しているのか、これらのファイトケミカルはどのような化学構造を有し、どのような生物機能を発現するのか、さらに、これらのゲノム遺伝子の発現やファイトケミカルの生産は、どのように環境に応答して変化するかを解明します。研究成果は、植物成分による新しい医薬品や試薬の開発、健康機能食品の開発、化粧品・香料・燃料などの工業原料に応用して、私たちの生活を豊かにします。

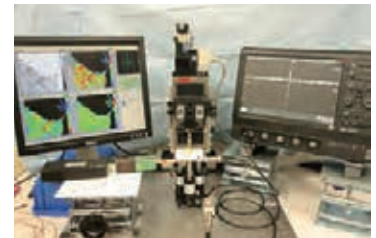


薬用植物の赤ジソと青ジソ

## マルチモーダル計測医工学

フロンティア医工学センター 教授 羽石 秀昭

CTやMRI、超音波などの診断装置をモダリティと呼びます。この研究プロジェクトでは、これら様々なモダリティを使い、病気によって引き起こされる細胞サイズから臓器サイズまでの多様な体内の変化について、どこで何が起きているのかを工学技術で解明し、関係性を明確にしていけます。また、これらの知見を利用して、最終的に高精度で低侵襲な診断・治療の実現を目指しています。例えば、固形がんなどの疾患を対象に、超音波、MRI、光などを用いて物性・構造・機能を計測し、それらを横断的・階層的に解析する研究を行っています。また計測装置自体や信号処理・画像処理手法についても新たに開発しています。本プロジェクトはまた、「マルチモーダル計測医工学の国際拠点形成」として日本学術振興会の平成29年度研究拠点形成事業(5年間)に採択され、フィンランド、タイ、中国、カナダ、米国、フランス、ニュージーランドとの共同研究を活発に進めています。



超音波生体音響特性解析システム：  
数KHzから数GHzまでのさまざまな周波数の超音波を使用して、体内の生体組織から培養細胞までの音響特性を解析することができる。

## 先端マイクロ波リモートセンシング拠点形成

環境リモートセンシング研究センター 教授 ヨサファット・テトオコ・スリ・スマンティヨ

本研究プロジェクトでは小型衛星群による大陸規模地殻変動と環境の観測を目的として、100kg級の人工衛星の開発に取り組んでいます。この小型衛星には、我々が独自に開発した円偏波合成開口レーダ(CP-SAR)と呼ばれるセンサを搭載します。このセンサで用いるマイクロ波は雲、霧、煙などを通過するため、曇天や夜間に関係なく観測できます。したがって、24時間全天候型のセンサであることが大きな利点です。本事業では、CP-SARの性能を確認するために、CN235機に搭載した飛行実証実験により、世界初の円偏波画像の取得に成功しました。私達の第2期中期目標期間内での実績は、世界に先駆け小型・軽量、且つ円偏波を送信できるCP-SARを開発したことです。本拠点では、令和3年度までにグローバル環境・災害観測用の小型衛星CP-SAR及び運用ネットワークを実現するため、国内外のSAR画像信号処理、応用等の関連研究者の人材交流を推進し、グローバル災害・環境監視に役立てます。



本研究で開発した円偏波合成開口レーダ(CP-SAR)搭載小型衛星・航空機・大型無人航空機(①~③)、2018年3月14日のCN235機の飛行実証実験により得られたCP-SARによる世界初の円偏波画像(④)

近い将来に本学の研究の核となり得る重点研究グループを創出することを目的として、世界水準の研究を推進する中堅・若手研究グループから推進対象を選定して多面的な支援を行い、研究型総合大学を志向する本学の強み・特色の強化と多様性を確保します。

### ○ 千葉大発ナノDDSによる RNA創薬プラットフォームの実装

大学院薬学研究院 教授 秋田 英万



ヒトのゲノム情報を治療に生かす『個別化医療』の概念が広がっており、癌の進展を抑制する

ための治療標的の同定がすすめられています。標的細胞に移入する遺伝子治療や、特定の遺伝子の発現を抑制する核酸治療は、個別化医療や癌免疫医療を実現するための有力な技術となります。本研究プログラムでは、遺伝子や核酸を『くすり』として利用するための千葉大発の技術として、疾患臓器、さらには細胞内の特定の小器官まで分子を送達するための、ナノサイズに制御された『ドラッグ・デリバリー・システム(ナノDDS)』の開発をめざしています。

### ○ 小地域推定の統計手法開発と 貧困・公衆衛生・災害などへの応用

大学院社会科学研究院 准教授 小林 弦矢

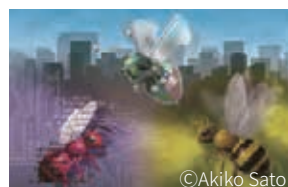


本計画の目標は、小地域推定と呼ばれる統計学分野におけるモデル開発・理論解析とその結果を貧

困・疾病・災害といった社会科学において特に重要な問題へ応用することです。また、国内外の研究者および中央省庁と連携し、研究ネットワークの構築および社会実装を目指しています。本計画を推進することで、社会科学の応用分野において、小地域推定手法を用いた実証分析の有用性の認識、関連研究の創出が期待されます。また、長期的には日本の官庁統計が小地域推定を導入するきっかけをつくることが期待されます。

### ○ 生物規範工学:昆虫が拓くビッグ・イノベーション

大学院工学研究院 教授 劉 浩



ロボスト・知能的・衝突に強い次世代ドローンへのバイオメテックス設計指針の確立や社会実装を目指して、昆

虫飛行の多機能計測システム“リアル昆虫”、力学や神経・筋骨格系制御系などの多物理統合シミュレータ“バーチャル昆虫”、自律型飛行ロボット“ロボ昆虫”の三位一体生物規範飛行システム・プラットフォームを開発するとともに、生物飛行のロボストネス、知能性及び柔軟構造多機能性を、機械工学、材料科学、生物学及び情報科学の多方面から総合的に解明します。

### ○ 心理学・精神科学の文理横断橋渡し研究拠点

大学院医学研究院 教授 清水 栄司

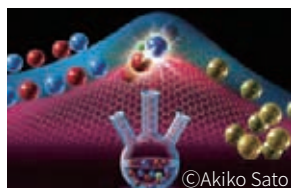


文系の心理学と理系の精神科学が統合されていない日本独自の壁を壊し、知覚心理学、認知心理学、社会心理学、

発達心理学、教育心理学、司法犯罪心理学、臨床心理学、精神医学、児童精神医学という基礎から応用までの心理精神科学を千葉大学全体で研究していきます。発達段階に応じた幅広い年代のヒトを対象としたこのころのデータを収集しつつ、薬物療法に勝るとも劣らぬ医学的根拠を有する精神療法である認知行動療法を活用したこのころの健康を向上させるシステムを開発し、国内外へ情報発信を行う大規模な心理精神科学に関する研究拠点を形成します。

### ○ 先導的ソフト分子の活性化と機能創製

大学院理学研究院 教授 荒井 孝義



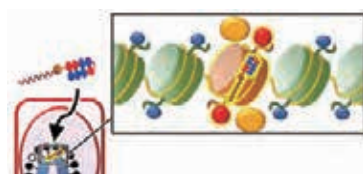
本プログラムでは、千葉大学の誇る触媒化学、分析化学、マテリアルサイエンスを融合し、新規な機能性ソフト分子の

創製を目指しています。例えば、医薬の開発では化合物中にソフトなイオウやリンを導入することで薬理活性が向上します。しかしながら、従来の合成手法は反応性の問題により、制約の大きいものでした。

私たちは、ソフトなヨウ素や後周期遷移金属の特性をπ-電子系やナノ粒子系など新たな反応場に活かすことで、学術的にも新しい次世代の機能創製研究を推進しています。

### ○ 癌の本態解明および臨床応用へ向けた小分子開発を行う癌エピゲノム拠点

大学院医学研究院 教授 金田 篤志



癌の原因となるエピゲノム異常部位とその書き換え

ゲノムDNA情報のどの部分を細胞が利用しどの部分を利用しないのかをマーク

したゲノム修飾情報や、ゲノム同士の立体的な近接構造など3次元ゲノム構造は、エピゲノムと総称され遺伝情報を制御し細胞の性質を決定する重要な情報となります。本研究拠点ではこのエピゲノムに焦点を当て、感染、炎症、加齢など様々な環境因子がどうしてエピゲノム状態をおかしくするのか、ゲノムDNAそのものに異常がないのにどのように癌化を促し、エピゲノム異常をどうやって元に戻して治療に応用できるか、医・理・薬学の専門家が他機関と融合して研究・開発する拠点を形成しています。

### ○ 学際的社会科学による未来型公正社会研究

大学院社会科学研究院 教授 水島 治郎

20世紀末以降、グローバル化や少子高齢化といったマクロな構造変化を経て、従来の福祉国家型の体制は



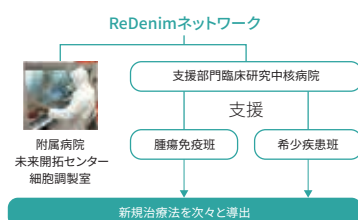
2018年12月に第5回「グローバルな福祉社会の構想力」を開催しました

再編を迫られています。本研究育成プログラムは、格差拡大、ジェンダーの不平等、人権侵害、難民や外国人労働

者、越境的環境汚染など、グローバルに生じている「不公正」を正面から取り上げ、「21世紀の公正」の在り方を模索します。特に、海外研究者との研究ネットワークの構築に力を入れ、国際シンポジウムを毎年主催しています。

### ○ 免疫関連希少・難治性疾患に対する革新的治療創生研究

大学院医学研究院 教授 本橋 新一郎



希少疾患とは相対的に罹患患者数の少ない疾患で、遺伝性疾患、小児がんや稀な感染症、自己免

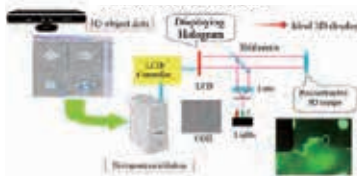
疫疾患など多様な疾患を含みます。希少疾患であるが故に診療機会が少なく基礎研究が進まないため、ほとんどの希少疾患には有効な治療法がありません。難治性疾患の代表はがんであり、進行・再発がんでは未だに完治は困難です。希少・難治性疾患に対する革新的治療創生研究ネットワーク(Research and Development Network of Innovative Medicine for rare and intractable diseases, ReDenim)では、基礎研究の成果から実施する臨床試験の経験を共有・支援することで新規治療法開発を加速します。

### ○ 次世代3次元映像計測技術の創成と応用

大学院工学研究院 教授 下馬場 朋禄

本グループが得意とする計算技術を背景に、計算機ホログラフィを利用した次世代3次元映像及び3次元計測技術の研究開発を行っています。具体的には、3次元テレビジョン、超高速光イメージングなど、次世代映像計測技術において多くの研究開発を推進していま

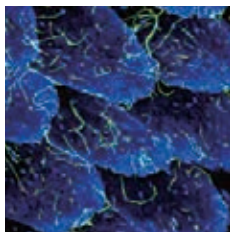
### ホログラフィックディスプレイ



す。また、「異なる方向から見ると異なる映像が見える」という指向性を持ったボリュームディスプレイの開発も行っています。この研究は静止画の研究から始まり、動画（映像化）へ進み、さらには、世界初の光制御によるボリュームディスプレイへと急速に発展しています。

### ○ “超個体”の統合的理解に基づく次世代型「感染制御学」研究推進地点

真菌医学研究センター 教授 米山 光俊



腸管上皮細胞(青)と常在するセグメント細菌(緑)

近年の研究から、我々は様々な微生物（細菌や真菌など）と共存し、それらとの相互作用を介して個体としての恒常性を維持していることが明らかになっています。本プログラムでは、ヒト個体を共生微生物との集合体である“超個体”として捉え、免疫システムと共生微生物との相互作用や病原体による恒常性の攪乱と感染症発症などについての基礎研究を各種臓器でのモデル実験系を用いて解析し、それらの知見を統合的に理解する次世代型「感染制御学」を行うことで、健康維持と感染症克服へつながる新規イノベーション創生を目指しています。

### ○ 先進的骨伝導技術を基盤としたコミュニケーション促進機器の研究開発

フロンティア医工学センター 教授 中川 誠司

骨伝導は一部の難聴者のための補聴手段として用いられてきましたが、耳孔を塞がない、騒音に強いという利点を併せ持っており、様々な生活場面への応用が期待されています。一方、その知覚・伝搬メカニズムの詳細には不明な点が多く、効率的な応用開発が行われない原因となっていました。本プロジェクトでは、骨伝導メカニズムの高度な理解に基づき、本学が有する先進的骨伝導技術の深化を図ります。また、重度難聴者

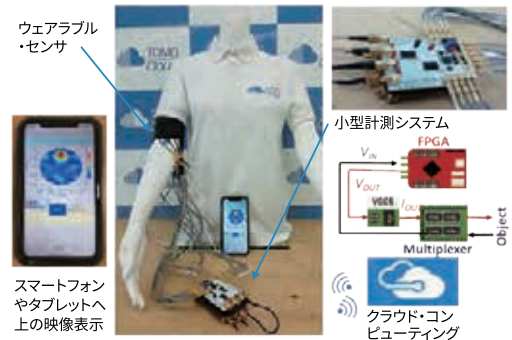
用の補聴器や騒音下でも聞きやすいスマートホン、特定相手に選択的に音情報を呈示可能な新型デバイスなど、多様なコミュニケーション機器への応用に取り組みます。



騒音下でも聞きやすい骨伝導スマートホン

### ○ IoTリンパ浮腫モニタの実用化による早期診断・治療と病態の解明

大学院工学研究院 教授 武居 昌宏

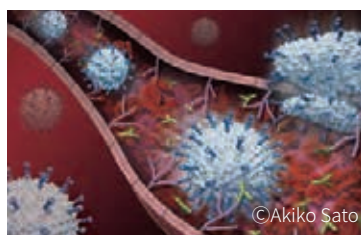


上肢や下肢に堆積するリンパ浮腫初期のタンパク質濃度を、極低侵襲、3Dでリアルタイムに、スマートフォン上に可視化計測できるリンパ浮腫トモグラフィック・モニタ(LTモニタ)を開発しました。このコア技術は、ウェアラブル・センサ、電気トモグラフィ、機械学習、および、クラウド・コンピューティングからなります。本LTモニタにより、上肢や下肢の3D断面画像を家庭で手軽にスマートフォン上に提供することで、リンパ浮腫の早期発見を容易にし、さらに、効果が分かりづらかったセルフマッサージ効果を可視化できます。

### ○ 千葉大学糖鎖創薬研究拠点の創薬シーズ探索への展開

大学院薬学研究院 教授 川島 博人

糖鎖は、免疫疾患やがんなどの疾患において様々な機能を果たし、抗体医薬等の分子標的薬の創薬標的として有望です。しかし、これまでの抗体医薬の多くはタンパク質を標的とし、糖鎖を標的とした抗体医薬開



抗糖鎖抗体による免疫細胞の体内動態の制御

発の前例はありません。本研究プログラムでは、千葉大学における糖鎖関連研究者を中心に「糖鎖創薬研究拠点」を形成し、独自開発した抗糖鎖モノクローナル抗体作製技術を基盤として、糖鎖の生理学的・病理学的な機能を解明するとともに、抗糖鎖抗体医薬や合成糖鎖分子などの新規創薬シーズを開発し、大学発創薬への展開を目指します。

### ○ 質感・情動イメージングの創成

大学院工学研究院 准教授 津村 徳道



©Akiko Sato

オンラインサービスの発展に伴い、画像・映像を活用した産業の活性化・高効率化が進んでいます。しかし、モニタ上の商品画像と実際の商品の質感が異なるという問題が生じており、質感を正確に再現するための質感イメージング技術の実用化は急務です。また、オンラインサービスは商品の販売に限らず、コミュニケーションツールとしても広く利用されており、表情の質感だけでなく、情動を解析・再現するための情動イメージング技術も求められています。本プロジェクトでは、ビッグデータ、AIを駆使して質感・情動イメージング技術を開発し、産業応用しています。

### ○ 日本の多文化共生社会構築へ向けた

移民・難民研究

大学院社会科学研究院 教授 小川 玲子

グローバル化の進展に伴う移民や難民の増加は、世界各地で様々な問題を生じさせており、人の移動にかかわる政策や制度、社会経済的影響、差別や社会運動をめぐる研究が活発化しています。日本においても外国人労働者に対する依存度は高まっており、外国につながる子どもの教育や地域社会における共生の課題



を生み出しています。本研究は、グローバルな人の移動とローカルな実践を結び、移動の背景やネットワーク、

暴力やアイデンティティ、雇用や教育について包括的に明らかにし、千葉をフィールドとして多文化共生のための課題を模索します。

### ○ 生命金属の統合的理解と革新的利用の研究拠点形成

大学院薬学研究院 教授 小椋 康光



©Akiko Sato

私たちの身体を元素という観点からみると、周期表の上半分(第四周期まで)の元素でほぼ構成されてい

ます。また多くの医薬品も上半分の元素で構成されています。一方、多くのIT機器の部品などには下半分(第五周期以下)の元素が使われています。つまり、上半分の元素は生体となじみの深い元素であり、下半分は有用な工業材料と言えます。本プログラムでは、工業的に有用であっても生体になじみの薄い元素が、生体にとってどのような影響を及ぼすのかを理解し、そして革新的な創薬・診断のための素材として応用可能なのかを明らかにしていきます。



世界展開力強化事業とは

大学の世界展開力強化事業は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行うアジア・米国・欧州の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的として、文部科学省において平成23年度から開始された事業です。

**01** 新たな学びを実現し、専攻を自ら創造できる人材を育成  
COIL※を使用した日米ユニーク・プログラム (JUSU)



千葉大学と米国4大学の特色や強みを活かしたユニークな分野で、オンラインを

活用しながら、アクティブラーニング型講義を展開します。日米の学生が各専門分野を教え合う双方向協働教育を行うことで、自分の専門にとらわれることのない学びを実現できる人材を育成します。

※COIL: オンライン国際協働学習  
事業支援期間: 平成30~令和4年度

**02** 未来農業のスペシャリストを育成  
極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成プログラム (FARM)



未来農業は、生産過程に加えて、流通・消費などを含めた「次世代6次産業」を体現するものであるため、極東ロシアにおいて食料生産から流通・販売ビジネスまで含めた未来農業を理解でき、日露の共同事業に貢献できる人材を育成します。

事業支援期間: 平成29~令和3年度

**03** 農学+工学のイノベーション人材を育成  
植物環境イノベーションプログラム (CAPE)



Campus  
Asia  
Plant  
Environment innovation

植物環境に関わる産業は、第6次産業に第4次産業も加わり進化する事が予測できるため、中国・韓国の3大学と連携し、園芸学(農学)と工学の両方の領域に長けた、植物環境のイノベーションを企画・提案・実施できる人材を育成します。

事業支援期間: 平成28~令和2年度

世界展開力強化事業が前身となったプログラム

**04** 中米と未来の生活を考える!  
ポスト・アーバン・リビング・イノベーション・プログラム (PULI)



未来の快適な都市を、メキシコやパナマの学生と創造する、本学の世界展開力強化事業で初の全学型プログラムです。文系・理系の人材が協働し、企業と同じプロセスでプログラムを実施します。現在8つのプロジェクトが行われています。また大学発のコンサルティング会社の起業を目指します。

**05** ASEANで教育体験!  
ツイン型学生派遣プログラム (TWINCLE)



教育学(部)研究科と他学(部)研究科の学生がペアを組んでASEAN諸国を訪問し、現地の小中高等学校で先生となり、本学で行われる先端科学研究や日本文化についての授業・実験をすることにより、グローバルマインドを持った人材(教員・研究者)を育成します。平成24-28年度事業に採択され、最終評価において、ASEAN諸国の架け橋となる人材育成を行う事業として「S」評価を獲得しました。現在は、大学独自の全学型プログラムとして令和元年度末時点で1,000人を超える学生交流を実施しています。

**06** 日米欧でデザインを学ぶ!  
大陸間デザイン教育プログラム (CODE)



学部3.5年+修士2.5年の6年間の学修年限の中で、1年間米国+欧州に留学してデザインを学びます。各国の特徴あるデザイン教育を通し、将来の産業を創成するグローバルなデザイナーを育成します。平成23-27年度事業に採択され、最終S評価を受けました。現在は、デザイン・コースの独自プログラムとして実施しています。

<https://www.cfs.chiba-u.jp/>

- <文学部>
- <理学部>
- <工学部>
- <園芸学部>

## 先進科学プログラムとは

先進科学プログラムは、高校2年修了後に大学に入学(春入学)または高校3年9月から入学(秋入学)し、早くから科学分野の専門的な勉強を進めることで、将来、独創性の豊かな科学者・研究者になり、世界に羽ばたく若者を育てるものです。プログラムでは1年次から独自の授業を用意しており、選抜された学生は学部学科でのカリキュラムに加えてこれらの授業を履修します。卒業生たちは国内外の大学院で学び、研究機関や民間企業で活躍しています。「飛び入学」や「飛び級」は世界的に見ても各国で採用されており、若い才能を発掘し、科学者の育成において実績を残しています。

## 6つの分野

### ・物理学関連分野

物理学は、自然現象の奥にある普遍的な法則を探る学問です。対象は幅広く、素粒子や原子核といったミクロの世界から広大な宇宙空間にまで及びます。自然科学の根幹をなす法則を深く理解し、研究者を目指す学生のためのプログラムです。

### ・化学関連分野

化学は、日常生活で目にする素材から自然の中の生命体に至るまで、物質や生命の成り立ちや働きを理解するために、様々な物質の構造・性質及び物質相互の反応を研究する学問で、本分野は化学の研究者を目指す学生のためのプログラムです。

### ・生物学関連分野

生物学は、DNAやタンパク質を用いたミクロレベルの内容から、細胞・個体、生物集団・環境・進化といったマクロレベルの内容までを網羅し、生命の不思議を多角的に理解する学問です。生物学先進クラスでは、1年次から最新の研究にふれるプログラムを通して、将来の研究者を養成します。

### ・工学関連分野

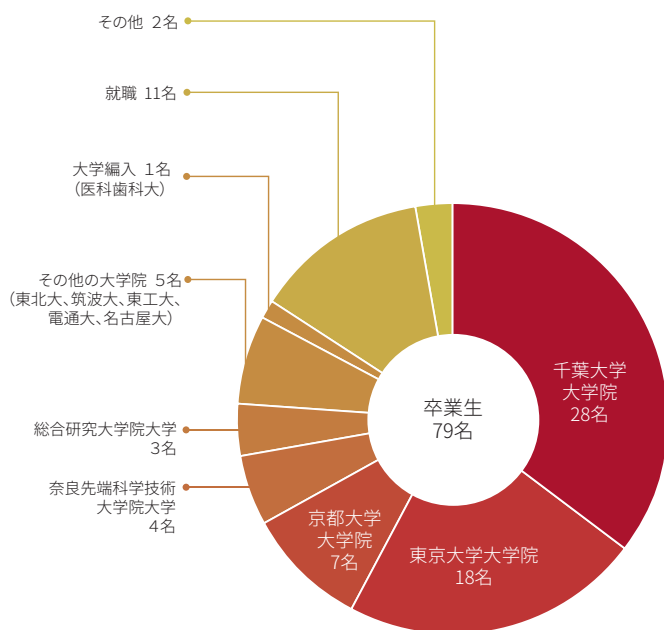
工学の多様な研究領域で、これまでにない新分野を開拓できる研究者や技術者を養成するプログラムです。その分野は、建築学、都市環境システム、デザイン、機械工学、医工学、電気電子工学、物質科学、共生応用化学、情報工学など多岐に渡ります。

### ・植物生命科学関連分野

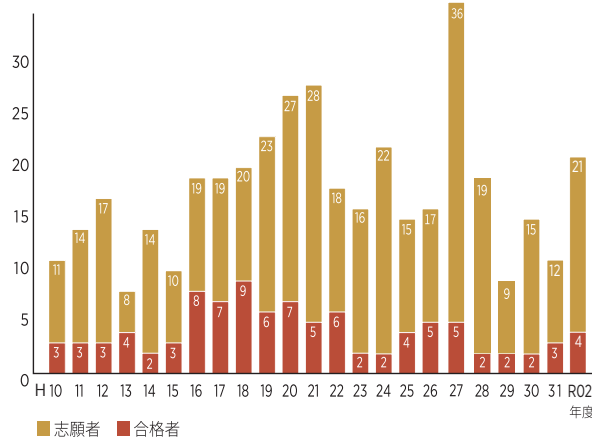
植物生命科学は、植物や微生物などの生命現象や関連する物質の構造や機能を分子レベルで探求する学問です。植物などの生物資源や関連する生体分子を対象として、生命現象のメカニズムや生体分子の機能を化学的・生物学的手法を用いて解明します。

### ・人間科学関連分野

人間の心や社会・文化を自然科学の手法で学びます。「自分はなぜ人間なのか?」という哲学的な問題を、情報処理の観点から理解したり、物を見て解釈する仕組みを目や脳の機能と関係づけて解明したりするなど、新しい科学を対象とします。



< 卒業時の進路 (令和2年3月末現在) >



< 志願者数と合格者の推移 (令和2年3月末現在) >

<https://www.ll.chiba-u.jp/> ・ <https://alc.chiba-u.jp/>

「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ『考える学生』を創造するために、平成23年度に附属図書館、総合メディア基盤センター（現・統合情報センター）、普遍教育センター（現・全学教育センター）によって「アカデミック・リンク」が立ち上げられました。平成29年度からはそれまでの成果をもとに機能の拡張が図られ、深い専門性と俯瞰的思考力を備えた「知のプロフェッショナル」の育成を目標としています。このコンセプトのもと、静かな学習環境だけでなく、議論や発表のできる空間、紙や電子による教材やコンテンツ、そして学生の学びへの人的なサポートを中心に、デジタルリソースを活用した学術的活動を支援する情報資源の提供や、

大学院生向けセミナーや英語の論文等に関する個別相談などの大学院生に向けた支援なども行っています。さらに令和元年11月には、附属図書館松戸分館の増改築により、松戸キャンパスでも「アカデミック・リンク」の本格的な展開を開始しました。平成27年7月、アカデミック・リンク・センターは教育関係共同利用拠点として認定されました（平成28年に再認定）。令和元年度より文部科学大臣認定「職業実践力養成プログラム」(BP)にも認定され、これからの大学に必要なとされる新たな専門的職員としての教育・学修支援専門職の確立と養成を行います。

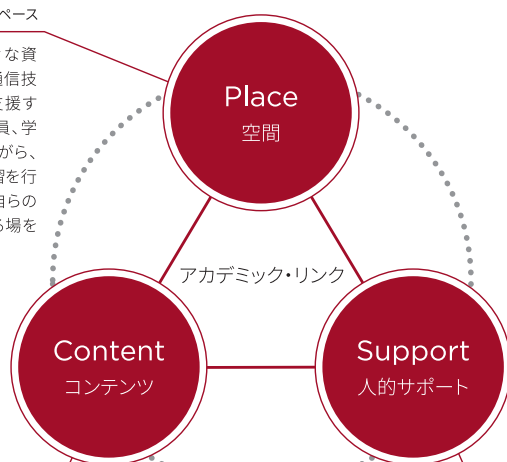
## 考える学生を創造するための3つの機能

### アクティブ・ラーニング・スペース

学生の皆さんが、様々な資料、コンテンツ、情報通信技術、あるいは学習を支援する人々(教員、図書館員、学生)を最大限活用しながら、グループや個人で学習を行うのにふさわしい場、自らの学習の成果を公表する場を提供します。



アクティブ・ラーニング・スペース



### コンテンツ・ラボ

授業の事前事後学習やさらにその主題について掘り下げて学習するために有益な図書類やWebサイトを案内する『授業資料ナビゲータ』を強化するとともに、『授業資料ナビゲータ』で提供される資料や授業で使う教材の電子化、授業そのものの録画などを行い、これらの学習に資するコンテンツをラーニング・マネジメント・システムを介して円滑に提供します。



コンテンツ・ラボ

### ティーチング・ハブ

ラーニング・マネジメント・システムの運用を支援するとともに、教材の電子化や情報通信技術の教育への応用などのためのファカルティ・ディベロップメント(FD)、アクティブ・ラーニング・スペースで活動するスチューデント・アシスタント(SA)の育成を行います。



ティーチング・ハブ

目的

## 考える学生の創造

「生涯学び続ける基礎的な能力」  
「知識活用能力」を持つ学生の育成

本プロジェクトは、教育研究と収益事業、地域貢献を目的として、平成20年に環境健康フィールド科学センターにて発足しました。平成30年からは全学的なプロジェクトとして活動しており、柏の葉キャンパスの生態林に加え、西千葉キャンパスの自然科学総合研究棟2の屋上や亥鼻キャンパスの医学部本館屋上を拠点にセイヨウミツバチを飼育しています。



環境健康フィールド科学センター生態林(柏の葉キャンパス)でのミツバチの飼育風景

## 教育研究

教育研究活動としては、DNA分析によって蜜源植物を調査する「ハチミツの評価手法の開発」、養蜂箱などのプロダクト開発を行う「養蜂のデザインング」、都市養蜂と緑化植物の関係を調査する「都市養蜂・緑化」、ミツバチを通して都市環境を考える「環境教育」などを行っています。養蜂を科学するためには、農学、工学、人文科学などといった多彩な分野において領域横断的に検証する必要があるため、環境健康フィールド科学センターに加えて工学部や国際教養学部などの複数の部局の研究者が連携して本プロジェクトを進めています。



養蜂箱の開発を行っている様子(西千葉キャンパス)

## 収益事業

これらの教育研究活動の副産物として、毎年1,000～2,000kg程度のハチミツが採取されるため、収益事業化をしています。生食用としてパッケージしたのちに学内の各種販売所で販売しているほか、そごう千葉店や千葉県ヤクルト販売株式会社などにおいて、地域住民を対象に販売しています。また、蓮香堂(松戸市)、モンパリエ(市川市)などといった県内の企業とコラボ商品を開発することで、より多くの皆様に本プロジェクトを知っていただけるような工夫をしています。これらの収益事業の売上は、研究費や本プロジェクトの活動拡大のために有効活用されています。



生食用に一般販売されているハチミツ

## 地域貢献

本プロジェクトは地域貢献活動にも取り組んでおり、ハチミツをご購入いただくことやミツバチ関連イベントにご参加いただくことで、大学が行っている活動を地域住民の皆様に広く知っていただける機会を創出している点に特徴があります。今後も商品販売や関連イベントを充実させ、地産地消を通じた地域貢献を目指します。



ミツバチ関連イベントの様子

<https://mirai-kikou.chiba-u.jp>・<https://www.iperc.jp/>

## 次世代対応型医療人育成と「治療学」拠点創成のための 亥鼻キャンパス高機能化構想

我が国では、今後、少子高齢化社会とグローバル化社会という二つの大きな社会構造の変化が加速的に進行することが確実です。医療系学部を有する国立大学では、このような社会構造の変化により生ずる次世代の多様なニーズに対応できる指導者としての医療人(医師、看護師、保健師、助産師、薬剤師など)を育成し、社会の期待に応えていくことが急務となっています。

このような状況を踏まえ、亥鼻キャンパスでは、「治療学」という新しい学問領域:「予防、診断のみならず治療の理論及び新規治療法の開発を系統的に研究し、グローバルな実践展開をはかる学問」の推進を最重要課題として高機能化を図ることとしています。

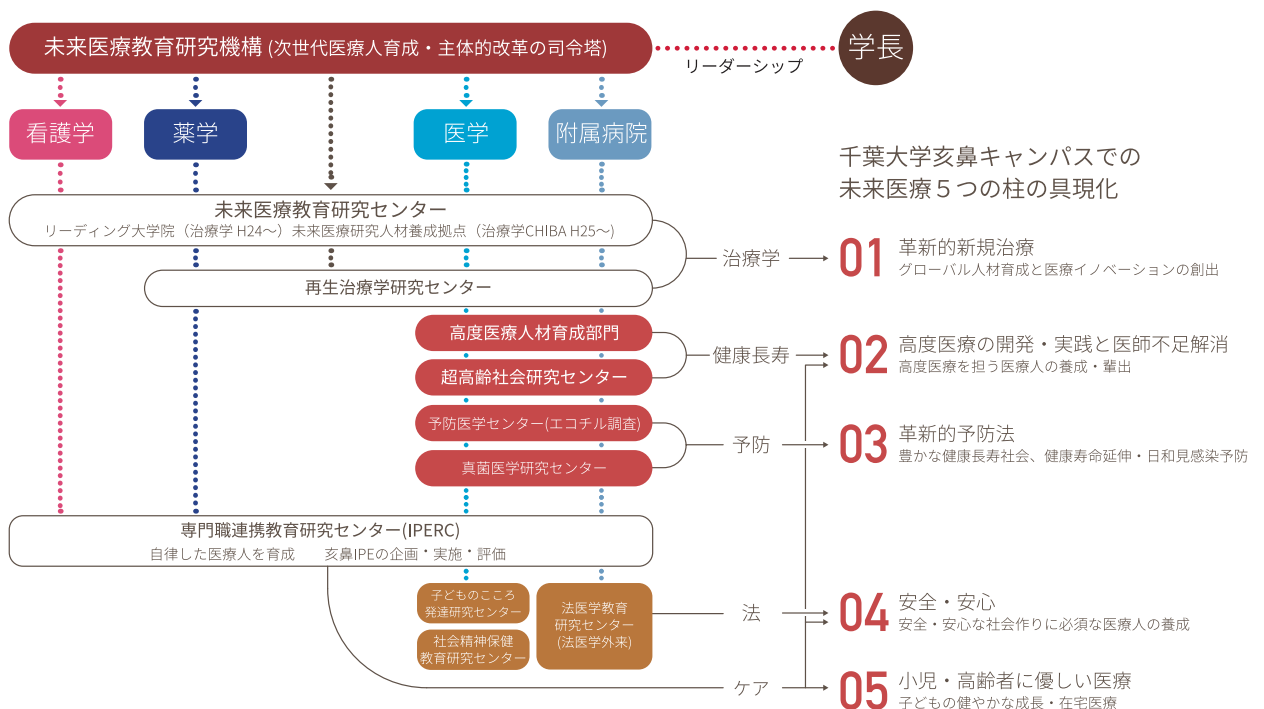
国立大学唯一の医療系3学部(医学・薬学・看護学)と附属病院が結集した亥鼻キャンパスにおいて、学内資源の再配分等により、未来医療教育研究機構を司令塔として、医療イノベーション創出とグローバル化に対応するための教育研究組織改革及びガバナンス改革を強力に加速し、次世代の多様なニーズに応える医療人育成機能強化を果たすとともに、全学に改革を展開します。

## 全国の医療系大学を先導する亥鼻IPE

医療・保健・福祉の場では専門職間連携が不可欠です。亥鼻IPEは、2007年から看護学部・医学部・薬学部の3学部が連携・協働して行っている教育です。他の専門職と連携・協働し、患者・サービス利用者を中心とした診療・ケアができる自律した医療組織人を育成しています。その特徴は、年次積上げ型で必修科目として各学部に位置付け、学習成果の評価をもとに改善を継続すること、アクティブラーニングや小グループ学習を取り入れていることなどです。2017年からは、工学部医工学コースの学生も一部のプログラムに加わりました。医学部附属病院や近隣の病院、地域の診療所や調剤薬局、訪問看護ステーションや地域包括支援センターなどのご協力を得て、実践に即した体験学習を行っています。IPEは全国の医療系大学に広がっていますが、亥鼻IPEには視察者やコンサルテーションへの要望も高く、国内外のIPEを先導しています。



1年生：グループワーク



世界に認められた  
学生主体の環境への取り組み

**01** 環境・エネルギーマネジメントシステムの  
国際規格を認証取得

千葉大学は、平成16年度から主要4キャンパス(西千葉、松戸、柏の葉、亥鼻(附属病院除く))で環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得し、維持してきました。さらに、平成25年度には全国の大学で初めて、エネルギーマネジメントの国際規格ISO50001を取得しました。近年は持続可能な開発目標(SDGs)に貢献することも視野に入れて様々な活動を積極的に行っています。

**02** 「環境ISO学生委員会」が主体となって、  
大学のシステムを構築・運用

特筆すべきは取り組み主体が学生であること。「環境マネジメントシステム実習Ⅰ～Ⅲ」という授業の受講生(1年から3年の学生約200名)により、「環境ISO学生委員会」が組織され、学生たちは様々な企画を立て、行動し、評価し、次の活動に活かしていく経営の実務を学びながら活動を行っています。環境意識啓発活動、環境教育活動、緑化美化活動などのほか、大学のISO運用に欠かせない、内部監査や基礎研修、外部審査などの中核業務にも携わっています。また、3年間活動すると「千葉大学環境エネルギーマネジメント実務士」の資格が大学から与えられ、就職活動でも活用できます。この学生主体の取り組みが世界的にも評価され、国際グリーン・ガウン賞とISCN Awardを日本で初めて受賞しました。

近年は、京葉銀行など複数の民間企業と協同したプロジェクトも展開しており、地域の子どもたちに対する環境教育や海・森林の保全活動、大規模な環境イベントの開催、国際会議での発表など、活動の幅が大きく広がっています。さらに、2009年にNPO法人千葉大学環境ISO学生委員会を設立し、NPOとしても地域社会に向けた様々な活動を行っています。

ISO14001  
マネジメントシステム



教授会で環境ISO基礎研修の講師を担当



コミュニティガーデン



幼稚園での環境紙芝居



海藻の再生活動と海岸清掃イベント

<https://cocp.chiba-u.jp/>

## コミュニティ・イノベーションオフィス(OCI)の概要



OCIは、文部科学省COC、COC+事業(令和元年度末に終了)による大学と地域の連携事業の推進組織として平成27年度に設置されました。令和2年度以降も継続して、包括連携を締結した県内自治体や企業等と地域活性化・地方創生に関する教育・研究・社会貢献事業の運営や調整を行っています。また、台湾をはじめとした海外交流協定校と連携した教育プログラムを新設し、国際連携を進めています。

## 県内自治体、企業等との地域連携事業

横芝光町、長柄町、南房総市、芝山町を中心に、自治体、地域企業、公的機関等との産官学連携による地域志向型の教育実践や研究を行っています。地域でのPBL・実践型科目では、観光、健康、移住定住など、テーマごとの課題解決提案を学生が主体となって行います。また、自治体、企業との受託・共同研究の推進、JSTのマッチングファンド(OPERA)の活用など、教育や研究のための外部資金の獲得に努めています。平成30年には、地域活性化のための研究成果活用型ベンチャー「ミライノラボ」を創設し、学生が地域で継続的に活動するための環境づくりを多方面で進めています。

## 全学副専攻プログラム「ローカル・イノベーション学」

地域課題解決のための幅広い教養と判断力を総合的に学ぶ全学副専攻プログラム「ローカル・イノベーション学」を開講しています。年次ごとに地域と関わる度合いを変える「グラデーション定着学習」を導入し、副専攻を修了した学生は地域の産業振興や地域志向のプロフェッショナルとして、公務員、コンサルタント、研究者等のキャリアに進みます。さらに、OCI内のインキュベーション機能を活用し、まちづくり会社やNPOなどでのアントレプレナーとしての活躍も期待されます。

## 千葉の地域から国際連携への展開

OCIでは千葉大学ENGINEと連動させ、台湾をはじめとした海外交流協定校との国際志向型教育実践への取組を始めました。「台湾千葉ローカルPBL」は、千葉大学の学生が台湾の5つの大学に留学し、地域課題解決に取組みながら、地方創生の推進や持続化の地域づくりを実践的に学ぶ新規科目です。また、台湾の学生が千葉大学に留学し地域課題解決に取組む科目を同時開講し、ローカルとグローバルの融合による地域活性化・地方創生の取組をより一層推進していきます。



学生によるサイクルツーリズム提案の実地調査(芝山町)



千葉大アイス開発に向けた生産者へのヒアリング(横芝光町)



地域ブランディングをテーマとした課外授業(長柄町)

## Ⅰ 組織・施設の整備

04.1

### 亥鼻キャンパスの整備

#### 市道拡幅に伴う亥鼻キャンパス環境整備

亥鼻キャンパス南側における、千葉市の市道星久喜町線の拡幅工事に合わせて、構内の環境整備を進めています。新しく亥鼻新門も整備予定です。令和元年度は正門～看護学部前の整備を行いました。工事は令和3年度末まで行われます。

#### 医学系総合研究棟の新築

老朽化した医学部本館に代わり、「亥鼻キャンパス高機能化構想」の一翼を担う事業として医学系総合研究棟の建設を行っています。令和2年度末に完成予定です。



医学系総合研究棟完成予想図

#### 医学部附属病院中央診療棟の新築

附属病院拡充整備計画に基づき、中央診療機能（手術関連部門）の集約化と救命救急センターとの連携を踏まえた一体的な整備のため、新中央診療棟を建設しています。令和2年9月完成予定です。



医学部附属病院中央診療棟完成予想図

### アカデミック・リンク松戸 図書館オープンと緑地整備

「アカデミック・リンク松戸」は、「フィールドとコンテンツと学習の近接」によって、知識基盤社会を生き抜く「感性に優れた考える人材の創造」を目指して計画され、2019年7月に竣工しました。建物は延べ床面積2,675㎡の4階建てで、附属図書館松戸分館（2・3階）、松戸地区事務課事務室、大学院園芸学研究科・園芸学部実験室の3つの機能を兼ね備えています。

「アカデミック・リンク松戸」の中核をなす附属図書館松戸分館は2019年11月にリニューアルオープンし、本学が実践している図書館機能をベースにした新しい学習環境のコンセプトを実現しています。2020年秋には、建物の前面に園芸学部特有の環境にふさわしい緑地「緑のテラス」が整備され、「アカデミック・リンク松戸」が完成します。



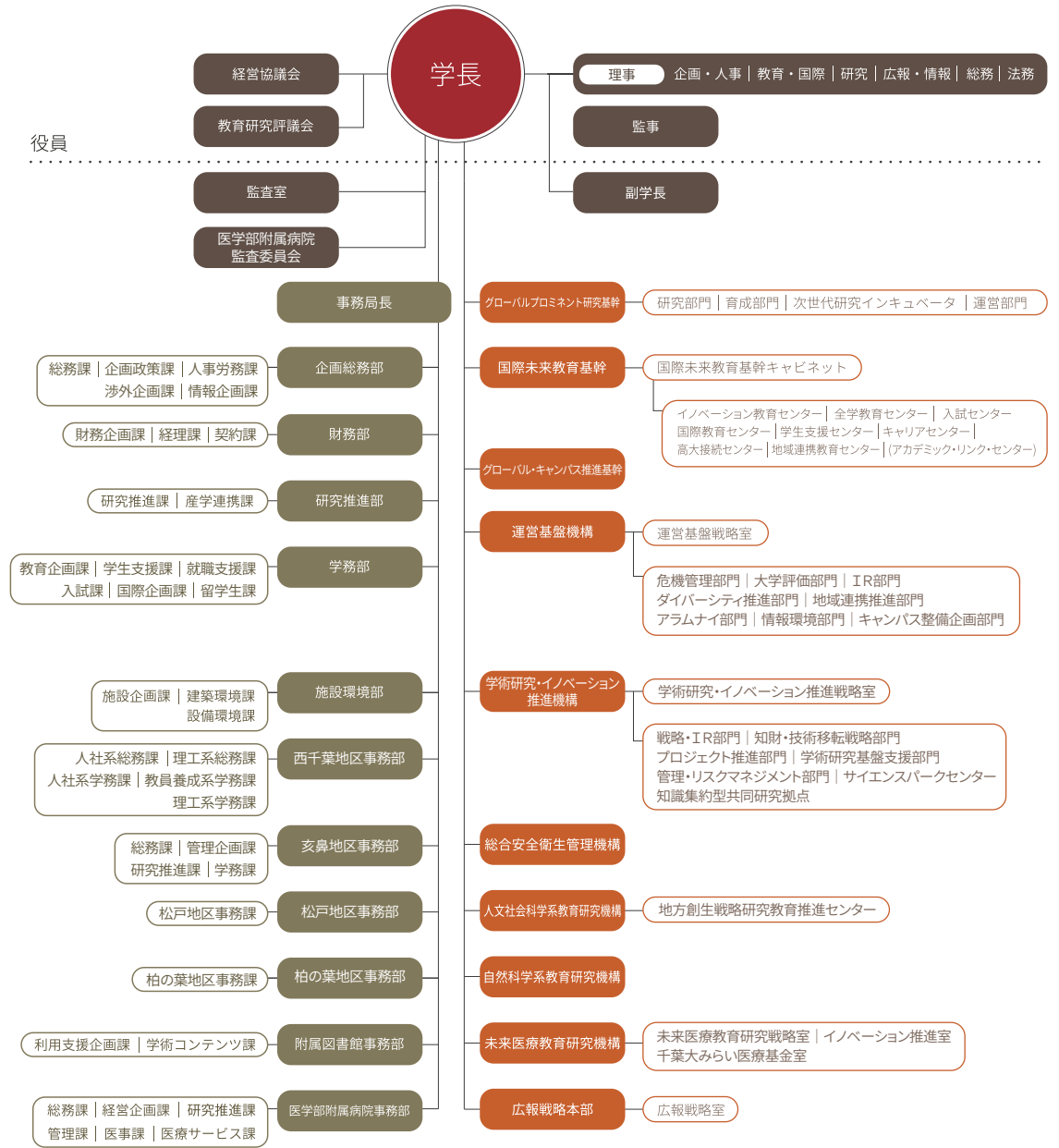
アカデミック・リンク松戸完成予想図

### 事務組織の再編

令和元年7月に事務組織の再編を行いました。具体的には、部局ごとの事務長制を改め、新たに業務別組織への移行と各地区に課長制を導入いたしました。これまで部局事務が行ってきた一部の業務を事務局へ集約し、事務コストのスリム化実現を目指しています。また、学生サービスの低下を招かないよう学務系の事務組織は、一部を除き執務場所の変更は行わず、西千葉・亥鼻地区の学務課に専任の課長を配置することにより、質の高い学生サービスを提供することとしております。



運営組織



事務組織と教育研究組織の対応表

事務組織/部等	教育研究組織	事務組織/部等	教育研究組織
企画総務部	統合情報センター	西千葉地区事務部	千葉大学・上海交通大学国際共同研究センター 環境リモートセンシング研究センター 海洋バイオシステム研究センター フロンティア医学工センター
研究推進部	共用機器センター アイトープ実験施設 ベンチャービジネスラボラトリー	亥鼻地区事務部	医学部・大学院医学研究院 薬学部・大学院薬学研究院 看護学部・大学院看護学研究科 大学院医学薬学府 真菌医学研究センター バイオメディカル研究センター 社会精神保健教育研究センター 予防医学センター 未来医療教育研究センター 再生治療教育研究センター 子どものこころの発達教育研究センター
学務部	先進科学センター	松戸地区事務部	植物分子科学研究センター
附属図書館	アカデミック・リンク・センター	柏の葉地区事務部	園芸学部・大学院園芸学研究科 環境健康フィールド科学センター
西千葉地区事務部	国際教養学部・大学院国際学術研究院 文学部・大学院人文科学研究院 法政経学部・大学院社会科学研究院 大学院人文公共学府 大学院専門法務研究科 大学院総合国際学位プログラム グローバル関係融合研究センター 教育学部・大学院教育学研究科 理学部・大学院理学研究院 工学部・大学院工学研究院 大学院融合理工学府 ソフト分子活性化研究センター 分子キラリティー研究センター		

文理混合の視点から、  
地球規模の課題解決へ

**国際教養学部**

1学科

国際教養学科

国際教養学部は平成28年に設置された千葉大学で最も新しい学部であり、国立大学で初めての国際教養学部です。この世界で生起しているさまざまな課題をグローバルな視点から解決することを目指しています。文理混合の視点から、人文社会科学、自然科学、生命科学のすべての領域についてその基礎を学び、課題解決に役立てます。そのために必要な、知識・技能・方法を身に付け、国内外のフィールドで実践的な解決を模索して社会に貢献します。

国際教養学部は、広い視野と好奇心をもち、地球規模の課題解決に取り組む熱意を持った人材の育成を目指しています。多様な種類の海外体験や留学を重視した独自のカリキュラム、そして徹底した少人数教育と学修支援を通じて、国際社会に貢献できる方法を学んでいきます。



計算りきれない  
人間の心と  
行いを探知る

**文学部**

1学科4コース

行動科学コース  
歴史学コース

人文学科  
日本・ユーラシア文化コース  
国際言語文化学コース

自己を知り、世界を知り、自己と世界の関係について学ぶこと。自分の生きていく方向や自分を託す世界の進み方、自己と世界との関係の作り方を模索することが文学部の目標です。人間という計算り尽くせない存在を、行動、社会、歴史、言語、文化、芸術などの諸側面について様々な視点や方法を用いて学問的に追究し、探知ろうとするのが私たちの学問なのです。

文学部は4つのコースからなり、深い専門性を究めるとともに、横断的に人文科学の諸分野を幅広く学ぶことができます。そうした学問的な営みを通じて、狭い学問領域にとらわれない人文科学的素養を持ち、独創的発信力を持って社会に貢献できる人材の育成を目指しています。



変転めまぐるしい社会を  
法、経済、経営、会計、政治、  
政策から理解する

**法政経学部**

1学科4コース

法学コース  
経済学コース  
法政経学科  
経営・会計系コース  
政治学・政策学コース

法政経学部は、「社会諸科学の総合」を体現する複合学部として、全国的にも極めてユニークな学部と言えます。また、法政経学部は、グローバル化や情報化の進展する中で、社会の実態や仕組みの観察と分析、それに基く政策立案を地球規模の視点に立って行い、問題解決能力を発揮して時代をリードする指導的な人材を育てることを目標とする学部です。そのために、法政経学部においては、1学科4コース制(法学、経済学、経営・会計系、政治学・政策学)の下で、自コースの選択とコース間の横断的な授業選択を行い、主体的に専門性を深めると同時に、開かれた専門性を生かすことを通じて、社会科学の高い基礎学力が身に付けられることとなります。



学ぶ楽しさを伝える  
教育者の育成

**教育学部**

1課程7コース

新しい発想と探究心を  
友とし、自然界の未知なる  
分野を拓こう

**理学部**

5学科16 学科目

工学は  
豊かな人間社会の  
構築を目指す実践の学問

**工学部**

1学科9コース

- 学校教員養成課程
- 小学校 国語科選修、社会科選修、算数科選修、理科選修、教育学選修、教育心理学選修、ものづくり選修
  - 小中 音楽科教育分野、図画工作・美術科教育分野、保健体育科教育分野、家庭科教育分野
  - 専門教科 国語科教育分野、社会科教育分野、数学科教育分野、理科教育分野、技術科教育分野
  - 中学校 国語科教育分野、社会科教育分野、数学科教育分野、理科教育分野、技術科教育分野
  - コース
  - 英語教育コース
  - 特別支援教育コース
  - 乳幼児教育コース
  - 養護教諭コース

- 数学・情報 代数、幾何、基礎解析、応用解析、確率・統計、情報数理
- 数理学科
- 物理学科 素粒子宇宙物理学、量子多体系物理学、凝縮系物理学
- 化学科 基盤物質化学、機能物質化学
- 生物学科 分子細胞生物学、多様性生物学
- 地球科学科 地球内部科学、地球表層科学、環境リモートセンシング

- 建築学コース
- 都市環境システムコース
- デザインコース
- 機械工学コース
- 総合工学科 医工学コース
- 電気電子工学コース
- 物質科学コース
- 共生応用化学コース
- 情報工学コース

教育学部は、教育界において幅広く活躍できる指導的な教員の養成を主な目的としており、多彩な専門分野からなるスタッフが教育者の育成に力を注いでいます。学生はコース・分野・選修に分かれて専門性を磨き、現代的な教育課題へ対処できる力を身に付けるべく日常の学習を進めながら、教育実習や学校インターンシップ等を通して現場での経験を積みみます。4年間の総括として自らの教育実践を振り返りながら、卒業論文・卒業制作・卒業演奏に取り組みます。

自然科学の根底をなす基礎科学の重要性はますますの高まりを見せています。そんな基礎科学を担う理学部には5つの学科があり、宇宙・地球・生命・分子・原子・原子核・素粒子および数学・情報数理学に関する活発な研究と教育活動を実践しています。「私たちがまだ知らない自然界の不思議」を見つけ出し、真理を解き明かす能力を備えた人材の育成を目指しています。

現代社会では、豊かな暮らしをめざして効率性や利便性を追求するだけでなく、人と環境にやさしい配慮も求められています。工学部では、工学教育の伝統的な専門性を尊重しながらも、その枠を越えて互いの連携・融合を図ることにより、常に、広範な社会的要請に応えられる専門教育システムの確立に努めています。「なぜ」を問い、「何をなすべきか」を考え、「いかにして」を構想して実践できる工学技術者・研究者の育成を目指します。



食と緑の  
総合学府

**園芸学部**

4学科7プログラム

疾病の克服と  
生命現象の解明に向け  
未知の領域に挑戦し続けます

**医学部**

1学科

生命を科学し、  
薬を創成し、  
薬剤師を養成する

**薬学部**

2学科

世界中の人々の生老  
病死にふれるところでいつも  
看護が必要とされています

**看護学部**

1学科

園芸学科	栽培・育種学、生物生産 環境学
応用生命 化学科	応用生命化学
緑地 環境学科	環境造園学、緑地科学、 環境健康学
食料資源 経済学科	食料資源経済学

園芸学部は「食と緑」の総合学府として、園芸植物資源の生産・利用に関わる先端的バイオテクノロジー、環境負荷を低減する資源・エネルギーの効率的な利用、人と自然が共生する環境の保全・再生とランドスケープの創造、医学と福祉への植物の利用、園芸関連産業の経営・マーケティングと政策などの分野で、これからの社会づくりに貢献し、国際的に活躍できる人材を育成しています。また、一般的な農学部とは異なるユニークな学部として、人文社会科学にも広く領域を拡げ、常に時代が求めている最先端を包含するよう、幅広い分野について教育・研究を行っています。

医学科

100年以上に及ぶ長い歴史を有する医学部は、これまでに基礎医学や臨床医学分野の研究や診療に優れた業績を多くあげており、日本・世界の医学をリードする幾多の指導者を輩出してきました。最先端の基礎医学研究の成果を新しい治療法の開発に結びつける「治療学」の研究に力を入れており、最新の治療法や病める者の目線に立って医療を患者さんに届けることのできる優秀な臨床医の育成をめざしています。また、将来国際的に活躍できるよう、海外で実習を行う実践的プログラムも準備しています。さらに、同じ亥鼻キャンパスに位置する看護学部、薬学部とも連携して、チーム医療に貢献でき、グローバルに通用する能力を持った医師の養成を進めていることも強みです。

薬学科

薬科学科

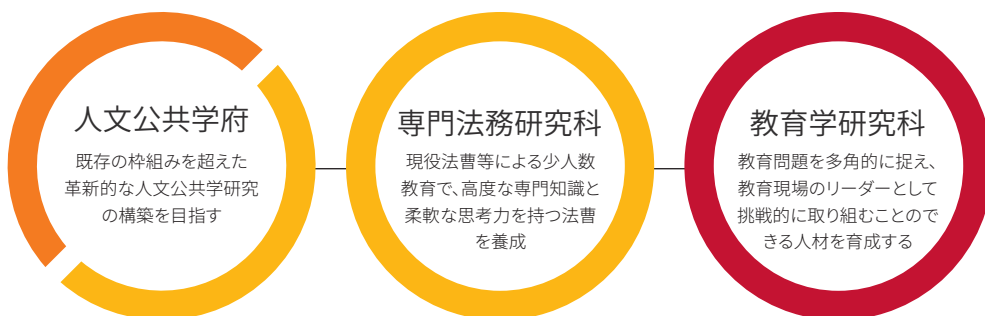
“くすり”の開発研究は、有機化学、薬理学、生化学、分析・物理化学などの生命科学の進歩による分子レベルや遺伝子レベルでの薬効発現機構の解明と化学合成、製剤技術、分子生物学、ゲノムサイエンス、情報科学などの進歩とが相まって驚くべき速さで進展しています。また、有効な医薬品の適正な服薬指導など医療の最前線での薬剤師の活躍が益々期待されています。薬学部では、6年制の薬学科と4年制の薬科学科があり、

- ①「生命」現象の物質的基盤を科学的に明らかにすること
- ② それに基づいて副作用の少ない有効な「薬」を創成すること
- ③ 医療の諸問題において指導的役割を果たす「薬剤師」になることを目的に“くすり”に関係するすべての事柄を学びます。

看護学科

看護学部は、看護に必要な能力を養い、広く看護学領域における有能な人材の育成を目的として、昭和50年4月に国立大学では唯一の学部として設置されました。看護学は、看護専門職の実践活動に理論的根拠と体系を与え、人々の健康生活をヒューマンケアの立場から支援する方法を追究する学問です。本学部では、総合的視野をもった保健師・助産師・看護師の基礎教育となる看護学を学修します。同時に、大学院看護学研究科(修士・博士)の教育目標に連動する基礎的能力の育成に向け、看護実践と研究について各学年で学修します。社会や医療・福祉の状況が大きく変化する現在、専門職連携実践のできる能力や、看護学を通してグローバル社会に貢献できる基礎的能力を備えた人材を育成しています。





**人文公共学府**

既存の枠組みを超えた  
革新的な人文公共学研究  
の構築を目指す

**専門法務研究科**

現役法曹等による少人数  
教育で、高度な専門知識と  
柔軟な思考力を持つ法曹  
を養成

**教育学研究科**

教育問題を多角的に捉え、  
教育現場のリーダーとして  
挑戦的に取り組むことで  
きる人材を育成する

**博士前期課程 2専攻6コース**

- 人文科学専攻：基盤文化、多文化共生、教育・学修支援
- 公共社会科学専攻：公共学、経済・経営学、Economics in English

**博士後期課程1専攻3コース**

- 人文公共学専攻：人文科学、公共学、社会科学

大学院人文公共学府は、千葉大学における人文・社会科学研究の拠点として、公共学的視点（学際性・国際性・実践性・社会性）を身に付けるカリキュラムを通じ、社会的課題の発見力と解決力、社会との対話力・発信力、多様な課題に対応できる実践力を育成し、「次世代型グローバル人材」を養成します。博士前期課程の人文科学専攻では、学修支援専門員を育成する教育・学修支援コースを設置しており、公共社会科学専攻には英語コースのEconomics in Englishコースを設置しています。博士後期課程は一専攻とし、人社融合の研究を促進しています。

**専門職学位課程**

- 法務専攻

専門法務研究科は、法曹養成に特化した教育を行う標準修業年限3年の専門職大学院で、一般に法科大学院と呼ばれています。本研究科は高度な専門知識と柔軟な思考力を修得した、常に生活者の視点を忘れない「心」ある法曹を養成することを目的としています。基本を重視したカリキュラムでは、年次進行にそって積み上げ式に法的専門知識を少人数・双方向の授業形式で学ぶことができます。また、経験豊かな弁護士・検察官・裁判官といった実務家教員が教育を担うとともに、千葉県弁護士会の協力の下、すべての学生に弁護士事務所で実習する機会を提供しています。なお、令和2年、法改正に従って、千葉大学法政経学部のほか、明治学院大学法学部や鹿児島大学法文学部と連携協定を締結し、これら各学部の法曹コースを修了した人が、本研究科2年コースの入試を特別選抜枠で受験できるようにしました。

**修士課程 1専攻5系**

- 学校教育学専攻：教育発達支援系、横断型授業づくり系、言語・社会系、理数・技術系、芸術・体育系

**専門職学位課程1専攻**

- 高度教職実践専攻

教育学研究科は、学部における一般的並びに専門的教育を基礎とし、広い視野に立って精深な学識を受け、教育の理論・実践を創造的に推進し得る人材を育成するとともに教員に求められる高度な知識と実践を基礎とし、教育現場の課題について、理論と実践の融合・往還を通して実践的な指導力やリーダーとしての役割を果たす力量を備えた高度専門職業人としての教員を養成することを目的としています。



**博士前期課程 5専攻16コース**

- 数学情報科学専攻：数学・情報数理学コース、情報科学コース
- 地球環境科学専攻：地球科学コース、リモートセンシングコース、都市環境システムコース
- 先進理化学専攻：物理学コース、物質科学コース、化学コース、共生応用化学コース、生物学コース
- 創成工学専攻：建築学コース、イメージング科学コース、デザインコース
- 基幹工学専攻 機械工学コース、医工学コース、電気電子工学コース

**博士後期課程 5専攻16コース**

- 数学情報科学専攻：数学・情報数理学コース、情報科学コース
- 地球環境科学専攻：地球科学コース、リモートセンシングコース、都市環境システムコース
- 先進理化学専攻：物理学コース、物質科学コース、化学コース、共生応用化学コース、生物学コース
- 創成工学専攻：建築学コース、イメージング科学コース、デザインコース
- 基幹工学専攻：機械工学コース、医工学コース、電気電子工学コース

大学院融合理工学府は、理学および工学分野において、両者を俯瞰し協奏を誘起できる幅広い学識と深い専門性、問題解決能力を有する高度専門人材あるいは先導的・指導的研究者を養成することを目的としています。この目的を達成するために、理学から工学にわたる5専攻の下に16の各専門分野に対応するコースを置き、各コースにおける専門教育に加え、専攻単位での横断的教育や学府の単位でのキャリア教育・イノベーション教育などの理工系大学院共通教育の充実も図り、高い専門性と広い視野を涵養します。

**博士前期課程**

**1専攻2コース10領域**

- 環境園芸学専攻：園芸科学コース（栽培・育種学、生物生産環境学、応用生命化学、食料資源経済学）、ランドスケープ学コース（環境造園計画学、環境造園デザイン学、環境造園管理学、緑地環境システム学、緑地環境資源学、環境健康学）

**博士後期課程**

**1専攻2コース10領域**

- 環境園芸学専攻：園芸科学コース（栽培・育種学、生物生産環境学、応用生命化学、食料資源経済学）、ランドスケープ学コース（環境造園計画学、環境造園デザイン学、環境造園管理学、緑地環境システム学、緑地環境資源学、環境健康学）

園芸学研究科は、前期2年・後期3年の博士課程の独立研究科です。「園芸」と「ランドスケープ」を専門領域とする国立大学法人唯一の園芸学研究科として、食料資源に関する課題や健康・福祉を含む、広範囲な環境科学に関する園芸学領域の専門分野の深化はもとより、自然・社会・人文科学を含む文理融合的なアプローチによって、学際的に幅広い視野から教育・研究を行っています。本研究科の博士前期課程を修了した者には修士の学位が、また、博士後期課程を修了した者には博士の学位がそれぞれ授与されます。

**修士課程 2専攻**

- 医科学専攻：基礎医科学コース、展開医科学コース、社会医学コース、治療学CHIBAイノベーション人材養成プログラム
- 総合薬品科学専攻

**4年博士課程 2専攻**

- 先端医学薬学専攻：免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム、治療学CHIBAイノベーション人材養成プログラム、革新医療創生CHIBA卓越大学院プログラム
- 先進予防医学共同専攻

**後期3年博士課程 1専攻**

- 先端創薬科学専攻

医学薬学府は、従来の医学研究科と薬学研究科を改組して設立された全国で初めての医学・薬学融合型大学院教育組織です。本学府では医学研究センターの教員に加え、連携部門である放射線医学総合研究所・千葉県がんセンター・かずさDNA研究所・国立環境研究所・理化学研究所などの協力を得て、生命科学の研究を担う創造的な研究者育成、医薬品の開発研究を目指す人材の養成、医療の高度化に対応できる医師・薬剤師の養成を行うことを目的としています。

## 看護学研究科

看護支援方法の研究・開発  
を行う「ナース・サイエンティ  
スト」育成を目指す

### 博士前期・博士後期課程

#### 1専攻3講座

- 一看護学専攻：先端実践看護学、生活  
創成看護学、文化創成看護学

#### 修士課程 1専攻

- 一看護システム管理学専攻

#### 5年一貫性博士課程 1専攻

- 一共同災害看護学専攻

博士課程では、看護師の行う実践の諸活動に科学的根拠を与える基礎理論とその応用を体系的に教授研究し、看護支援方法の研究・開発が自立して推進できるナース・サイエンティストの育成を目指しています。修士課程では、現職の看護管理者に対して高度問題解決能力及び変革的に行動する能力の付与を目標としています。5年一貫制博士課程は、5大学による共同教育課程であり、人間の安全保障の進展に寄与するため、高度な実践能力かつ研究能力を兼ね備え、学際的・国際的指導力を発揮する災害看護グローバルリーダーの養成を目標としています。

## 総合国際学位プログラム

全国初の学位プログラムで  
学際研究を推進する

### 修士課程

総合国際学位プログラムは、グローバルな諸課題を解決するために、社会課題と学術知を結合する高度な能力を有する人材を育成することを目的として、令和2年4月に、全国で初の研究科等連係課程基本実施組織として設置され、人文公共学府と融合理工学府との緊密な連係及び協力のもと、教育課程を実施します。本プログラムでは、既存の学問領域を超え、分野を横断して問題の解決を目指した知識生産を行うトランスディシプリナリーな教育・研究を展開し、自主的・自律的に研究計画を立案するセルフ・デザイン・メジャー（自己設計専攻）等の特徴としています。

## 東京学芸大学 大学院連合学校 教育学研究科

教員養成系大学に設置された  
日本では初めての博士後期課程

### 博士課程 1専攻9講座

- 一学校教育学専攻：教育構造論、教育方法論、発達支援、言語文化系教育、社会系教育、自然系教育、芸術系教育、健康・スポーツ系教育、生活・技術系教育

本研究科は大学における教員養成の充実と学校教育の発展を目指して、我が国ではじめて教員養成系大学・学部設置された博士課程であり、東京学芸大学・埼玉大学・千葉大学・横浜国立大学を母体として構成される後期3年のみの課程からなる独立研究科です。研究の中心は教科教育学の発展を主な目標とし、学校教育の主要部分である各教科教育の目的・内容・方法等の研究を高度化し、さらに学校教育の場面で生じている課題を活性化させ、学校教育のより一層の充実に結びつく研究を展開することを目標としています。

## 連合小児発達学 研究科

子どものころの問題に科学的な視点で  
対処できる人材育成の教育研究拠点

### 後期3年 博士課程

#### 1専攻5講座

こころの発達神経科学講座（大阪校）／こころの相互認知科学講座（金沢校）／こころの発達健康科学講座（浜松校）／こころの認知行動科学講座（千葉校）／こころの形成発達科学講座（福井校）

子どものころの問題に科学的な視点で対処できる人材を育成する3年制後期博士課程大学院です。千葉校は、こころの認知行動科学講座に、認知行動療法学、メンタルヘルス支援学、認知行動脳科学の研究領域を有し、子どものころの発達教育研究センターの教員が指導します。①心理学系、教育学系、保健学・看護学系、社会福祉学系の修士課程を修了または修了見込みの方、②子どものころに関わる経験を持つ教諭、心理師、医師、看護師、福祉士等の社会人の方（修士課程修了者でなくても、出願資格審査に合格することで、受験資格が得られます）を対象にしています。

亥鼻キャンパスに位置する医学部附属病院の理念は、人間の尊厳と先進医療の調和を目指し、臨床医学の発展と次世代を担う医療人の育成に努めることです。

概要

(2020年4月1日現在)

病床数	850床	診療報酬稼動額(2019年度)	36,536百万円
医師 / 歯科医師	904人	外来紹介患者数(2019年度)	20,513人
看護師等	1,155人	新入院患者数(2019年度)	20,048人
医療技術職員	412人	平均在院日数(2019年度)	12.3日

組織

(2020年4月1日現在)

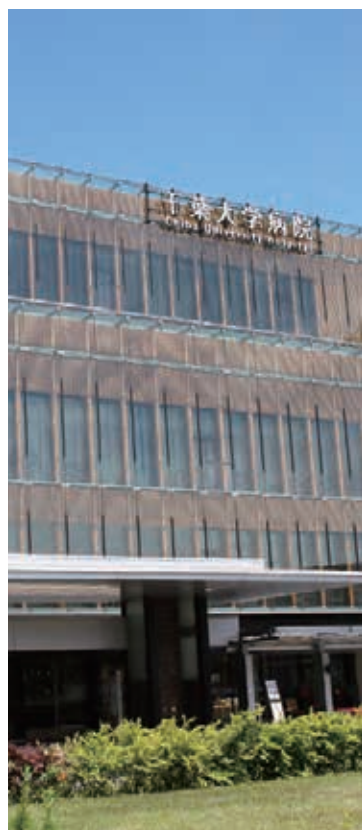
診療科

消化器内科	肝胆膵外科	リハビリテーション科
血液内科	乳腺・甲状腺外科	精神神経科
腎臓内科	呼吸器外科	脳神経外科
アレルギー・膠原病内科	麻酔・疼痛・緩和医療科	脳神経内科
糖尿病・代謝・内分泌内科	泌尿器科	婦人科
循環器内科	救急科	周産期母性科
呼吸器内科	整形外科	小児科
和漢診療科	眼科	小児外科
感染症内科	皮膚科	放射線科
腫瘍内科	耳鼻咽喉・頭頸部外科	病理診断科
心臓血管外科	歯科・顎・口腔外科	総合診療科
食道・胃腸外科	形成・美容外科	

中央診療施設等

検査部	フォトセンター	包括的脳卒中センター
手術部	臨床工学センター	周産母子センター
放射線部	臨床腫瘍部	肺高血圧症センター
材料部	遺伝子診療部	認知行動療法センター
人工臓器部	認知症疾患医療センター	プレストセンター
集中治療部	アレルギーセンター	造血細胞移植センター
輸血・細胞療法部	周術期管理センター	画像診断センター
冠動脈疾患治療部	患者支援センター	スポーツメデックスセンター
病理部	高齢者医療センター	救命救急センター
内視鏡センター	糖尿病コンプライアンスセンター	ハートセンター
リハビリテーション部	緩和ケアセンター	痛みセンター
こどものころ診療部		

企画情報部	未来開拓センター	高齢社会医療政策研究センター
医療安全管理部	国際医療センター	浦安リハビリテーション教育センター
感染制御部	臨床研究開発推進センター	スタッフケアセンター
臨床試験部	がんゲノムセンター	医師キャリア支援センター
地域医療連携部	メドテック・リンクセンター	移行期医療支援センター
臨床栄養部	データセンター	薬剤部
総合医療教育研修センター	千葉大学柏の葉診療所	看護部
東金九十九里地域臨床教育センター (東千葉メディカルセンター内)	成田赤十字病院肺がん治療センター 病院経営管理学研究センター	事務部 病院長企画室





## 遠隔モニタリングシステムで突然死から守る

不整脈は、心臓のリズムが狂ってしまう病気で、心不全や脳梗塞などを引き起こすことがあります。当院の循環器内科不整脈チームでは、心臓の筋肉(病気の組織)を焼くカテーテルアブレーション治療において、従来の高周波電流を使う方法に加え、亜酸化窒素で凍結する方法や、レーザーを使って焼灼する新しい治療法を行っています。

また、心臓突然死を予防する自動除細動器付きペースメーカーを使う治療では、「遠隔モニタリングシステム」を積極的に導入しています。このシステムは、患者さんが病院外の場所で過ごしているときに、危険な不整脈を起こしたり、電気ショック治療が行われた場合に、不整脈データが自動で病院に送信されるシステムです。患者さんに危険がある場合、医師と臨床工学技



遠隔モニタリングシステムが使用できる治療デバイスの植え込みを指導する近藤祐介講師

士、看護師が一体となって早期に救急対応を行い、突然死から患者さんを守っています。

## 台風15号で千葉大学病院の災害派遣医療チームが活動



当院に設置された活動拠点本部には、全国から56チームがかけつけました

2019年9月8日の台風15号では、千葉県内の多数の医療機関が被災しました。当院は、千葉・市原・山武長生夷隅を支援するDMAT(ディーマット)の活動拠点本部を設置。県内外から駆け付けたDMATに指示して約90医療機関の被災状況の確認や被災病院からの患者搬送を行ったほか、避難所の支援なども行いました。

私たちは、地域の医療を守るのが使命です。定期的に訓練を重ね、各自治体との連携を強化することで、災害時でも継続して医療行為ができるように取り組んでいます。



集中治療部部長  
安部隆三 准教授  
(DMATメンバー)

## 国内初、再生医療による腰痛症治療の多施設共同治験を開始

腰痛の主な原因として椎間板障害があります。椎間板の老化は、20歳を過ぎた頃から始まるため、働き盛りの20代~50代に発症しやすく、労働生産性の低下が問題となっています。

これまで椎間板障害の治療法は、痛みに対する対症療法や椎間板切除術、脊柱固定術などが行われてきました。この治験では、再生医療に注目し、生物学的に修復・再生する手法として細胞治療を行います。具体的には、痛み始めた椎間板を早期に発見し、患者の損傷した椎間板に細胞治療製品(IDCT-001)を投与し、修復・再生を促す治療について、安全性および有効性を評価します。

超高齢化社会に伴い、今後一層、腰痛患者さんが増加すると予想されます。腰痛の症状が強いと、日常生活動作が困難になり、生活の質(QOL)が著しく低下します。これまで、痛みに対して鎮痛剤の服用やマッサージ療法など、一時的な治療しかありませんでしたが、椎間板再生医療の治験により、傷んだ椎間板が修復・再生され、根治的治療につながると期待しています。



整形外科長  
大鳥精司 教授

## 大学病院の「教育」機関としての役割「確かな技術と高い志を持つ医師に」

医師はどのようなプロセスで医師になるのかご存知でしょうか？医学部で6年間学び、卒業後に医師免許を取得しますが、卒業後さらに2年間、初期臨床研修を受けることが法律で義務付けられています。当院では、総合医療教育研修センターが初期臨床研修医を含め、医療人の育成に当たっています。シミュレーターを活用した実践型の研修や、教育専任特任教員の配置などにより、診療現場での課題解決に自ら積極的に取り組み、上級医の指導を受けて自らを振り返る、そして同僚たちとも切磋琢磨して、ともに成長していく、そのような教育環境を作っています。



15名のアテンディングドクター(教育専任特任教員)が常に見守り支えています

**環境リモートセンシング研究センター**

<http://www.cr.chiba-u.jp/>

環境リモートセンシング研究センターは、平成22年度から文部科学大臣が認定する共同利用・共同研究拠点として、リモートセンシング(RS)研究とそれを利用した環境研究への発展に寄与し、人類社会が直面する地球温暖化、環境汚染、水資源、災害監視、植生量の評価などの喫緊の課題に向けての科学的対処に貢献しています。国内やアジア諸国等との共同研究を実施し、大学院RSコース等の活動を通じて研究者の育成を進めています。

**真菌医学研究センター**

<http://www.pf.chiba-u.ac.jp>

病原真菌(カビ)を中心とする各種病原体による感染症研究を専門とする研究施設であり、病原体の病原性や薬剤耐性、宿主主体防御などの基礎研究、真菌感染症などの臨床研究を行っています。また、文部科学大臣認定の共同利用・共同研究拠点「真菌感染症研究拠点」として、国内外の関連研究者との共同研究を推進するとともに、同省のナショナルバイオリソースプロジェクト「病原真核微生物」の中核機関として、病原真菌・放線菌の収集・保存・分譲業務を行っています。

**アカデミック・リンク・センター**

<https://alc.chiba-u.jp/>

アカデミック・リンクとは、「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ『考える学生』、および深い専門性と俯瞰的思考力を備えた『知のプロフェッショナル』の育成をはかる新しいコンセプトです。本センターは平成23年4月に設立、平成27年度に教育関係共同利用拠点として認定されました。学習に必要なコンテンツの形成と提供によるアクティブラーニングの実現とともに、大学における新たな専門的職員として教育・学修支援専門職の確立と養成を目指します。

**共用機器センター**

<http://www.cac.chiba-u.ac.jp/>

共用機器センターは、大型分析機器等を集中管理し、学内外の教育研究における共同利用に供するとともに、学内の研究機器の管理支援、技術者の育成、分析技術の開発研究などを行っています。管轄する共用機器は、化学・物理学・生物学・医薬科学など幅広い分野で利用されています。さらに自然科学研究機構が主宰する「大学連携研究設備ネットワーク」における地域拠点校として、全国の研究機関との相互利用を推進しています。

**統合情報センター**

<https://www.imit.chiba-u.jp/>

学内共同教育研究施設として教育・研究・業務支援のためのコンピュータシステム、学内ネットワークシステム及びメールシステム等の運用管理、全学のICT化に関する調査研究を行うと共に、情報関連技術の開発・研究を行っています。

**先進科学センター**

<https://www.cfs.chiba-u.jp/>

先進科学センターは、早期から大学教育を受けられる先進科学プログラム(17才飛び入学)を実施するため、平成9年6月に設立されました。高度な学術研究を推進するとともに、先進科学プログラムを実施する学部への教育上の支援を行っています。また特定の分野に優れた才能を有する者に対する高等教育の在り方に関する総合的な調査研究の実施及びその開発も行っています。

**グローバル関係融合研究センター**

<http://www.chiba-u.ac.jp/crsgc/>

平成29年4月に設置されたグローバル関係融合研究センターは、千葉大学で初めての人文社会科学系の全学研究センターです。世界中で発生する新しいグローバルな危機に対処する研究分野を、既存の学問の枠を超えて生み出す、文系研究のピークとして機能します。そこでは移民・難民問題、紛争、人種差別や社会的格差拡大など、現代のグローバル社会が直面するさまざまな危機をいかに読み解くかを探り、解決方法を模索します。

### 海洋バイオシステム研究センター

<http://marine.biosystems.chiba-u.jp/>

海洋バイオシステム研究センターは、南房総の鴨川市小湊地区にあり、実験場を銚子市に有しています。千葉県沖では、黒潮と親潮が会合するため、多様性の高い海洋生物相が見られます。この環境を利用して、海洋環境とそこに生息する生物の相互関係(海洋バイオシステム)を研究しています。また、学内外の多くの研究者にとっても海洋環境と生物を研究するための重要な拠点となっているほか、教育にも積極的に利用されています。

### ソフト分子活性化研究センター

<https://smarc.chiba-u.jp/>

本センターは、リーディング研究育成プログラム『先導的ソフト分子の活性化と機能創製』で培った研究成果の実用化を目指しています。千葉ヨウ素資源イノベーションセンターChiba Iodine Resource Innovation Center (CIRIC) を設立し、高付加価値ヨウ素製品の創出とヨウ素の回収と再利用を効率化する産学官共同研究を推進しています。CIRICが有する多くの最先端分析装置を皆さんの研究にお役立てください。

### 分子キラリティー研究センター

<https://www.tp.chiba-u.jp/MCRC/index.html>

キラリティーは物質科学の歴史の中で常に中核に位置する普遍的な研究テーマです。また、生命におけるホモキラリティーは未だベールに包まれた大きな謎となっています。近年、光のキラリティーがナノ空間における物質の構造や物性を大きく変えられることがわかってきました。本センターでは、光のキラリティーをはじめとする新しい物理現象を大胆に駆使して新時代のキラリティー研究の開拓、イノベーション創出を目指します。

### フロンティア医工学センター

<http://www.cfme.chiba-u.jp/>

本センターでは、専任の教員を中心に、工学研究院、看護学研究科、医学研究院、附属病院からの兼務教員、企業および研究機関等からの客員教員、特別研究員等の研究者が連携して、新しい医療画像や情報システ

ム、治療機器など臨床に役立つ機材やシステムの研究開発を行っています。試作開発・基礎実験部があり、新しい機器やソフトウェアの試作と前臨床試験が行える特徴を生かして、多くの研究成果を世に送り出し、実用化の実績を上げています。

### 環境健康フィールド科学センター

<http://www.fc.chiba-u.jp>

植物をキーワードとして「食と環境と健康」を学際的に教育研究する目的で平成15年4月に設立されました。環境園芸農場、植物工場拠点を設置し、技術教育、植物の機能性や快適性評価研究、環境調和型園芸生産技術研究、多様な農福連携に関わる履修証明プログラム開設など、地域社会の持続性を希求する活動を行っています。これらの活動は、柏の葉診療所・鍼灸院や学内外の多くの部局、企業、海外協定機関と連携して実施しています。

### バイオメディカル研究センター

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/dept/biomed/>

本センターは平成13年遺伝子実験施設として設立、平成16年4月に現在の名称に改称されました。遺伝子組換え実験に関する教育・研究の支援および遺伝子改変マウス(トランスジェニックマウス、ノックアウトマウス)の作製・解析に関する研究支援、受精卵・精子の凍結保存による系統維持、凍結受精卵・精子からの個体作製等を行っています。また学内外各研究室等と連携して疾患モデルマウスを用いた病態解析、治療法開発などの研究を推進しています。

### 社会精神保健教育研究センター

<http://www.m.chiba-u.ac.jp/class/shakai/>

本センターは平成17年4月に設置され、司法精神保健に関する教育研究を4部門で行なっています。法システム研究部門では、司法精神保健に関する法律や制度、それらの運用について研究し、病態解析研究部門では、精神疾患の診断や病態についての研究、治療・社会復帰支援研究部門では、精神障害者の新しい治療法や社会復帰支援方法の開発研究、非行臨床研究部門では、少年非行に関する法システムや教育、矯正、社会復帰などについての研究を推進しています。

### 予防医学センター

<http://cpms.chiba-u.jp/>

本センターは「体の健康」、「心の健康」、「健康に良い環境」をキーワードに長期追跡調査研究(出生コホート調査「エコチル調査」「千葉こども調査」、老年学的評価研究(JAGES)、街づくり研究(ケミレスタウンプロジェクト)、都市空間デザイン研究を実施しています。さらに千葉大学、金沢大学、長崎大学による先進予防医学共同専攻を設置するなど予防医学の研究と教育を推進しています。

### 未来医療教育研究センター

本センターは、学内共同教育研究施設として、基礎科学と臨床医学の間の知の循環に関する教育研究を行い、人材の養成を推進することを目的として設立されました。このセンターでは、基礎研究から臨床への橋渡し研究と実践を行うとともに、科学的な方法論に基づいた評価を推進するための基盤及びレギュラトリーサイエンスを含む医療行政への提言・改革を行うための基盤を整備し、アカデミアと産業界と連携し、臨床試験の計画から実施まで主体的に実施する人材を養成します。

### 再生治療学研究センター

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/class/saiseichiryo/index.html>

幹細胞研究は、再生医療への展開が期待されるとともに、癌や加齢に伴う各種疾患などにも密接に関連し、生命科学全般へ波及する重要な意義を有します。本センターでは、このような幹細胞研究を基盤に、再生医療と疾患研究を推進します。多能性幹細胞や臓器幹細胞研究を再生医療の観点から推進するとともに、様々な疾患のiPS細胞を作製し、病態解析や治療法開発、新薬評価等により、bench to bedを目指した革新的治療学の確立を目標とします。

### 子どものこころの発達教育研究センター

<http://www.m.chiba-u.ac.jp/class/rccmd/>

子どもの不安、うつ、発達、摂食等のこころの問題に対し、科学的根拠に立脚した認知行動療法を実践できる高度専門職業人養成の教育研究を進めます。医療機関でこころの病気の治療・臨床研究を実践する「認知

行動療法学」、学校現場での早期発見・介入の予防研究を行う「メンタルヘルス支援学」、脳画像検査等による基礎研究を担う「認知行動脳科学」、教育学と医学の連携教育研究を進める「対人援助教育学」部門から構成されます。

### 植物分子科学研究センター

<http://www.p.chiba-u.jp/phytochemical/>

千葉大学植物分子科学研究センターでは、千葉大学の強みである植物分子科学研究を結集し、キャンパスや部局を広く跨がった分野横断・融合による卓越研究拠点を形成し、この分野をさらに強化して国内外において植物分子科学を先導する拠点を目指します。特に、本センターは地球と人類を支える植物について、植物分子(特に、遺伝子と成分)に注目し、ゲノムと環境で規定される植物機能の分子的解明とその応用を目的として研究を推進します。

### ベンチャービジネスラボラトリー

<http://www.vbl.chiba-u.jp/>

プロジェクトを組織し、新規産業創出に向けたシーズの開発を中心に、独創的かつ最先端の研究を推進しています。講義「ベンチャービジネス論」「ベンチャービジネスマネジメント」「ベンチャービジネストレーニング(Ⅰ)(Ⅱ)」を展開し、ベンチャーマインドの育成にも力を入れています。イノベーションを創出する研究やビジネスアイデアを学生から募る「なのはなコンペ」は、外部団体から支援を受け注目を集めています。

### アイソトープ実験施設

本実験施設は平成4年に設立した学内共同利用施設であり、放射性同位元素を使用する研究と安全管理・教育訓練等を行っています。施設内には、遺伝子実験室、細胞培養室、動物実験室、人工気候室、合成・化学実験室等があり、放射性同位元素を用いた様々な教育研究が実施できます。また、分子イメージング研究に適した小動物用SPECT/CT装置と代謝実験用機器も設置されており、多彩な分野の研究に対応した施設となっています。

### 教員養成開発センター

教員養成及び教員研修に関わる研究・教育を行うことを目的として平成25年4月に旧教育実践総合センターを改組してスタート。(1) 現職教員研修に関する事業 (2) 教育研究グローバル化推進に関する事業 (3) ICT教育研究に関する事業 (4) 地域教育貢献に関する事業 (5) 全学教職支援に関する事業 (6) 産学官連携教育推進に関する事業 (7) その他教員養成及び教員研修に関する事業等 を実施しています。

### 創造工学センター

<http://www.eng.chiba-u.ac.jp/souzou/index.html>

平成16年4月に設立され、ものづくり教育とそれに関連する研究、および産学官連携の拠点として展開しています。1階には、多様な材料の加工を行う加工・作業スペースとマイクロ加工・計測スペースが設置されています。2階には、コンピュータ上でデザインした図面から立体物を制作する装置や設計されたものの機能性・有効性をバーチャル空間で検証可能な実験装置を導入した製図・アトリエ・情報解析スペースが設置されています。

### ハドロン宇宙国際研究センター

<http://www.icehap.chiba-u.jp/>

平成24年に理学研究科(平成29年より理学研究院)の附属センターとして設置され、宇宙ニュートリノ探査と天体活動現象の理論・シミュレーション研究の連携により、高エネルギーハドロン放射源を特定し、粒子加速機構を解明する研究を推進しています。また、南極点のニュートリノ望遠鏡を用いた国際共同実験 IceCubeとその次期計画に参加し、国際共同研究拠点としての機能強化も目的としています。

### 次世代モビリティパワーソース研究センター

<http://mprocs.chiba-u.jp/>

平成25年グリーンイノベーション拠点事業(経産省)を実施するために設立され、次世代の自動車用動力源の研究開発とPBLによる人材育成を産学官連携で行うことを目的としています。平成27年度には国立大学法人施設整備費補助金によりシャシーダイナモシステムや車両燃費・排ガス計測システムが整備され、車両実運転時と規制値との乖離に関する研究を開始しました。平成29年度からは、国際共同研究も行っています。

### インテリジェント飛行センター

<https://caiv.chiba-u.jp/>

令和元年10月に千葉大学が設置した当センターでは、小型無人航空機(ドローン)など、次世代型アーバンエアモビリティの飛行システム技術を研究開発するとともに、関連分野の若手人材を積極的に育成します。自然界の生物を手本に持続可能な技術を生み出す「生物規範工学」と、これまでにない新しい「人工知能」、それに未来志向の「人材育成」を加えた3つの軸を基に、しなやかで強く、環境負荷の低い技術開発を進めます。

### 薬用資源教育研究センター

亥鼻および西千葉キャンパス、環境健康フィールド科学センター内の標本園、温室、試験圃場に、日本薬局方に収載されている薬用植物をはじめ、多種多様な有用植物が栽培され、これらは、主に薬学部・薬学研究院での薬用植物資源開発に関する総合的な教育・研究に活用されています。

### 看護実践研究指導センター

<https://www.n.chiba-u.jp/center/>

昭和57年に全国共同利用施設として設置、平成22年3月から唯一の「看護学教育研究共同利用拠点」として文部科学大臣の認定(令和2年4月再々認定)を受けました。拠点事業として、「Society5.0看護」創出拠点ーピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略ー」に取組み、看護学大学教員向け各種FD事業、看護管理者向け各種SD事業、全国公募共同研究等を実施しています。

### 専門職連携教育研究センター

<https://www.iperc.jp/>

専門職連携教育研究センター(Interprofessional Education Research Center; IPERC)は、亥鼻キャンパス高機能化構想の一環として、平成27年に開設されました。平成29年からは医薬系3学部(医・薬・看)に加え工学部とも連携し、亥鼻 IPE の企画運営を実施。国内及びアジア圏において、時代の要請に応え得る体系的な専門職連携教育・実践の発展及び進化を目的としてプログラムの開発・普及・研究等の活動をしています。

### クリニカル・スキルズ・センター

<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/ccsc/>

2012年に全県の医療者のスキルアップ目的で設置された当センターは国内でも有数の規模を持ち、年間約3万人が利用しています。経験の少ない学生では患者さんの診療やケアに当たる前にシミュレーターや模擬患者で初歩的な技術を繰り返し練習することができ、医療者においてはより難しい技術をレベルに合わせた難易度で設定して練習したり、めったに起こらないような状況を再現して繰り返し練習でき、着実なスキルアップを図ることができます。

### 法医学教育研究センター

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/class/houi/>

日本においては死因究明制度の充実が求められ、また虐待対応などにおいて法医学のニーズは増しており、法医学における人材育成は急務とされています。本センターは、そうしたニーズに対応すべく、学内外から医師、歯科医師、薬剤師、臨床検査技師等を集め、法医学病理学、法中毒、法遺伝子学、法歯科学、法医画像診断学、臨床法医学など多面的な観点から死因究明等を実施したり、被虐待児等の生体診察を行う人材を育成し、さらにキャリアパスモデルを提供します。

### 超高齢社会研究センター

超高齢社会研究センターは、医学的アプローチを推進する「超高齢社会臨床部門」、社会科学的・自然科学的アプローチを推進する「超高齢社会疫学部門」の2つの部門から構成され、超高齢社会に関連した研究を総合的に進めています。総合大学の特徴を生かし、各学部の高齢社会関連の研究室を始め、県内の自治体、関連職能団体、地元企業、地域社会と協働し、医療・介護の質向上と安心して暮らせる健康長寿社会の実現を目指します。

### 国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究センター

千葉大学は、新しい学術領域である「粘膜免疫・アレルギー治療学」を創成し、そこから得られる理論・技術を感染症・癌・アレルギー等の次世代型粘膜ワクチンの開発に結びつける試みに取り組んでいます。本研究センターはその拠点として、2016年4月、カリフォルニア大学サンディエゴ校と共同で双方の学内に設置されました。本センターを中心に最先端の免疫疾患・感染症の新規予防・治療開発を推進し、世界規模での健康増進、生活の質向上、医療費削減を目指しています。

### 治療学人工知能(AI)研究センター

平成30年4月に設置された当センターは、本学の医学研究院、附属病院等の基礎医学研究ビッグデータと医療ビッグデータを基盤に人工知能(AI)を構築し、実証研究及び臨床現場で実地利用を展開することにより、新しい学問領域として「AI治療学」を創成し、革新的な基礎研究の推進、精度の高い速やかな診断法の確立、これまでにない新たな治療法の開発、「AI治療学」を牽引する研究者、技術者など次世代を担う人材を育成します。

### バイオリソース教育研究センター

当センターは平成30年4月に設置されました。オミクス情報を駆使し臨床診断キットや創薬等の医療研究開発および実用化を抜本的に加速・革新すること、またがんゲノム医療など医療現場における遺伝子・オミクス診断体制を支援することを目的とした高品質なバイオリソースの備蓄・提供、オミクス解析、データ整備・提供を行います。国際競争に打ち勝ち研究開発・育成の基盤を産学官の力を結集して形成しています。

### 動物実験施設

本実験施設は、動物実験を主体とした研究・教育を行い、かつ実験動物の飼育管理、生産、開発及び系統保存を行うことを目的として、昭和58年に竣工されて以来、亥鼻地区の動物実験の中核施設として、幅広く利用されています。千葉大学における動物実験は平成19年度以降、千葉大学動物実験実施規程の下に全学の動物実験委員会により管理されており、活動概要が大学ホームページの大学案内「動物実験に関する情報」として公開されています。

**教育学部附属幼稚園** <http://kdg.e.chiba-u.jp/>

創立117周年を迎える歴史ある幼稚園です。教育目標「うごく」「かんじる」「かながえる」のもと、日々の保育を「子どもを主人公とした物語」ととらえ、子どもが主体的に取り組む保育、「対話」を重視した保育を実践しています。園地は面積約9,300㎡で広々としており、「さくらんぼ広場」「どんぐり広場」や「夢の森」を有し、子どもたちは四季折々の自然に触れながら生活しています。近年、工学部のデザインコースと連携して保護者や子どもたち、学生とともに大型遊具を作成し、チャレンジしたり、協同したりしながら育ち合える環境を大切にしています。

**教育学部附属小学校** <http://www.el.chiba-u.jp/>

昭和41年、附属第一小学校と附属第二小学校が統合され、千葉大学教育学部附属小学校として開校しました。令和元年度、文部科学省による次世代の教育情報化推進事業において情報教育推進校として指定されました。また令和2年度、パナソニック教育財団による実践研究助成事業において助成を受けて研究に取り組んでいます。その他、国立教育政策研究所から実践研究協力校として、国語科は令和元年度から、図画工作科は令和2年度から研究協力を行っています。令和2年度からは、学校全体でオンライン学習を通じた家庭学習等の新しい様式を取り入れました。

**教育学部附属中学校** <http://www.jr.chiba-u.jp/>

亥鼻にあった附属第一中学校と四街道にあった附属第二中学校が昭和40年に統合され、現在の西千葉地区に教育学部附属中学校として発足しました。「自己理解」「自己決定」「自己実現」という学校教育目標を掲げ、生徒の主体性を重んじた教育活動を行っています。それは生徒会を主催とした運動会、文化祭、三年生を送る会によく現れており、様々な伝統も引き継がれています。また、附属学校の使命の1つである教育研究開発に熱心に取り組んでおり、その成果を公開研究会等で発信しています。特にICT教育に力を入れて取り組んでいます。

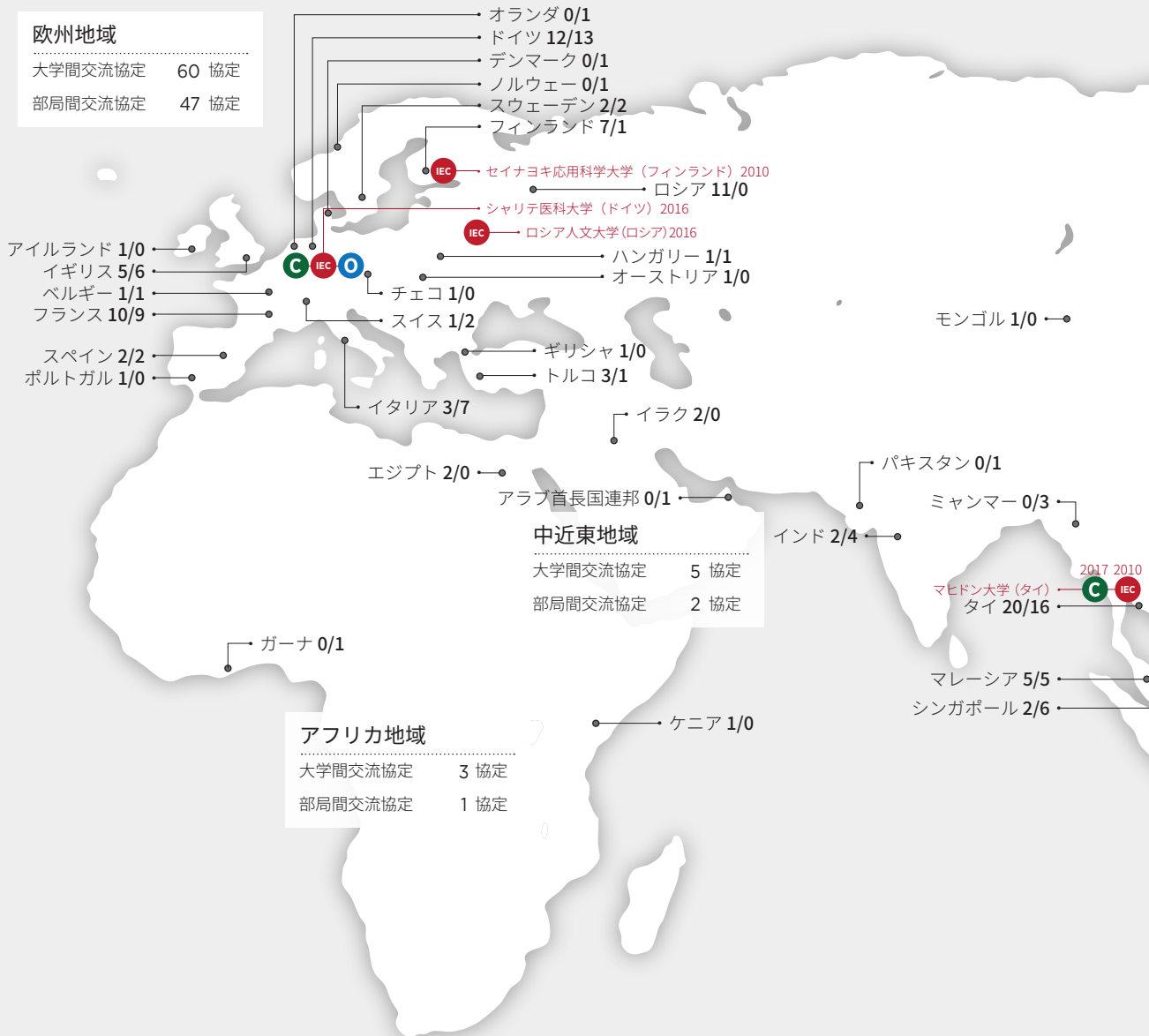
**教育学部附属特別支援学校** <http://yougo.e.chiba-u.jp/>

本校では、「遊びの指導」や「生活単元学習」、「作業学習」などの各教科等を合わせた指導を教育課程の中心に据えて、知的障害教育の実践や研究活動の推進に日々取り組んでいます。少人数ならではのきめ細かい指導と地域や保護者との連携を大切にして、諸活動において、子ども達一人一人が主体となり、「今日に満足し、明日を楽しむ学校」をキャッチフレーズとしています。昨年度から「深い学びを支える知的障害特別支援学校の授業づくり」を研究テーマとして、授業研究会や公開研究会等を行い、研究成果の発信に努めています。



## 戦略的海外拠点形成

※国名の後ろの数字は、各国の(大学間/部局間)協定数

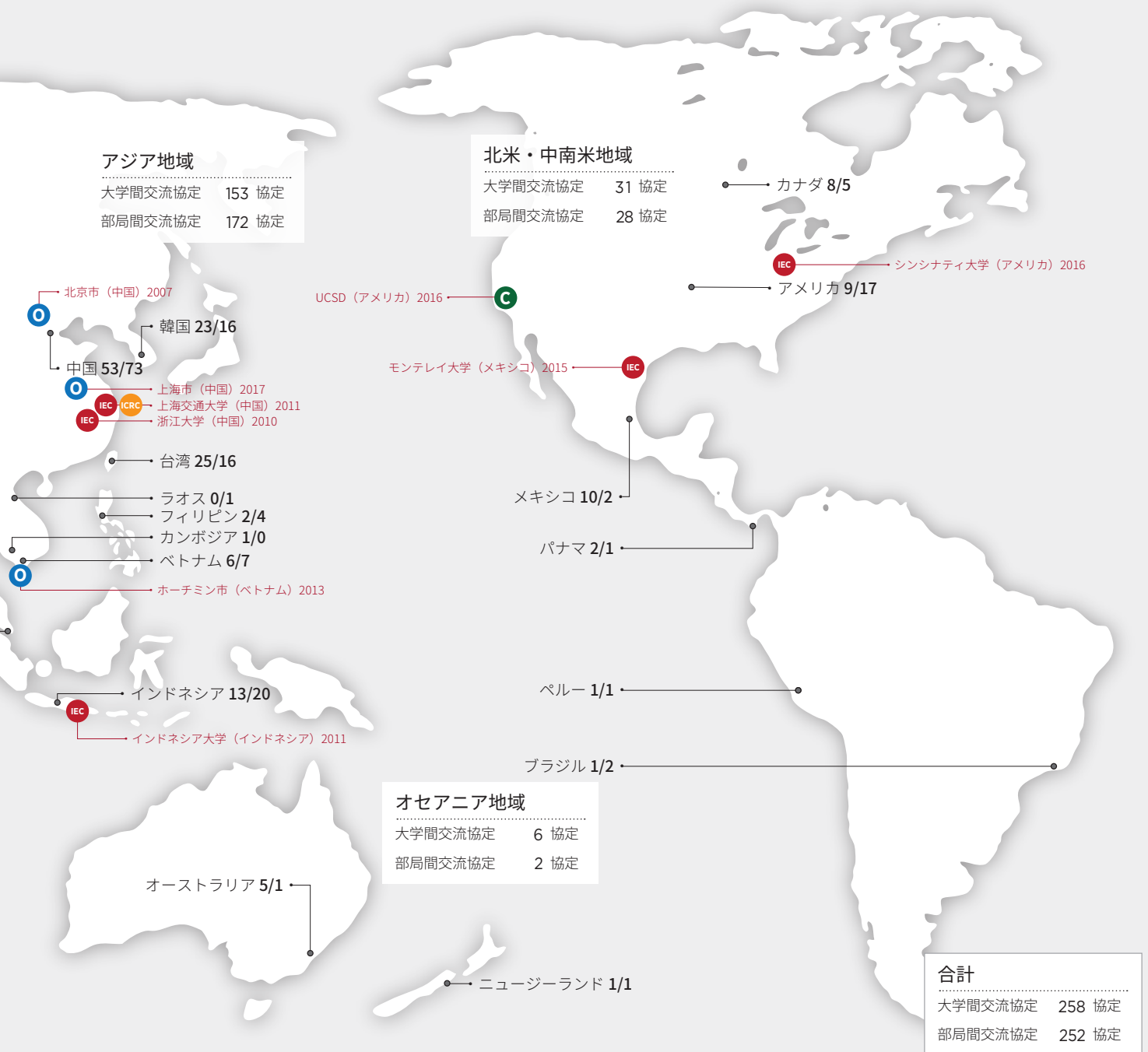


### グローバル・キャンパス推進基幹の設置とアジア+アセアン・イノベーション創生拠点の整備

千葉大学は、グローバル・キャンパスを目指し、戦略的な海外拠点形成として、各拠点を4つに分類して推進しています。この4つとは、海外キャンパス、ICRC(国際共同研究センター)、IEC(国際共同研究センター)、海外オフィスです。現在は、海外キャンパス3拠点、ICRC1拠点、IEC9拠点、海外オフィス4拠点、合計17拠点です。



これらの拠点を統括してマネジメントする「グローバル・キャンパス推進基幹」を学長直轄の運





営組織として創設し、学長の強いリーダーシップの下で本学のグローバル戦略に基づき管理・利活用する体制を構築しています。

これにより、本学のビジョンに掲げる「国際的なネットワークの構築による教育研究拠点の創成」を強力に推進し、「イノベーションの創出に向けた産学連携研究の推進・強化／イノベーション創出人材の育成と組織改革」を図り、「卓越した教育・研究力による国際的な信頼の向上」に繋げていきます。

-  海外キャンパス
-  ICRC (国際共同研究センター)
-  IEC (インターナショナル・エクスチェンジ・センター)
-  海外オフィス

サンディエゴ・キャンパス



3<sup>rd</sup> Annual CU-UCSD cMAV Symposium  
にて(2019年2月13-15日開催)

千葉大学は平成28年4月に、「国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究拠点形成事業」の米国拠点として、世界トップクラ

スの大学であるカリフォルニア大学サンディエゴ校(UC San Diego)医学部にサンディエゴ研究センターを設置しました。

このサンディエゴ研究センターと、亥鼻キャンパスに設置した千葉研究センターを中心に世界最先端の国際共同研究を推進しており、その研究成果発表と研究者間交流のため、共同シンポジウムを毎年開催しています。

ベルリン・キャンパス

平成26年に採択された「スーパーグローバル大学創成支援事業」の一環として、平成28年6月、シャリテ・ベルリン医科大学(ドイツ)内に千葉大学ベルリン・キャンパスを設置しました。

シャリテ・ベルリン医科大学は、EUでも最大の規模を誇る医科大学です。本学の公衆衛生やグローバルヘルスなど、医学・薬学を中心とした教育・研究活動をこのキャンパスで展開し、ヨーロッパの拠点として交流のネットワークを拡大していきます。

バンコク・キャンパス



平成26年に採択された「スーパーグローバル大学創成支援事業」の一環として、平成29年9月に、MUIC(マヒドン大学インターナショナルカレッジ)(タイ)内に千葉大学バンコク・キャンパスを設置しました。

MUICは、タイの国立大学で初めて設置された全ての講義を英語で行うリベラルアーツカレッジとして多

岐にわたる教育・研究活動を展開しています。

本学は、国際教養学部を中心に全学的な国際教育の拠点とするとともに、タイにおける主要な研究機関との国際共同研究を推進していきます。

海外設置拠点(ボゴール農科大学)

インドネシア最高水準の農学・植物学系国立大学であるボゴール農科大学は、人材育成に向けた研究・教育を通じインドネシアの総合的な発展に寄与し、極めて高く評価されています。

本学は、平成22年ボゴール農科大学との間に締結したダブルディグリー協定や学生・教員の派遣・受入れなど、活発な交流を行ってきました。

今後も、インドネシア最高のイノベティブ大学であるボゴール農科大学とアジア圏全体の教育研究ネットワーク基盤構築に向け、連携活動を推進していきます。

海外設置拠点(ロシア人文大学)

平成28年1月、ロシア人文大学内に、教育・研究交流の拠点となる「千葉大学日本センター」を設置しました。

ロシア人文大学は、ロシア文学分野で世界最高峰の研究水準を誇り、本学文学部を中心に活発に交流しています。

千葉大学・上海交通大学国際共同研究センター(ICRC)

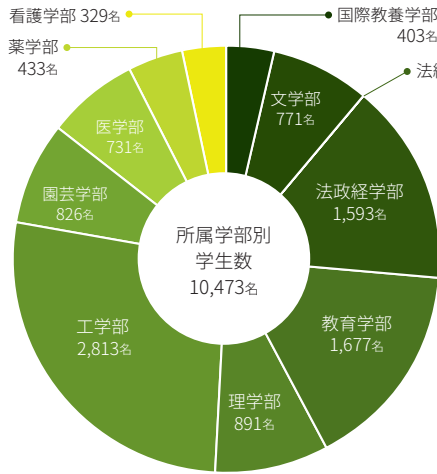


千葉大学と上海交通大学両キャンパスに設置され、両大学から教職員及び大学院生を結集して、先端的・先導的な学術研究、産学連携による研究開発及び有能な若手研究人材を育成するとともに、学術研究の国際交流を促進します。多様性に富んだ生物システムの力学現象や技術体系を探求し、人間の技術体系にインスピレーションやイノベーションを与えてバイオロボティクスや医工学等への応用研究を遂行するとともに、「生物規範工学」の国際的・学際的教育研究拠点を形成します。

# 学生数(学部・大学院・研究生等)

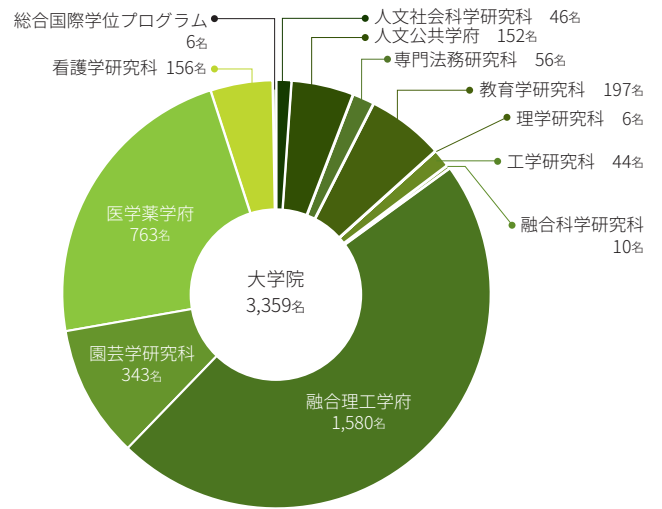
## 学部学生在籍者数

(令和2年5月1日現在)



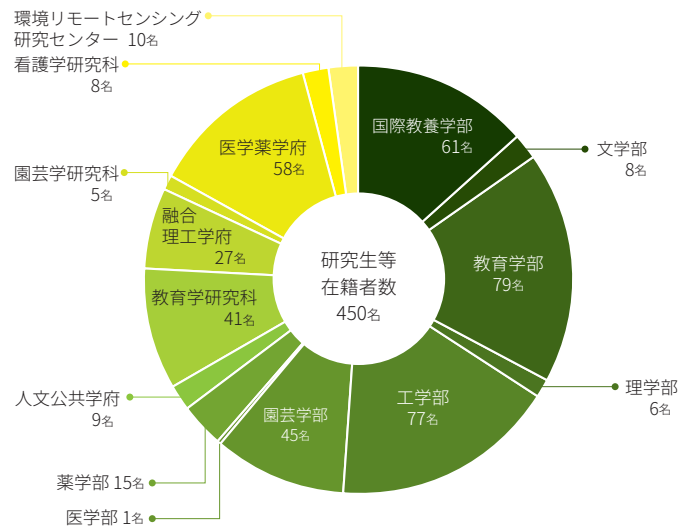
## 大学院学生在籍者数

(令和2年5月1日現在)



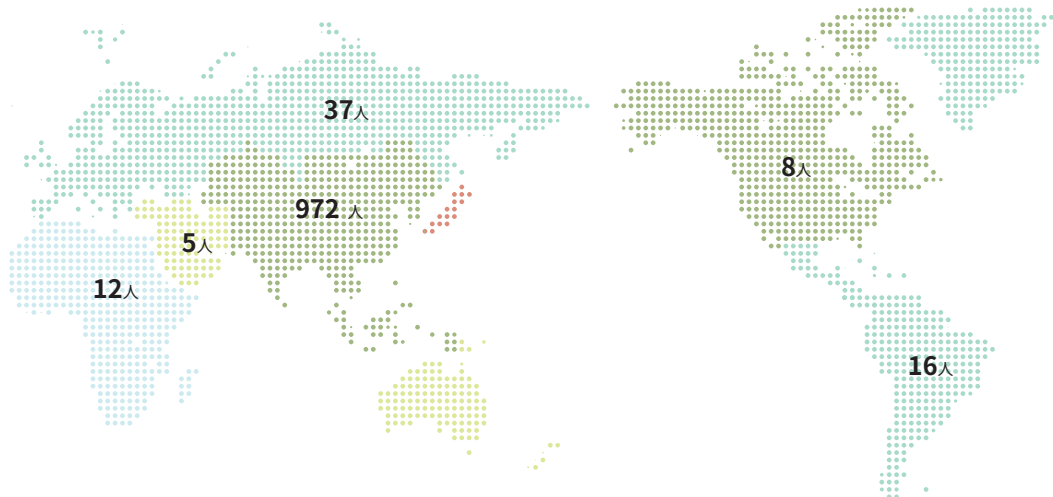
## 研究生等在籍者数

(令和2年5月1日現在)



## 外国人学生分布

(令和2年5月1日現在)



## | 決算・予算

07.1

## 令和元事業年度決算

(単位:百万円)

## 貸借対照表

令和2年3月31日における本学の財政状態を示すもので、平成16年の法人化移行時に国から引き継いだものも含めて、すべての資産、負債及び純資産の状況を表します。

資産 230,089	負債 69,190
	純資産 160,898
現金及び預金 (内数) 16,397	未処分利益 (内数) 900

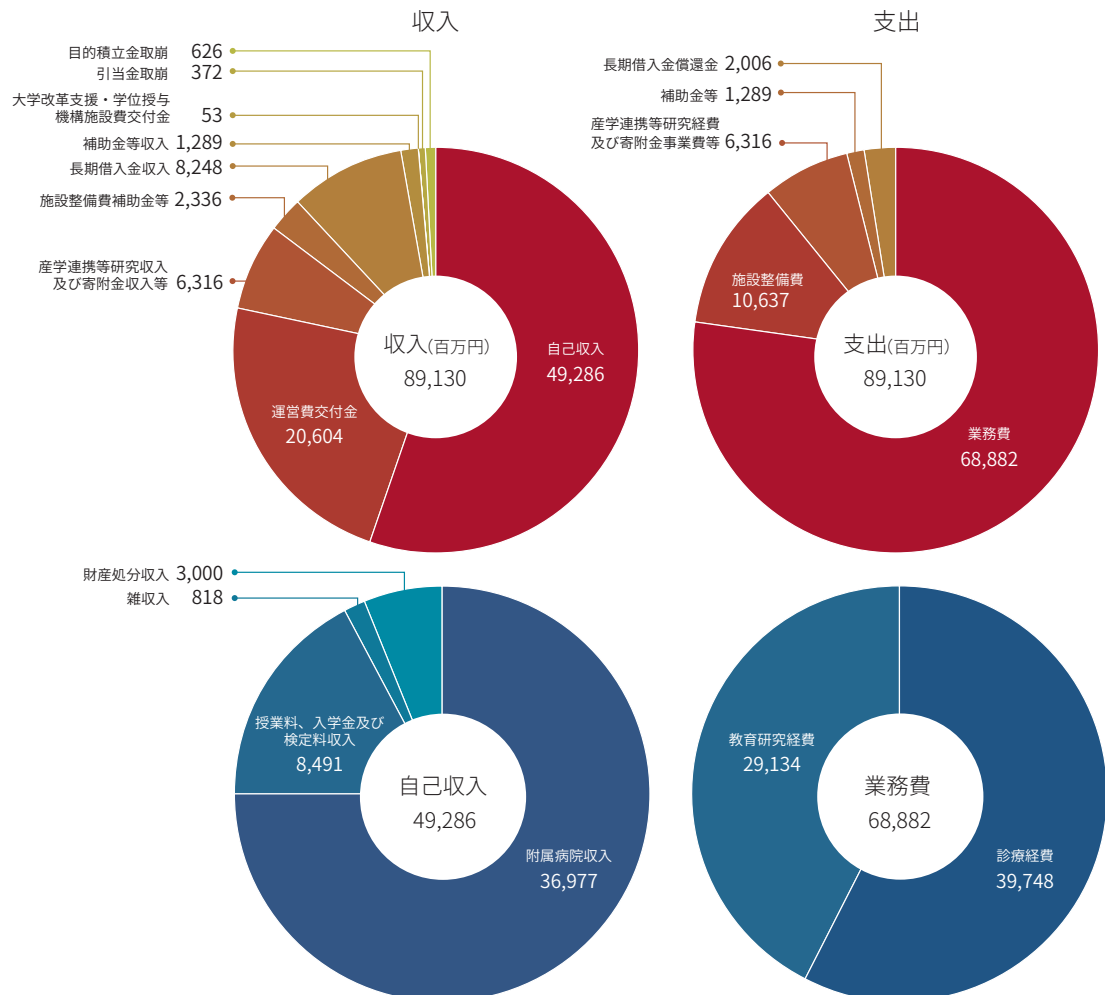
## 損益計算書

平成31年4月1日～令和2年3月31日の本学の事業規模を明らかにするもので、本学の教育・研究等の業務運営に要した費用、運営費交付金・自己収入等による収益や利益の発生状況を表します。

経常費用 + 臨時損失 71,294	経常収益 + 臨時利益 72,194
当期総利益 900	

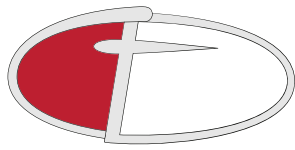
## 令和2年度予算

(単位:百万円)



[人件費の見積り] 期間中総額33,558百万円を出す。(退職手当は除く)

## 千葉大学学章



昭和24年10月に学内公募により『千葉大学バッジ』として制定された、歴史や伝統を反映した由緒あるこのマークを、平成25年4月に千葉大学の学章として制定しました。デザインは故赤穴宏氏(元千葉大学名誉教授)によるものです。Chiba Daigakuの頭文字「C」と「D」を組合せるとともに、千葉大学の「千」を配して構成されたもので、輪郭は無限の生命力を象徴する植物の種子を形どっています。左側部分の暗紅色は情熱を、右側部分の白色は純粋を表現しています。

## 千葉大学コミュニケーションマーク



CHIBA  
UNIVERSITY

国際教養学部を設置や、全部局で世界最高水準の教育研究を行う第三群の大学として改革を進めていく本学の姿を象徴するマークとして、平成28年4月に制定しました。シンボル部分は本学のビジョン「Global、Research、Innovation、Branding、Synergy」の原動力となる『コミュニケーション』と、本学の長い歴史とともに歩んできた大学カラーの『ガーネット』をキーワードとしています。構成員一人ひとりが、様々な場面でこのマークを使用することで、大学の一体感を強めるとともに、千葉大学ブランドを高めていきます。

## 千葉大学旗

昭和35年2月に学旗として承認されたもので、学章と同じ色彩が取り入れられています。



## 千葉大学歌

昭和35年2月制定  
勝 承夫 作詞 平井康三郎 作曲

01 若い空 若い地(つち) 房総の 風は歌うよ  
大洋の意気 寄せ来るところ  
内海の和気ただようところ  
みよ 青春の花のよこび  
千葉大学 心のふるさと

03 若い雲 若い鳥  
黎明の 星は光るよ  
躍進の道 はるかにひらけ  
純情の友 楽しく競う  
みよ 永遠の聖火燃えたとつ  
千葉大学 栄あるまなびや

02 晴れわたる 満ちわたる  
新鮮な 汐の香よ  
向学の窓 清らに高く  
探究の庭 はてなく 広く  
みよ 燦然と叡智あつまる  
千葉大学 文化のさきがけ

日本音楽著作権協会(出)許諾  
第2006701-001号

## やよいの鐘



千葉大学創立30周年記念事業の一環として附属図書館本館棟屋に設置され、昭和57年3月に除幕式が行われました。現在も西千葉キャンパスの附属図書館L棟の屋上に設置されています。鐘の上部にはラテン語で「つねに、より高きものをめざして」を意味する“AD ALTIORA SEMPER”の語が刻まれています。

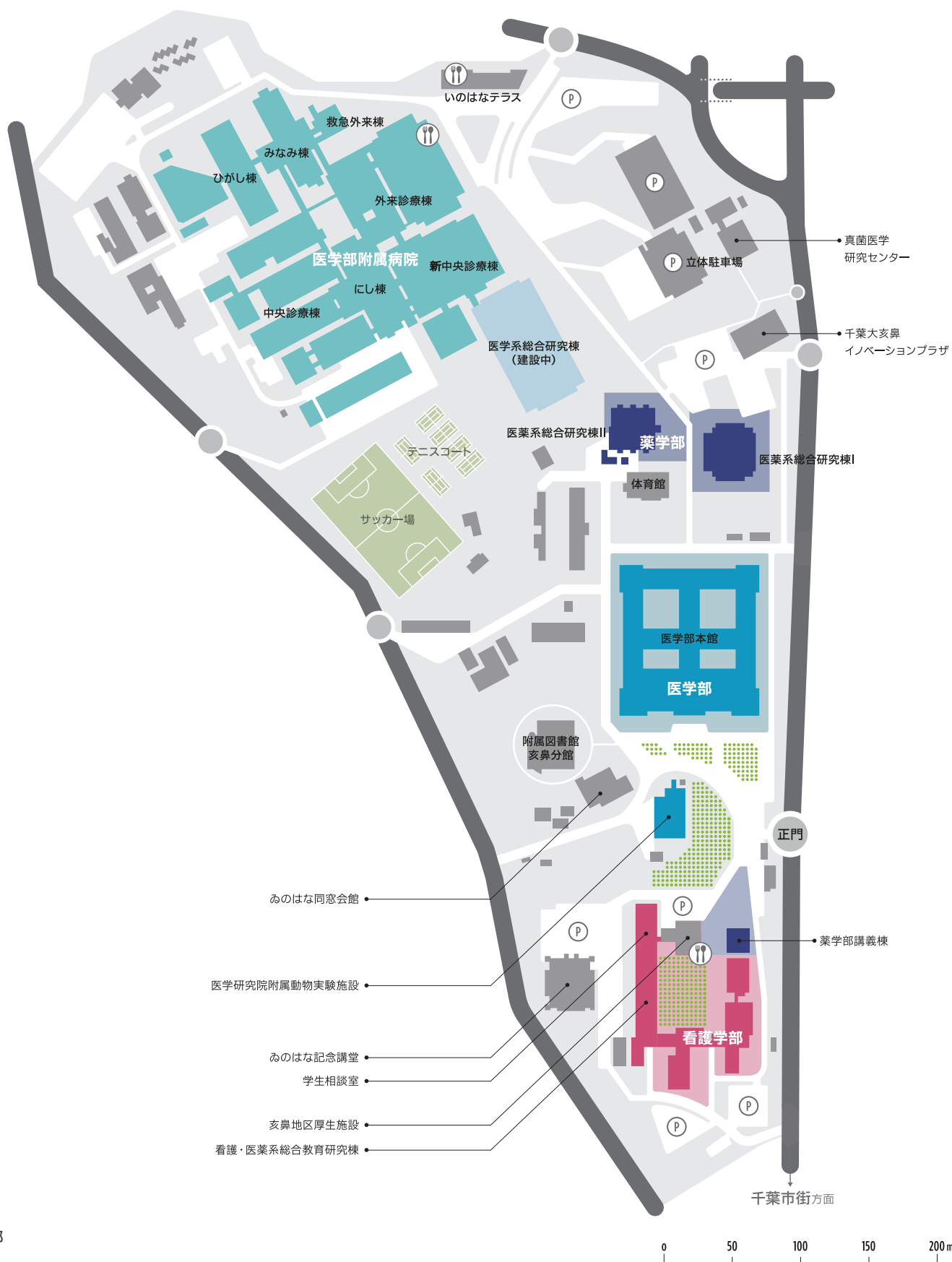
## 千葉大学マスコット

千葉大学創立70周年記念事業の一環として誕生し、平成31年4月に任命書が発行されました。それぞれのマスコットの顔は学部を置く各キャンパスの形になっていて、「ニシ」は西千葉キャンパス、「イノ」は亥鼻キャンパス、「マツ」は松戸キャンパスの形をしています。





〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33  
TEL 043-251-1111



- 医学部
- 薬学部
- 看護学部

〒260-8670 (医)、〒260-8675 (薬)、〒260-8672 (看)、〒260-8673 (真菌)、〒260-8677 (附属病院) 千葉市中央区亥鼻1-8-1  
TEL 043-222-7171



● 園芸学部

〒271-8510 松戸市松戸648  
TEL 047-308-8706





# アクセス

## 西千葉キャンパス

国際教養学部・文学部・法政経学部・教育学部・理学部・工学部

- JR品川駅・東京駅から - JR総武線(快速)利用の場合:「稲毛」駅で総武線(普通)に乗り換え「西千葉」駅下車、徒歩2分(キャンパス南門)
- JR秋葉原駅から - JR総武線(普通)利用の場合:「西千葉」駅下車、徒歩2分(キャンパス南門)
- 京成線上野駅から - 京成本線利用の場合:「京成津田沼」駅で京成千葉線に乗り換え「みどり台」駅下車、徒歩7分(キャンパス正門)

## 亥鼻(いのはな)キャンパス

医学部・薬学部・看護学部

- JR品川駅・東京駅から - JR総武線(快速)利用の場合:「千葉」駅下車、JR「千葉」駅東口正面7番のバス乗り場から「千葉大学病院」又は「南矢作」行きバスに乗り約15分、「千葉大医学部入口」で下車、薬学部へは同バス「千葉大薬学部前」で下車
- 京成線上野駅から - 京成本線利用の場合:「京成津田沼」駅で京成千葉線に乗り換え「京成千葉」駅下車、JR「千葉」駅東口正面7番のバス乗り場から「千葉大学病院」又は「南矢作」行きバスに乗り約15分、「千葉大医学部入口」で下車、薬学部へは同バス「千葉大薬学部前」で下車

## 松戸キャンパス

園芸学部

- JR上野駅から - JR常磐線利用の場合:「松戸」駅下車、東口より徒歩約15分
- 京成津田沼駅から - 新京成線利用の場合:新京成線「松戸」駅下車、東口より徒歩約15分
- JR総武線市川駅から - 京成バス「松戸営業所」又は「<矢切経由>松戸駅」行きに乗り約30分、「小山」バス停下車、徒歩約5分

## 柏の葉キャンパス

環境健康フィールド科学センター

- JR秋葉原駅から - つくばエクスプレス利用の場合:「柏の葉キャンパス」駅下車、徒歩約5分
- 柏駅から - JR又は東武柏駅西口バス2番乗り場から、東武バスイースト「国立がん研究センター」又は「柏の葉キャンパス駅西口」行きバスに乗り約20分、柏の葉高校前下車、徒歩8分

- つくばエクスプレス
- JR山手線
- JR中央・総武各駅停車
- JR総武快速線・横須賀線
- 京成線・新京成線
- 京成千葉線・京成千原線
- JR常磐線・成田線・総武本線
- JR武蔵野線
- JR京葉線
- 東京モノレール
- 京浜急行電鉄
- JR内房線・外房線
- 東武野田線



- 備考 羽田空港から:  
東京モノレールでJR「浜松町」駅、JR山手線に乗り換え「東京」駅・「秋葉原」駅・「上野」駅を経由して、各キャンパスへ

※電車・バス等の情報は令和2年8月現在のものです



# 千葉大学SEEDS基金は、 チャレンジを支え、人を育てる基金です

千葉大学は、平成18年にSEEDS基金を創設し、  
多くの皆様からご支援いただいております。  
寄せられた寄付金は、大切に運用しながら、本学の教育研究活動等に活用しています。

— いただいたご寄付により、様々な支援を行っています —



● 奨学金・支援金の給付

約 **3,006** 万円

被災などにより家計が急変し経済的支援が必要となった学生や、優秀でありながらも経済的に困窮している学生に奨学金を支給した。



● 海外渡航支援

約 **1,189** 万円

グローバル人材の育成を目指し、学生の海外渡航や、若手研究者の海外での研究活動のための渡航費を助成した。

令和元年度  
支援金額  
約 **5,877** 万円



● 図書館への本の設置

**135** 万円

学生が希望する、学業に関する書籍等を図書館に設置した。



● その他

約 **1,023** 万円

松戸キャンパスのアカデミック・リンクの整備や、学部周年記念事業を支援した。



● 課外活動団体への支援

約 **524** 万円

顕著な成績を修めた公認課外活動団体(サークル活動)への支援等を行った。

**SEEDS** 基金  
寄付額

17,824名の方から、  
765,490,529円のご寄付を頂戴  
いたしました。

令和2年3月末現在

AD ALTIORA SEMPER  
UNIVERSITAS CHIBA

# 2020

CHIBA UNIVERSITY

〒263-8522 千葉県稲毛区弥生町1-33  
[www.chiba-u.jp](http://www.chiba-u.jp)

Copyright (C) 2020 Chiba University. All Rights Reserved.



2020

千葉大学  
概要

DATA SUMMARY



CHIBA UNIVERSITY



# CONTENTS

## 大学概要

01	国際交流 .....	
01.1	学術交流協定	01
01.2	日本人学生の留学・派遣状況	11
01.3	外国人学生	13
01.4	外国人研究員の受入れ数等	15
02	社会連携 .....	
02.1	連携協定	16
02.2	公開講座の実施状況	17
02.3	高大連携	17
03	組織・施設 .....	
03.1	役職員等	18
03.2	役員・教職員数	21
03.3	附属図書館	22
03.4	附属学校	23
04	学生 .....	
04.1	学生数(学部、研究生等)	23
04.2	学生数(大学院)	26
04.3	入学状況(学部)	27
04.4	学位授与者数	30
04.5	卒業生の進路状況	31
04.6	修了生の進路状況	32
05	財務 .....	
05.1	決算	33
05.2	科学研究費助成事業	34
05.3	外部資金	34
05.4	特許出願	34
05.5	土地・建物及び所在地	35
06	沿革 .....	
		36

大学間協定		
アジア地域		令和2年5月1日現在
国名	大学名	締結年月日
インド	○インド情報技術大学ジャバルプール校	2012. 6.22
	○ナショナル・インスティテュート・オブ・デザイン	2017. 4.17
	○ガジヤマダ大学	1990.10. 4
	○インドネシア大学	1997.12.29
	○バンドン工科大学	2006. 3.16
	○ウタヤナ大学	2007. 7.20
インドネシア	○ハサヌティン大学	2007. 9.12
	○ボゴール農科大学	2010. 3.19
	○バジャジャラン大学	2011. 1.28
	○セブルフノベンベル工科大学(スラバヤ工科大学)	2012. 7.24
	○ディボネゴロ大学	2012. 8. 3
	○インドネシア気象・気候・地球物理庁	2014.11.10
	○リアウ・イスラム大学	2016.11.21
	○シャクアラ大学	2017. 8. 4
	○セベラスマレット大学	2017.11. 2
	○全北大学	2004. 3.15
韓国	○延世大学校	2010.10.21
	○ソウル国立大学	2011. 8.29
	○朝鮮大学校	2011. 9. 6
	○金剛大学校	2015. 6. 5
	○成均館大学	2015.11.11
	○亜洲大学校	2015.11.30
	○金慶大学校	2016. 2.24
	○慶熙大学校	2016.12.13
	○仁済大学校	2017. 1. 5
	○国立公州大学校	2017. 1. 5
	○明知大学	2017. 3. 2
	○中央大学	2017. 6.13
	○淑明女子大学	2017.11. 8
	○国民大学	2017.11. 8
	○蔚山科学技術大学校	2017.11.29
	○ソウル科学技術大学	2017.12.18
	○仁川大学	2017.12.20
○国立韓京(ハンギョン)大学	2018. 3. 8	
○ソウル市立大学	2018. 7.23	
○江原大学校	2018. 9. 6	
○誠信女子大学	2019. 1.11	
○国立釜山大学	2019. 7. 1	
カンボジア	○王立プノンベン大学	2009.12.16
シンガポール	南洋理工大學	2007.11. 7
	○シンガポール工科デザイン大学(SUTD)	2015. 4.10
タイ	○プリンス オブ ソンクラ大学	1996. 5. 9
	○カセサート大学	2000. 3. 8
	○チュラロンコーン大学	2000. 9.29
	○マヒドン大学	2008.10.29
	○泰日工業大学	2010. 1.18
	シルパコーン大学	2011. 3. 3
	○アジア工科大学院	2012. 8.31
	○キングモンクット工科大学トンプリ校	2013. 3.28
	○チュラポーン大学院大学	2013.11.22



国名	大学名	締結年月日
タイ	○ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校	2015. 3.24
	○チェンマイ大学	2015. 6.23
	○メーファールアン大学	2016. 8.26
	○ランシット大学	2017. 8.16
	○コンケン大学	2017.12.26
	メコン機構	2018. 2.11
	○サイアム大学	2018. 3.29
	スワンスナンター・ラーチャパット大学	2018. 5.24
	○メージョー大学	2018. 8.20
	チュラポーン研究所	2019.12.11
	○ラチャモンコン工科大学イサーン校サコンナコンキャンパス	2020. 3.17
	○南台科技大学	2006.12. 6
	雲林科技大学	2006.12.10
	○国立成功大学	2006.12.19
台湾	○東海大学	2008. 9. 1
	国立台湾大学	2008.11. 5
	高雄医学大学	2012. 5. 2
	○国立台湾芸術大学	2012. 7.12
	○国立清華大学	2015. 2.12
	国家実験研究院	2015. 6. 5
	銘伝大学	2015.11.10
	○台北教育大学	2016. 3.15
	○国立交通大学	2016. 5.10
	○文藻外語大学	2017. 4.20
	○大同大学	2017. 8.22
	○台北医学大学	2017.11. 2
	○国立中央大学	2017.11.22
	○国立政治大学	2018. 8.20
	○中原大学	2018.10. 3
	○国立高雄大学	2018.10.22
	○実践大学	2019. 2.22
	○国立台湾師範大学	2019. 4. 1
	○高雄師範大学	2019. 7.30
	国立台中教育大学	2019. 8.29
	○国立中山大学	2019. 9.25
	○淡江大学	2019.12.23
	中国	○湖南大学
○中国農業大学		2001.10.15
○南京農業大学		2002. 9.28
○上海交通大学		2002.10.25
○貴州大学		2006. 6.20
○清華大学		2007.12.25
○中央民族大学		2009. 2.17
○新疆師範大学		2010. 5.10
○浙江工業大学		2010. 6. 9
○浙江大学		2010. 6. 9
○安徽医科大学		2010. 6. 7
○南京信息工程大学		2011. 4. 6
○北京印刷学院		2011. 9.13
○浙江工商大学		2012. 5.31
○中国美术学院		2013. 3.19
中国医科大学		2013. 6.26
○天津中医药大学		2013. 9.16
○大連理工大学		2013.12.19
○華東理工大学		2013.12.27
○魯東大学		2014. 5.20

国名	大学名	締結年月日
中国	東北師範大学	2014.11. 4
	大連医科大学	2015.11.18
	○電子科技大学	2015.12. 5
	○烟台大学	2016. 1. 7
	○北京郵電大学	2016. 6. 1
	○北京林業大学	2016. 9. 8
	○中南大学	2016. 9.23
	○広州美術大学	2016.12.25
	○西北工業大学	2017. 3. 9
	河北医科大学	2017. 3.20
	○長春理工大	2017. 4.24
	湘潭大学	2017. 5. 9
	○済南大学	2017. 6.27
	○西安交通大学	2017. 7. 1
	○復旦大学	2017.11.21
	○湖南師範大学	2018. 3.14
	○江蘇大学	2018. 3.16
	華僑大学	2018. 4.17
	○上海大学	2018. 5. 8
	○東華大学	2018. 5. 8
	○南京林業大学	2018. 6. 5
	○北京理工大学	2018. 8.30
	○ハルビン工業大学	2018. 9. 2
	○西華師範大学	2018. 9.21
	華東師範大学	2018.10.26
	○江南大学	2018.12.26
	○蘭州大学	2019. 7.24
○浙江伝媒大学	2019.10. 9	
○華南理工大学	2019.12. 2	
○湖北大学	2019.12. 6	
江西財経大学	2019.12.26	
○鄭州大学	2020. 1.10	
○中国農業科学院農業環境及び可持續發展研究所	2020. 2.20	
フィリピン	○フィリピン大学ロスバニョス校	2013. 5.14
	○アテネオ・デ・マニラ大学	2016.11. 4
	○ノンラム大学	2013. 2.26
	○インターナショナル大学	2015.12.28
ベトナム	○ホーチミン技術師範大学	2017. 3. 3
	○ホンバン国際大学	2017. 3. 3
	○ハノイ大学	2019. 7.16
	○ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学	2019. 8. 1
	○サラワク大学	2010. 4. 5
マレーシア	○マルチメディア大学	2010. 9.15
	○マラヤ大学	2013. 2.26
	○プトラ・マレーシア大学	2016. 8. 5
	○テナガナショナル大学	2016. 9. 7
モンゴル	○モンゴル生命科学大学	2015. 9.28
<b>北米地域</b>		
国名	大学名	締結年月日
アメリカ	○アラバマ大学タスカルーサ校	1984. 1.15
	○ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校	1996. 4.15
	○イリノイ大学シカゴ校	1996. 9.25
	アリゾナ大学	2005. 5.19
	○ウィスコンシン大学ミルウォーキー校	2006.10.10
	○ニュースクール大学	2012. 4.10

国名	大学名	締結年月日
アメリカ	○シンシナティ大学	2012. 7.10
	○カレッジ・フォー・クリエイティブ・スタディーズ大学	2015.11.25
	ライス大学	2016. 7.27
カナダ	○アルバータ大学	1996. 9.18
	マギル大学	2015.10.19
	○プリンスエドワードアイランド大学	2016. 5. 6
	○レジャイナ大学	2017. 5.23
	○セントメアリーズ大学	2017.10.12
	○レイクヘッド大学	2018. 3.27
	カールトン大学	2018. 5.12
○フレーザーバレー大学	2019.12.10	

## 欧州地域

国名	大学名	締結年月日	
アイルランド	アイルランド国立大学ダブリン校	2016. 7.27	
	ロンドン大学教育研究所	2011. 3. 3	
イギリス	○グラスゴー美術大学	2011.10.12	
	○ノーザンブリア大学	2015.11.10	
	○ヨークセントジョン大学	2018. 4.26	
	○ダラム大学	2019. 7.10	
イタリア	○ミラノ工科大学	2009.10.26	
	○工業デザイン大学ローマ校	2012. 5. 8	
	ローマ大学(ラ・サピエンツァ)	2013. 2.18	
オーストリア	ウィーン医科大学	2010. 7.12	
ギリシャ	○アリストテレス大学	2014. 2.28	
スイス	ベルン応用科学大学	2012.12. 5	
スウェーデン	○リンショーピング大学	2007. 2.20	
	ウプサラ大学	2008.10. 5	
スペイン	○サラマンカ大学	2015.12. 8	
	○バスク州立大学	2017. 9.28	
チェコ	○オストラバ大学	2018.12.10	
	○ゲッティンゲン大学	1982. 5.13	
	○ライプツィヒ大学	2000. 3. 2	
	○デュッセルドルフ大学	2007. 5.21	
	○ハイデルベルク大学	2010. 3.25	
	フンボルト大学	2010. 5.19	
	シャリテ・ベルリン医科大学	2010.10.12	
	○ケルン応用科学大学	2012.11. 1	
ドイツ	○ローゼンハイム応用科学大学	2013.11.18	
	ブラウンシュバイク工科大学	2014. 2.17	
	○ドレスデン応用科学大学	2015. 6.11	
	○ベルリン自由大学歴史・文化学部	2016. 7.12	
	○アウクスブルク専門大学	2020. 4. 6	
	ハンガリー	○デブレツェン大学	1996.12. 3
		○セイナヨキ応用科学大学	2000. 9.29
○東フィンランド大学		2004. 9.13	
フィンランド	○アールト大学芸術デザイン校	2008. 6.30	
	○ラップランド大学	2009. 4.22	
	○タンペレ工科大学	2015.12. 3	
	○ユヴァスキュラ大学	2016. 2.29	
	○タンペレ大学	2018. 5. 2	
	○バリ東大学	2007. 9. 7	
フランス	○レンヌ第一大学	2008. 5.29	
	○ESIGELECルーアン工学学校	2009. 9.21	
	○ナント大西洋デザイン大学	2010. 1. 4	
	○パリ・デザイン大学	2010. 2.16	

国名	大学名	締結年月日
フランス	○ストレート大学	2010. 6. 7
	○ラサール・ボーヴェ工科大学-ESITPA	2016. 7. 4
	エコール・ノルマル・シューベリウール・バリ サクレ	2017. 5.31
	ニースソフィアアンティボリス大学	2017.12.19
ベルギー	○ブルゴーニュ大学	2018. 5.29
ポルトガル	○リエージュ大学	2018. 5. 7
ロシア	○IADE (ビジュアルアート・デザイン・マーケティング大学)	2013. 3. 4
	○モスクワ国立大学	2007. 5.31
	○ロシア人文大学	2009. 7.15
	○ロシア国立研究大学高等経済学院	2013.10.12
	○リャザン国立大学	2015.10. 2
	○ロシア国立沿海地方農業アカデミー	2017. 3.28
	○サハリン国立総合大学	2017. 5.24
	○サンクトペテルブルク工科大学	2017. 5.29
	○ウラル連邦大学	2017.11.23
	○極東農業大学	2019. 4. 1
○ノボシビルスク農業大学	2019. 6. 5	
○ノボシビルスク国立教育大学	2020. 3.13	

### オセアニア地域

国名	大学名	締結年月日
オーストラリア	○モナシュ大学	1994. 5.30
	○オーストラリア国立大学	1996. 3.30
	シドニー大学	2000. 2.29
	○RMIT大学(ロイヤルメルボルン工科大学)	2010.10. 8
ニュージーランド	○マッコリー大学	2011. 2. 9
	マッセイ大学	2015. 5.12

### 中近東地域

国名	大学名	締結年月日
イラク	バグダード大学	2017. 2.13
	ムスタンシリーヤ大学	2018. 2.19
トルコ	○アクデニズ大学	2011. 6.26
	○イスタンブール工科大学	2013. 3.15
	○イリディズ工科大学	2013.10.22

### 中南米地域

国名	大学名	締結年月日
メキシコ	○アグアスカリエンテス自治大学	2011.10.28
	○ヴェラクルス大学	2013. 9.30
	○モンテレイ大学	2014. 7. 8
	○パンアメリカン大学	2015.12.25
	○モンテレイ工科大学	2016. 2. 2
	○イペロアメリカナ大学	2016.11. 1
	○グアダハラハラ大学	2017. 1.11
	グアナファト大学	2018. 2.19
	○メトロポリタン自治大学	2018. 9.27
パナマ	○メリダマリスタ大学	2019. 1.16
	○パナマ工科大学	2016. 1. 8
	○パナマ大学	2016. 1. 8
ブラジル	州立カンピーナス大学	2001. 9. 3
ペルー	ペルー国立工科大学	2011. 1.18

### アフリカ地域

国名	大学名	締結年月日
エジプト	○カイロ大学	2009. 3.23

国名	大学名	締結年月日
エジプト	エジプト国立リモートセンシング宇宙科学機関	2017.12. 3
ケニア	○ジョモ・ケニヤッタ農工大学	2019. 5. 3
以上258協定		○印:学生交流協定を締結している協定校

## 部局間協定

アジア地域			令和2年5月1日現在	
国名	大学名・部局名	部局名(締結時)	締結年月日	
インド	タミールナドゥ農業大学	園芸学部・園芸学研究科	2010. 9.24	
	インド農業科学大学農学部バンガロール校	園芸学研究科	2013. 1.22	
	SRM大学理工学部	薬学部	2016. 6.30	
	ジャワハルラーネルー農業大学	教育学部	2017.11.23	
	インドネシア科学院地質工学研究開発センター	理学部・理学研究科	2001. 3.14	
	ポゴール農業大学農学部	園芸学部・自然科学研究科	2001.12.12	
	ランブマンクラット大学農学部コラボレーションセンター	園芸学部・自然科学研究科	2006. 8. 4	
	インドネシア気象・気候・地球物理庁	理学部・理学研究科	2008.11. 7	
	ガジヤマダ大学理学部	工学部・工学研究科	2009. 9. 1	
	ハサヌディン大学環境研究センター・理学部	融合科学研究科・ 環境リモートセンシング研究センター	2012. 7. 5	
ガジヤマダ大学地理学部	融合科学研究科・ 環境リモートセンシング研究センター	2012. 7.10		
ウダヤナ大学大学院プログラム	融合科学研究科・環境リモートセンシング研究センター	2012. 7.18		
インドネシア	インドネシア大学工学部・理学部	工学研究科・融合科学研究科・ 環境リモートセンシング研究センター	2012. 7.31	
	バンドン工科大学デザイン学部・地球工学部・ 生命工学部	工学研究科・融合科学研究科・ 環境リモートセンシング研究センター	2012.10. 9	
	パジャジャラン大学理学部・農学部・農業工学部・ 環境学部	園芸学研究科・融合科学研究科・ 環境健康フィールド科学センター・ 環境リモートセンシング研究センター	2012.11. 7	
	ウダヤナ大学	環境リモートセンシング研究センター	2013.12.20	
	マカッサル国立大学 大学院	園芸学研究科	2014. 6.26	
	インドネシア科学院化学研究センター	工学研究科	2013. 5.27	
	ムラワルマン大学数学・自然科学部	環境リモートセンシング研究センター	2015. 6. 8	
	パダン州立大学数学・自然科学部	環境リモートセンシング研究センター	2015. 9. 7	
	ブディールフル大学環境研究センター	環境リモートセンシング研究センター	2015.12. 2	
	西ジャワ州教育局	教育学部	2016. 8. 9	
	シアク県	環境リモートセンシング研究センター	2016.11.21	
	インドネシア教育大学	教育学研究科・教育学部	2018. 8.15	
	全南大学校農業生命科学大学	園芸学部・園芸学研究科	2004. 6.25	
	ソウル国立大学農業生命科学部	園芸学部・園芸学研究科	2004. 6.30	
	ソウル国立大学美術学部	工学部・自然科学研究科	2005. 3.15	
	延世大学校工科大学	工学部・工学研究科・融合科学研究科	2010. 4.20	
	ソウル国立大学薬学部	薬学部・薬学研究院・医学薬学府	2010. 5. 7	
	高麗大学工学系大学院電気工学研究科	融合科学研究科	2010. 7.21	
	仁済大学校医学部	医学部	2012. 6.27	
韓国	仁荷大学校経済国際通商学部	法経学部	2012. 7.13	
	忠南大学校農業生命科学大学	環境健康フィールド科学センター	2012. 7. 3	
	ソウル国立大学グリーンバイオ研究センター	環境健康フィールド科学センター	2014. 3. 7	
	蔚山科学技術大学校デザイン及び人間工学部	工学研究科・工学部	2014. 6.19	
	済州大学校・工科学部・理工系大学院	工学部・工学研究科	2016. 3. 7	
	ソウル国立大学看護学部	看護学研究科	2016. 3.14	
	延世大学校人文芸術大学大学院	融合理工学府	2018.10.11	
	高麗大学デザイン造形学部	工学研究院	2019. 1. 4	
	江南大学附属龍仁江南学校	教育学部(附属特別支援学校)	2019. 9.20	
	シンガポール国立大学理学部	融合科学研究科	2010. 7.23	
	シンガポール	ニース・ポリテクニク工学部	工学部	2011. 2.10
		南洋理工大機械航空工学部	工学部・工学研究科	2012. 9. 5

国名	大学名・部局名	部局名(締結時)	締結年月日
シンガポール	シンガポール国立大学建築学部	工学研究科・工学部・園芸学研究所・園芸学部・環境健康フィールド科学センター	2015. 1. 1
	南洋理工大学リーコンチェン医学部	医学研究院	2017. 1.20
	シンガポール国立大学図書館	附属図書館/アカデミック・リンク・センター	2019. 2.25
	チュラロンコン大学薬学部	薬学部	1990. 4.16
	チェンマイ大学薬学部	薬学部・薬学研究所・医学薬学府	1996. 2. 2
	マヒドン大学薬学部	薬学部・薬学研究所・医学薬学府	2000. 4.28
	マヒドン大学理学部・大学院	園芸学部・園芸学研究所	2000.10. 5
	シルパコン大学薬学部	薬学部・薬学研究所・医学薬学府	2002.12.25
	タイ国立科学技術開発公社・国立遺伝子工学・生物工学センター	園芸学研究所	2004. 7.15
	キングモンクット工科大学トンブリ校生物資源工学研究科	園芸学部・園芸学研究所	2004. 8.26
タイ	メーファールアン大学農工学部	園芸学部・園芸学研究所	2008. 8. 5
	タマサート大学シリントーン国際工学部	工学部・工学研究科・融合科学研究科・フロンティアメディカル工学研究開発センター	2008.12.22
	コンケン大学看護学部	看護学研究所	2015. 2. 2
	ランシット大学建築学部	工学研究科・融合科学研究科	2016. 2.17
	タマサート大学シリントーン国際工学部	工学部・工学研究科	2016. 4.19
	マハサラカム大学技術学部	園芸学研究所・園芸学部	2016. 9. 8
	シーナカリンウィロート大学	薬学部	2016.10. 3
	キングモンクット工科大学ノースバンコク校シリントーン国際タイドイツ工学研究科	工学研究院・融合理工学府	2017.10. 2
	マヒドン大学人文社会学部	教育学部	2019. 3. 1
	実践大学観光管理学科・レクリエーション産業管理学科	地域観光創造センター	2007. 5.11
台湾	南華大学非営利事業管理学研究所	地域観光創造センター	2007.11.23
	雲林科技大学デザイン学院	工学部・工学研究科	2009. 8.21
	国立交通大学理学院	融合科学研究科	2010. 1.28
	国立台湾大学生物資源農学院	環境健康フィールド科学センター	2010. 3. 3
	銘伝大学デザイン学部	工学部・工学研究科	2012.11.22
	国立中央大学地球科学学院	理学研究科	2012.12.17
	国立清華大学理学部物理学科	融合科学研究科	2012.12.17
	国立台湾師範大学教育学院	教育学部・教育学研究所	2013. 7.22
	国立交通大学人文社会学院	工学部・工学研究科	2013.12.15
	台北医科大学医学部	医学研究院	2016. 9.29
中国	中国医薬大学薬学部	薬学研究所・薬学部	2018. 1. 9
	国立台北科技大学/デザイン学院	工学部・融合理工学府・工学研究院	2018. 3.26
	国立交通大学理学院	工学研究院	2018. 4.19
	東海大学創意設計芸術学院	工学部・融合理工学府・工学研究院	2018. 7.31
	国立台湾大学医学院	医学研究院・医学部	2020. 2.12
	中国薬科大学薬学部	薬学部・薬学研究所・医学薬学府	1996. 2.28
	中国科学院合肥物質科学研究所	環境リモートセンシング研究センター	1997. 4.12
	瀋陽農業大学	園芸学部・園芸学研究所	2000. 3. 9
	北京林業大学園林学院	園芸学部・自然科学研究所	2001. 9.25
	瀋陽薬科大学	薬学部・薬学研究所・医学薬学府	2004. 2. 4
中国	中国科学院地理科学・資源研究所	園芸学部・園芸学研究所	2005. 8. 8
	中国科学院寒区旱区環境と工程研究所天山水河観測試験所	理学研究科	2007. 6.26
	清華大学建築学院	園芸学研究所	2007. 8.21
	清華大学浙江清華長三角研究院	園芸学研究所	2007. 9.22
	北京大学看護学院	看護学部	2007.12.25
	江南大学設計学院	工学部・工学研究科	2008. 2.25
	吉林大学基礎医学学院	真菌医学研究センター	2008. 2.28
	同済大学設計創意学院	工学部・工学研究科	2008. 2.28
	山東農業大学	園芸学研究所	2008. 5.12
	貴州医科大学(旧 貴陽医学院基礎医学院)	真菌医学研究センター	2009. 1.20
中国	中国電子科技大学電子工学部	工学研究科	2015. 3.20
	上海交通大学メディア・デザイン学院	工学研究科	2009. 3.25
	湖南師範大学	教育学部・教育学研究所	2009. 9.16

国名	大学名・部局名	部局名(締結時)	締結年月日
中国	上海交通大学研究生院(船舶海洋建築工学院)	工学研究科	2010. 1.14
	北京大学地球及び空間科学学院	理学部・理学研究科	2010. 3. 1
	新疆医科大学第一病院皮膚科・真菌医学研究センター	真菌医学研究センター	2010. 9.22
	中南大学精神衛生研究所	社会精神保健教育研究センター	2010.11.12
	北京大学国立薬物依存研究所	社会精神保健教育研究センター	2010.11.12
	上海交通大学デジタルメディシン工学研究センター	フロンティアメディカル工学研究開発センター	2010.12. 2
	北京理工大学デザイン・芸術学院	工学研究科	2011. 1.11
	蘇州大学機能性ナノ・軟質材料研究所	融合科学研究科	2011. 2.24
	北京徳稲アカデミー機構	工学部・工学研究科	2011. 6.11
	上海交通大学農業生物学院	園芸学研究科	2011. 7. 8
	香港科技大学生命医学工学プログラム	工学研究科・千葉大学・上海交通大学 国際共同研究センター	2012. 6. 8
	中国社会科学院民族文学研究所	人文社会科学研究科	2013. 3.21
	香港バプチスト大学中国医薬学部	薬学研究院	2013.11.19
	北京科技大学自動化学院	工学部・工学研究科	2013.12.20
	内モンゴル大学モンゴル学院	人文社会科学研究科	2014. 6. 2
	西安理工大学機械・精密機械工学部、機械・精密工学研究科	工学研究科・工学部	2014. 7. 2
	山東大学物理学部	融合科学研究科	2014.10.24
	西北農林科技大学園芸学部	環境健康フィールド科学センター	2013. 6. 1
	杭州師範大学理学院	理学部・理学研究科	2011. 4. 8
	青島理工大学建築学院	園芸学部・園芸学研究科	2015. 6. 2
	武漢大学医学研究科	医学研究院・医学薬学府	2015. 7. 9
	南京農業大学	園芸学研究科	2015. 7.30
	中国科学院亜熱帯農業生態研究所	園芸学研究科	2015.10.16
	西安理工大学・印刷包装と数字媒体学院	融合科学研究科	2016. 2.27
	鄭州大学情報工学部・ デジタル医用画像技術研究センター	融合科学研究科・工学研究科・ フロンティア医工学センター	2016. 4.12
	中国農業科学院・農業資源と農業区画研究所	園芸学部・園芸学研究科	2016. 5.24
	大連医科大学看護学部	看護学部・看護学研究科	2016. 5.25
	華南農業大学農学部	園芸学研究科・園芸学部	2016.12.25
	南京芸術学院工業デザイン学院	工学研究科	2017. 1. 4
	湘潭大学信息工程学院	融合科学研究科	2017. 2.23
	江蘇大学農業工程研究学部	環境健康フィールド科学センター	2017. 4. 6
	西華大学材料与工程学院	工学研究院・融合理工学府・工学部	2017.10.10
	復旦大学看護学院	看護学研究科・看護学部	2017.11.21
	華僑大学工業設計研究院	工学研究院・融合理工学府・工学部	2017.11.28
	浙江大学コンピュータサイエンス学院	融合理工学府	2018. 2. 6
	中国地質大学自動化学院	工学研究院	2018. 3. 5
	浙江工商大学東北語言文化学院	人文公共学府	2017.12. 4
	香港大学看護学部	看護学研究科	2018. 3.30
	中国南方科技大学地球と空間科学系	理学研究院・理学部・融合理工学府	2018. 7.28
	四川大学建築と環境学院	園芸学部・園芸学研究科	2018. 9.25
	江蘇大学農業設備学部	園芸学研究科・環境健康フィールド科学センター	2018.10.26
	南京航空航天大学機電工程学院	工学部・融合理工学府・工学研究院	2018.11. 2
	貴州民族大学文学院	人文科学研究院	2018.12.28
	北京航空航天大学機械工程及自動化学院	工学部・融合理工学府・工学研究院	2019. 3. 6
	吉林大学・儀器科学与電気工程学院	理学研究院・理学部・融合理工学府	2019. 6. 3
	大連医科大学附属第一医院	医学部附属病院	2019. 7.25
	大連医科大学附属第二医院	医学部附属病院	2019. 7.26
	北京交通大学 電子信息工程学院	工学部・融合理工学府・工学研究院	2019. 8. 1
	湖南農業大学園芸園林学院	園芸学研究科・園芸学部	2019. 8. 5
	北京大学深セン研究生院 地震活動予測技術研究センター	理学研究院・理学部	2019. 9.18
広州美術大学	融合理工学府	2019.11.15	
大連医科大学附属第一医院	看護学研究科・看護学部	2019.11.25	
上海外国語大学日本文化経済学院	人文科学研究院	2019.12.30	
暨南大学第一臨床医学院	医学研究院	2020. 1.16	

国名	大学名・部局名	部局名(締結時)	締結年月日
中国	西北工業大学機電学院	工学研究院・融合理工学府・工学部	2019.10.28(学術) 2019.11. 8(学生)
パキスタン	ペシヤワール農業大学	園芸学研究科	2010. 7.28
	国際稲研究所	園芸学研究科	2007. 6. 7
フィリピン	サント・トマス大学理学部・大学院・自然科学研究センター	薬学部・薬学研究院・医学薬学府	2009. 5. 7
	パンガシナン州立大学	教育学研究科・教育学部	2017. 1. 5
	サンカルロス大学教育学部	教育学部	2019. 5.10
	ハノイ国立農業大学	園芸学部・園芸学研究科	2003. 2.17
	ベトナム国家大学ハノイ校教育大学	教育学部・教育学研究科	2003. 6. 3
	ハノイ師範大学	教育学部・教育学研究科	2009. 2.18
ベトナム	ベトナム国家大学ホーチミン市校科学大学生物学部	環境健康フィールド科学センター	2013.11.29
	ベトナム森林大学	環境リモートセンシング研究センター	2014.12.22
	ホーチミン工科大学・化学工学部	融合科学研究科	2017. 3.21
	ベトナムホーチミンシティ医学薬学大学	大学院医学研究院	2017. 8.21
	ブトラ・マレーシア大学農学部	園芸学部・園芸学研究科	2011. 8. 3
	マレーシア国立大学工学・建築環境学部	工学研究科・工学部	2014.10.13
マレーシア	マラヤ大学理学部	融合科学研究科	2015.12.21
	テララズ大学バイオサイエンス学部	園芸学部・園芸学研究科	2016. 5. 6
	スルタンザイナルアビディン大学 応用社会科学部・教養高等教育学部	大学院人文科学研究院・文学部・人文公共学府	2019. 2.12
	イェン農薬大学	園芸学研究科	2014. 9. 1
ミャンマー	ヤンゴン第一医科大学	医学研究院	2017. 3.31
	マンダレー工科大学	工学研究院・融合理工学府・工学部	2017.11.29
ラオス	ラオス国立大学	教育学部	2018. 1. 3

## 北米地域

国名	大学名・部局名	部局名(締結時)	締結年月日
	ヒューストン大学経商学部	法経学部	1990. 8. 7
	アラバマ大学バーミングハム校看護学部	看護学部	1990. 8.22
	ワシントン大学建築・都市計画学部	園芸学部・園芸学研究科	2004. 3.31
	イリノイ大学シカゴ校医学部	医学部	2007. 3.13
	トーマスジェファーソン大学医学部	医学部・医学研究院	2010. 2.20
	ワシントン大学環境学部	園芸学部・園芸学研究科	2010. 6.27
	ニューヨーク州立大学バッファロー校工学及び応用科学部	工学部・工学研究科・融合科学研究科	2010.10.25
	サンディエゴ大学看護学部	看護学部・看護学研究科	2011. 6.27
アメリカ	チャップマン大学地球システムモデリング観測センター	理学研究科	2012.12. 5
	コンコーディア大学ウィスコンシン校教育学部	教育学部・教育学研究科	2013. 3.10
	ジョージア大学農業環境科学部	園芸学部・園芸学研究科	2013. 9.27
	ハワイ大学数学科	理学部・理学研究科	2014. 4. 3
	ハーバード大学公衆衛生大学院	予防医学センター	2014. 6.30
	ライス大学工学部	工学研究科・融合科学研究科	2013.12. 4
	カリフォルニア大学サンディエゴ校医療科学部門	医学研究院	2015. 8.19
	南カリフォルニア大学医学部ケック校	医学研究院	2016. 9.13
	ハワイ大学マノア校ジョン・A・バーズ医学部	医学研究院・医学部	2020. 2.27
	アルバータ大学薬学部	薬学部	1987. 1.26
	ブリティッシュ・コロンビア大学 理学部・植物園・植物研究センター	園芸学研究科・園芸学部	2014. 5.22
カナダ	マギル大学アランエドワードペインセンター	予防医学センター	2016. 1.13
	ウォータールー大学 レニソン ユニバーシティ カレッジ	先進科学センター・理学部・理学研究科	2016. 5.19
	トロント大学医学部	医学研究院	2019. 3. 4

## 欧州地域

国名	大学名・部局名	部局名(締結時)	締結年月日
	ウォリック大学文芸学部	文学部	1990.10. 8
イギリス	シェフィールド大学社会科学部ランドスケープ学科	園芸学研究科	2013. 3. 4
	ボーンマス美術大学	言語教育センター	2013.12.11



国名	大学名・部局名	部局名(締結時)	締結年月日
イギリス	リーズベケット大学(リーズメトロポリタン大学) 健康・社会科学学部	教育学部	2014. 6. 2
	レスター大学医学部	大学院医学研究院	2017. 8.31
	アルスター大学看護学部	看護学研究科	2019. 4.24
イタリア	フィレンツェ大学文学・哲学学部	文学部・人文社会科学研究科	2011. 3. 9
	ヴェネツィア建築大学	工学部・工学研究科	2012. 7.16
	ポーロニヤ大学農獣医学部	園芸学部・園芸学研究科	2013.12.17
	バジリカータ大学工学部	理学部・理学研究科	2015. 4. 6
	イタリア学術会議－大気科学気候研究所・ (日本)国立環境研究所	環境リモートセンシング研究センター	2016.12.21
	ナポリ大学電気工学・情報技術学科	融合理工学府・工学研究院・工学部	2017. 9.15
オランダ	トレント大学土木・環境・機械工学部	工学研究院・融合理工学府・工学部	2017.10.20
オランダ	アイントホーフェン工科大学工業デザイン学部	工学部・工学研究科	2009.10.29
	ベルン応用科学大学建築・木材・建設学部	園芸学研究科	2008. 1. 8
スイス	ヌーシャテル大学経済・ビジネス学部	法政経学部・社会科学研究院・人文公共学府	2019. 6. 7
スウェーデン	スウェーデン農業科学大学 ランドスケープ計画・園芸・農業科学部	園芸学部・園芸学研究科	2011.11.24
	ミッドスウェーデン大学 技術メディア学部	工学部・工学研究科	2015. 3.30
スペイン	マドリッド自治大学 マドリッド高度ナノサイエンス研究所	融合科学研究科	2012. 1.10
	カタロニア国際大学建築学部・研究科	融合理工学府・工学研究院・工学部	2017. 7.19
デンマーク	オーフス大学医学部	医学研究院	2016.10.31
	バイロイト大学理工学部	工学研究科	2007. 9. 5
ドイツ	ドレスデン応用科学大学	園芸学部・園芸学研究科	2008.11.27
	ビュルツブルグ大学物理・天文研究科	融合科学研究科	2009. 9.17
	フンボルト大学第一数学・自然科学部・融合科学研究所	融合科学研究科	2010. 3.15
	アウグズブルク大学数学・自然科学部	融合科学研究科	2010.12.20
	カールスルーエ工科大学物理学系	融合科学研究科	2011.12.20
	ライプニッツ大学ハノーファー 建築・ランドスケープ学部	園芸学研究科	2012.10.10
	ドイツリウマチ研究所	予防医学センター	2013. 8.16
	ドレスデン工科大学建築環境学部	園芸学研究科	2014. 3.13
	ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン化学・薬学部	融合科学研究科	2015. 6.24
	ケルン応用科学大学・文化科学研究科	融合理工学府	2018. 1.26
フリードリッヒ・シラー大学イェーナ物理天文学部	工学研究院・融合理工学府・工学部	2019. 9.25	
ヴァイヘンステファン・トゥリースドルフ応用科学大学	園芸学研究科・園芸学部	2020. 3.23	
ノルウェー	ノルウェー科学技術大学(エービク大学)情報メディア研究科	融合科学研究科	2014. 9. 9
ハンガリー	セントイシュトヴァーン大学テシュディックシャムエル 大学センター水環境管理学部	園芸学部・園芸学研究科	2001. 2.21
フィンランド	タンペレ大学教育学部	教育学部	2011.12.13
	国立パリ建築大学ラ・ヴィレット校	工学部・工学研究科	2015. 3. 4
	ブルゴーニュ大学・フランス語教育国際センター	言語教育センター	2015.11.16
	フランス国立保健医学研究機構・IAB/INSERM－CNRS－グ ルノーブルアルプス大学 (U1209) 共同研究センター	予防医学センター	2016. 4.12
	ニース・ソフィア・アンティポリス大学医学部	医学研究院・予防医学センター	2016. 6.15(学術) 2019.10.14(学生)
フランス	セルジーポントワーズ大学・理工学部	融合理工学府・工学研究院・工学部	2017. 7.12
	IFPスクール	工学研究院・融合理工学府	2017.10.16
	クロード・ベルナル・リヨン第一大学理工学部 ポリテックリヨンエンジニア専門学校	工学研究院	2018. 3. 2
ベルギー	トゥールーズ第3大学・理工学部	融合理工学府・工学研究院・工学部・ フロンティア医工学センター	2019. 4.24
	パリ電子電気工学技術高等学院 (ESIEE Amiens)	工学研究院	2019. 5.22
	ルーヴァンカソリック大学生物工学部・ 集合物質ナノサイエンス研究所	工学研究科・工学部	2014.10. 2

## オセアニア地域

国名	大学名・部局名	部局名(締結時)	締結年月日
オーストラリア	マッコリー大学・WiMed研究センター	フロンティア医工学センター	2014. 9. 1
ニュージーランド	オークランド大学モリスウィルキンスセンター	医学研究院	2012. 3. 1

## 中近東地域

国名	大学名・部局名	部局名(締結時)	締結年月日
アラブ首長国連邦	アジュマン大学工学部	工学研究院・工学部	2017. 8.24
トルコ	イズミール経済大学美術・デザイン学部	工学部・工学研究科	2013. 9. 4

## 中南米地域

国名	大学名・部局名	部局名(締結時)	締結年月日
パナマ	パナマ大学	環境健康フィールド科学センター	2014.11.20
ブラジル	サンパウロ州立大学医学部	真菌医学研究センター	2012. 5.22
	リオグランデスール連邦大学医学部	医学研究院	2017. 6.13
ペルー	ペルー国立工科大学	工学部・自然科学研究科	2006. 1.18
メキシコ	アグアスカリエンテス自治大学 デザイン・建設科学学部	工学部・自然科学研究科	2004. 7.27
	メキシコ国立自治大学建築学部	工学研究科	2015. 9.17

## アフリカ地域

国名	大学名・部局名	部局名(締結時)	締結年月日
ガーナ	ガーナ大学農学部カデ農業研究センター	環境健康フィールド科学センター	2014. 6. 2

以上252協定(249機関)

## 日本人学生の留学・派遣状況

01.2

令和元年度

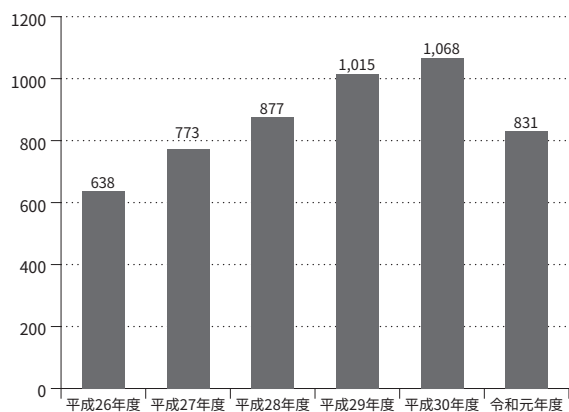
地域	国名	留学・派遣期間				合計
		1ヶ月未満	1ヶ月以上 3ヶ月未満	3ヶ月以上 1年未満	1年以上	
アジア	インド	8				8
	インドネシア	16	3	1	1	21
	ウズベキスタン	1				1
	カンボジア	1				1
	シンガポール	7		1		8
	タイ	130	6	1		137
	フィリピン	2	7	3		12
	ベトナム	2				2
	マレーシア	4		1		5
	韓国	36		1		37
	台湾	36	2	1		39
	中国	57		3		60
小計		300	18	12	1	331
アフリカ	ウガンダ		2			2
	エジプト	2				2
	ケニア		1			1
	モザンビーク	1				1
	小計		3	3		6
オセアニア	オーストラリア	1	30	6		37
	フィジー			1		1
	小計		1	30	7	38

地域	国名	留学・派遣期間				合計
		1ヶ月未満	1ヶ月以上 3ヶ月未満	3ヶ月以上 1年未満	1年以上	
ヨーロッパ	イタリア	1	1	1		3
	ギリシャ		1			1
	クロアチア	1				1
	スイス	8		2		10
	スウェーデン	3		4		7
	スペイン	2	1	2		5
	セルビア			1		1
	チェコ		1	1		2
	デンマーク	5		1		6
	ドイツ	29	5	4	1	39
	ハンガリー	1	1			2
	フィンランド	36	3	6		45
	フランス	19	4	2		25
	ベルギー		1			1
	ポーランド	2				2
	ポルトガル			1		1
	モルドバ	1				1
	ラトビア	2				2
	ルーマニア	2				2
	ロシア	16	2	1		19
英国	67	2	8	1	78	
小計	195	22	34	2	253	
中近東	サウジアラビア	1				1
	トルコ	1				1
	小計	2				2
中南米	アルゼンチン	1				1
	パナマ	7				7
	ブラジル	4				4
	メキシコ	24		1		25
	小計	36		1		37
北米	アメリカ	125	4	7		136
	カナダ	15		10	3	28
	小計	140	4	17	3	164
総計		677	77	71	6	831

備考 学生交流協定校以外への派遣を含む

### 日本人学生の留学・派遣状況推移

	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
アジア	312	360	443	478	534	331
アフリカ				3	5	6
オセアニア	37	33	31	47	47	38
ヨーロッパ	150	192	200	234	233	253
中近東	11	4		2	12	2
中南米	12	35	45	45	51	37
北米	116	149	158	206	186	164
合計	638	773	877	1,015	1,068	831



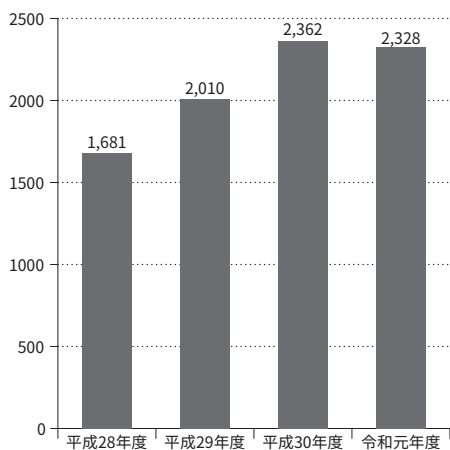
令和元年度外国人学生数一覧(課程別・国籍別)

	学部生	修士	博士	研究生	特別 研究生	特別 聴講生	科目等 履修生	専攻生	予備 教育生	その他	合計
		1 (1)	1	1			1 (1)				4 (2)
	4 (3)	9 (6)	27 (15)	3 (2)		22 (2)				11	76 (28)
							1 (1)				1 (1)
						1					1
	7 (6)	3				5					15 (6)
	1			1 (1)		1					3 (1)
			1 (1)								1 (1)
	1										1
		3 (1)	13 (3)	2	4	75 (1)			1 (1)	66	164 (6)
						1					1
		1 (1)						1 (1)			2 (2)
アジア			3								3
		1 (1)	1								2 (1)
	1	1	5 (2)	1 (1)					1 (1)		9 (4)
			3 (1)	1 (1)		4			1 (1)	6	15 (3)
	3	1	2 (1)			4	2 (2)				12 (3)
	4	1	2			7					14
		1	6 (3)	3 (2)						10	20 (5)
	5 (3)	2	2	3							12 (3)
			1			3					4
	3	4	14	3	2	84		1		53	164
	69 (28)	17 (1)	19 (1)	2	1	60	4 (1)	1	7 (7)	2	182 (38)
	73	302 (3)	219 (22)	171 (4)	19	331 (1)	4	23		68	1,210 (30)
			2 (2)								2 (2)
			2								2
中近東						1					1
			1								1
			1 (1)								1 (1)
			1 (1)								1 (1)
			1 (1)								1 (1)
				1 (1)							1 (1)
			1								1
		1 (1)									1 (1)
アフリカ		1	2 (2)						2 (2)		5 (4)
									1 (1)		1 (1)
		1 (1)						1 (1)	1 (1)		3 (3)
						1					1
			1								1
オセアニア						17				1	18
北米		3 (1)	1			43					47 (1)
						1					1

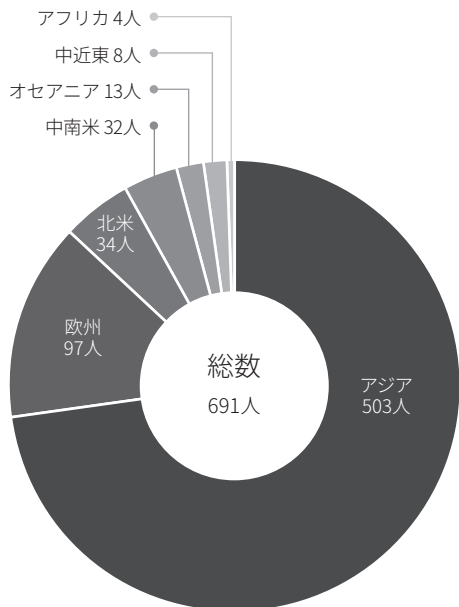
	学部生	修士	博士	研究生	特別 研究生	特別 聴講生	科目等 履修生	専攻生	予備 教育生	その他	合計
中南米	アルゼンチン共和国	1 (1)									1 (1)
	エクアドル共和国	1 (1)									1 (1)
	キューバ共和国	1 (1)							1 (1)		2 (2)
	グアテマラ共和国	1 (1)			1 (1)						2 (2)
	コロンビア共和国	1 (1)			1				1 (1)		3 (2)
	パナマ共和国	1 (1)			1 (1)		8				10 (2)
	ブラジル連邦共和国	1	2 (1)	1			1		2 (2)		7 (3)
	メキシコ合衆国	3 (3)		4 (1)			104		1 (1)		112 (5)
ヨーロッパ	イギリス						3				3
	イタリア共和国						19	1			20
	オランダ王国						3				3
	ギリシャ共和国						1				1
	クロアチア共和国							1 (1)			1 (1)
	コソボ共和国	1 (1)									1 (1)
	スウェーデン王国						20				20
	スペイン						5				5
	ドイツ連邦共和国						52 (1)			4	56 (1)
	トルコ共和国			1			10	1 (1)			12 (1)
	ノルウェー王国					1					1
	ハンガリー共和国						1				1
	フィンランド共和国			1			13				14
	フランス共和国			1		2	9			1	13
	ブルガリア共和国						1				1
	ベルギー王国					1	1				2
	ポーランド共和国							2 (2)			2 (2)
	ポルトガル共和国						2				2
ルーマニア						1 (1)				1 (1)	
ロシア連邦			1			24 (1)	1 (1)			26 (2)	
合 計	172 (40)	365 (28)	341 (57)	195 (14)	30	939 (7)	18 (10)	26 (1)	20 (20)	222	2,328 (177)

備考 1. 外国人学生数には、在留資格が「留学」の留学生数に加え、「留学」以外の在留資格を有する一般外国人学生の数を含む。  
また、「その他」にはインターンシップ等で受け入れた者を含む。  
2. 各区分右の( )は、国費外国人留学生数(日韓共同理工系学部留学生を含む)を内数で表す。

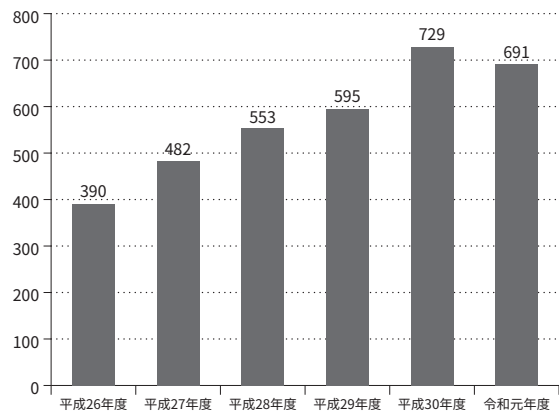
## 外国人学生数推移



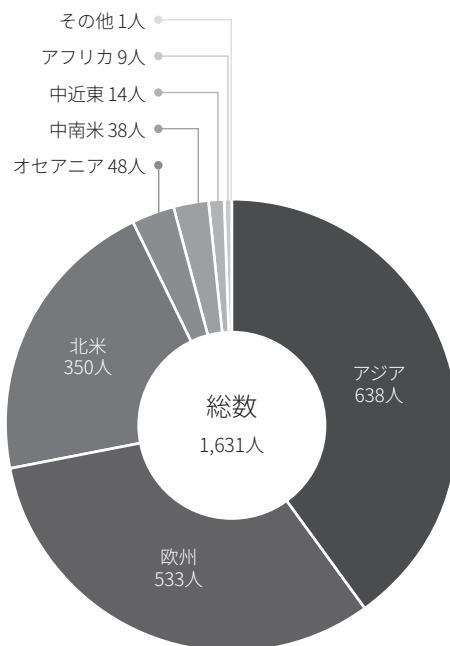
外国人研究員の受入れ数



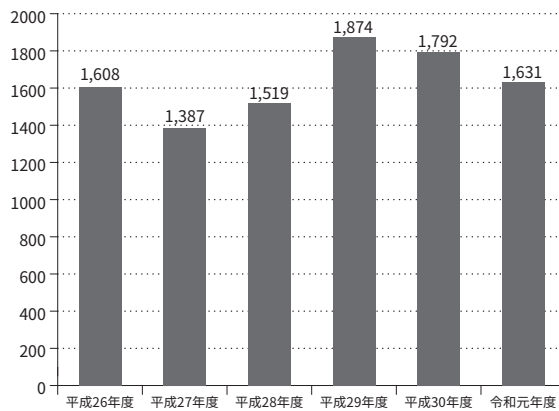
令和元年度実績



教職員の海外派遣者数



令和元年度実績



総合大学として多様性と学術性を有している千葉大学は、包括的な連携のもとに、広範な分野で相互に人的資源等を活用し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的としています。

## 連携協定一覧

自治体	千葉県	平成18年11月10日	千葉県と国立大学法人千葉大学との連携に関する協定書
	青森県	平成19年07月06日	あomor農工ベストミックス新産業創出構想に関する青森県と国立大学法人千葉大学との連携・協力について
	千葉市	平成22年02月04日	千葉市と国立大学法人千葉大学との包括的な連携に関する協定書
	千葉県	平成23年03月29日	国立大学法人千葉大学と千葉県における医療技術研修等に関する協定書
	柏市	平成23年10月29日	柏市と国立大学法人千葉大学との包括的な連携に関する協定書
	松戸市	平成25年04月15日	松戸市と国立大学法人千葉大学との包括的な連携に関する協定書
	浦安市	平成27年10月23日	浦安市と国立大学法人千葉大学との包括的な連携に関する協定書
	墨田区	平成29年03月22日	墨田区と国立大学法人千葉大学との包括的な連携に関する協定書
	船橋市	平成29年04月21日	船橋市と国立大学法人千葉大学との包括的な連携に関する協定書
	市原市	平成31年04月09日	市原市と国立大学法人千葉大学との包括的な連携に関する協定書
	芝山町	令和02年04月01日	芝山町と国立大学法人千葉大学との包括的な連携に関する協定書
	長柄町	令和02年04月01日	長柄町と国立大学法人千葉大学との包括的な連携に関する協定書
	南房総市	令和02年04月01日	南房総市と国立大学法人千葉大学との包括的な連携に関する協定書
	横芝光町	令和02年04月01日	横芝光町と国立大学法人千葉大学との包括的な連携に関する協定書
企業	株式会社千葉銀行	平成17年12月21日	連携協力に関する協定書
	株式会社千葉ロッテマリーンズ	平成18年04月11日	千葉大学と千葉ロッテマリーンズとの連携協力に関する協定書
	株式会社東日本ジェイアール古河サッカークラブ	平成18年04月11日	千葉大学とジェフユナイテッド市原・千葉との連携に関する協定書
	株式会社千葉銀行	平成24年07月27日	連携協力に関する協定書
	株式会社日本政策金融公庫千葉支店、館山支店、松戸支店及び船橋支店	平成26年10月02日	連携協力に関する協定書
	株式会社千葉興業銀行	平成29年06月23日	連携協力に関する基本協定書
	株式会社JTB総合研究所	平成29年09月29日	連携協力に関する協定書
	株式会社リコー	平成29年11月14日	包括連携研究協力等に関する協定
	伊勢化学工業株式会社、株式会社合同資源、日宝化学株式会社、株式会社ナックテクノサービス	平成29年12月21日	包括連携共同研究推進等に関する協定
	富士ゼロックス株式会社	平成30年02月15日	包括連携共同研究推進等に関する協定
	イオン株式会社	平成30年03月14日	連携協力に関する協定書
	東京東信用金庫	平成30年05月16日	連携協力に関する基本協定書
	株式会社ZOZO	平成31年02月13日	連携協力に関する協定書
	キッコーマン株式会社、京成電鉄株式会社、小湊鐵道株式会社、株式会社JTB総合研究所、株式会社千葉銀行、株式会社ちばぎん総合研究所、東日本旅客鉄道株式会社千葉支社、米屋株式会社	平成31年03月07日	連携協定書
高校	千葉県立千葉東高等学校	平成13年03月09日	千葉大学と千葉県立千葉東高等学校との間における連携教育に関する協定
	千葉県立幕張総合高等学校	平成13年03月09日	千葉大学と千葉県立幕張総合高等学校との間における連携教育に関する協定
	千葉市立千葉高等学校	平成13年03月09日	千葉大学と千葉市立千葉高等学校との間における連携教育に関する協定
	千葉県立千葉女子高等学校	平成14年02月25日	千葉大学と千葉県立千葉女子高等学校との間における連携教育に関する協定
	千葉県立船橋高等学校	平成18年09月27日	千葉大学と千葉県立船橋高等学校との間における連携教育に関する協定
	千葉県立国府台高等学校	平成19年03月13日	千葉大学と千葉県立国府台高等学校との間における連携教育に関する協定
	千葉県立柏高等学校	平成19年03月13日	千葉大学と千葉県立柏高等学校との間における連携教育に関する協定
	千葉県立千葉南高等学校	平成19年10月26日	千葉大学と千葉県立千葉南高等学校との間における連携教育に関する協定
	千葉市立稲毛高等学校	平成21年02月23日	千葉大学と千葉市立稲毛高等学校との間における連携教育に関する協定
千葉県立千葉西高等学校	平成31年03月12日	千葉大学と千葉県立千葉西高等学校との間における連携教育に関する協定	
高専	独立行政法人国立高等専門学校機構木更津工業高等専門学校	平成22年02月16日	教育・研究・社会貢献活動に関する包括協定書
	放送大学	平成11年07月23日	千葉大学と放送大学との間における単位互換に関する協定書
	神田外語大学	平成18年03月30日	千葉大学と神田外語大学との単位互換に関する協定書
	敬愛大学	平成21年03月30日	千葉大学と敬愛大学との単位互換に関する協定書
	城西国際大学	平成21年03月30日	千葉大学と城西国際大学との単位互換に関する協定書
	千葉工業大学	平成22年02月15日	教育・研究・社会貢献活動に関する包括協定書
	東邦大学	平成22年05月25日	教育・研究・社会貢献活動に関する包括協定書
	国立大学法人新潟大学、国立大学法人金沢大学、国立大学法人岡山大学、国立大学法人長崎大学、国立大学法人熊本大学	平成25年03月06日	国立六大学間の包括的な連携に関する協定書
	芝浦工業大学	令和元年06月10日	芝浦工業大学と国立大学法人千葉大学との連携・協力に関する協定書
	大学		

その他	地方独立行政法人 東金九十九里地域医療センター	平成23年03月30日	国立大学法人千葉大学と地方独立行政法人東金九十九里地域医療センターとの千葉大学医学部附属病院東金九十九里地域臨床教育センターに関する協定書
	一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	平成26年06月23日	協定書
	独立行政法人都市再生機構東日本賃貸住宅本部	平成26年10月01日	地域課題の解決に向けた取組みに係る連携・協力に関する基本協定書
	公益財団法人かずさDNA研究所	平成27年02月06日	研究交流に関する協定書
	千葉県警察、公益財団法人千葉県産業振興センター、一般社団法人千葉県商工会議所連合会、千葉県商工会連合会、千葉県中小企業団体中央会、千葉工業大学、東京情報大学、独立行政法人国立高等専門学校機構木更津工業高等専門学校	平成28年07月28日	千葉県警察・中小企業支援機関・学術機関相互協力協定書
	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	平成28年10月07日	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館と国立大学法人千葉大学との包括的な連携・協力に関する協定書
	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構	平成29年02月02日	国立大学法人千葉大学と国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構との包括的連携協力に関する協定書
	インディア・デザイン・カウンシル	平成29年04月17日	Agreement on the Cooperation between National University Corporation Chiba University and India Design Council (国立大学法人千葉大学とインディア・デザイン・カウンシルにおける連携協力に関する協定書)
	公益財団法人日本デザイン振興会	平成29年04月19日	国立大学法人千葉大学と公益財団法人日本デザイン振興会における連携協力に関する協定書
	一般社団法人千葉県商工会議所連合会及び 全国健康保険協会千葉支部	平成29年05月11日	一般社団法人千葉県商工会議所連合会、全国健康保険協会千葉支部及び国立大学法人千葉大学との連携協定書
千葉県農業協同組合中央会	平成31年02月01日	包括連携協力に関する協定書	
一般社団法人千葉大学経済人倶楽部・絆	令和元年09月20日	連携協力に関する協定書	
公益財団法人千葉県文化振興財団	令和元年11月15日	国立大学法人千葉大学と公益財団法人千葉県文化振興財団との包括的な連携に関する協定書	

## 公開講座の実施状況

02.2

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
実施講座数	31 講座	24 講座	25 講座	21 講座	23 講座	19 講座
受講者数	1,085 名	834 名	1,590 名	1,192 名	1,198 名	892 名

## 高大連携

02.3

高校生理科研究発表会、出張講義、「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」や「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」への協力など、高校生を対象としたさまざまな活動を、高校の先生方をはじめ、教育界、産業界、マスコミなどと協力しながら推進しています。また、高等学校との連携教育に関する協定を締結し、千葉大学の一部の授業を高校生に開放しています。

### 協定校一覧

締結年月日	協定校名
平成13年03月09日	千葉県立千葉東高等学校、千葉県立幕張総合高等学校、千葉市立千葉高等学校
平成14年02月25日	千葉県立千葉女子高等学校
平成18年09月27日	千葉県立船橋高等学校
平成19年03月13日	千葉県立国府台高等学校、千葉県立柏高等学校
平成19年10月26日	千葉県立千葉南高等学校
平成21年02月23日	千葉市立稲毛高等学校
平成31年03月12日	千葉県立千葉西高等学校

### 開放科目数及び修了者数

開設年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
開放科目数	31 科目	27 科目	29 科目	23 科目	23 科目	17 科目
修了者数	126名	99名	64名	68名	58名	75名
				延べ修了者数(平成13年度～令和元年度)		1,697名



## 役員

令和2年6月1日現在

学長	徳久剛史
理事（企画・人事）	中谷晴昭
理事（教育・国際）	渡邊誠
理事（研究）	関実
理事（広報・情報）	山田賢
理事（総務）・事務局長	松浦晃幸
理事（法務）（非常勤）	堀裕
監事	桑古勇
監事（非常勤）	角紀代恵

## 副学長

教育改革	小澤弘明
学修支援	竹内比呂也
教育・国際	佐藤之彦
入試	佐藤智司
研究	柳澤章
経営	山本修一
病院	横手幸太郎
未来医療	中山俊憲
広報・ハラスメント対応	宮崎美砂子
地域連携・基金	小林達明
法務	下井康史

## 副理事

柏の葉キャンパス	高垣美智子
全学教育	泉利明
ダイバーシティ推進	森恵美
研究推進	伊藤智義
産業連携研究	武居昌宏
情報	今泉貴史
財務分析	片田晋

## 経営協議会

（学外有識者）	
公益財団法人中東調査会 特別顧問	有馬龍夫
株式会社帆風 取締役相談役	犬養俊輔
NHK 解説主幹	岩田明子
株式会社オリエンタルランド 代表取締役会長兼CEO	加賀見俊夫
セントケア・ホールディング株式会社 取締役 昭和シェル石油株式会社 前会長CEO	香藤繁常
一般社団法人大学資産共同運用機構 理事長 前日本私立学校振興・共済事業団 理事長	河田悌一
独立行政法人日本学術振興会 学術システム研究センター 顧問	黒木登志夫
学校法人津田塾大学 理事長 元日本ユニシス株式会社 代表取締役社長	島田精一
独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館 館長	銭谷眞美

みずほフィナンシャルグループ 名誉顧問	西堀利
株式会社千葉日報社 顧問	萩原博
シリウス・インスティテュート株式会社 代表取締役	船橋晴雄
株式会社@アジア・アソシエイツ・ジャパン 代表取締役	正エリザベス
東京医科歯科大学 名誉教授	宮坂信之
（学内委員）	

学長	徳久剛史
理事（企画・人事）	中谷晴昭
理事（教育・国際）	渡邊誠
理事（研究）	関実
理事（広報・情報）	山田賢
理事（総務）	松浦晃幸
理事（法務）（非常勤）	堀裕
大学院看護学研究科 教授	中村伸枝
大学院国際学術研究院 教授	小澤弘明
大学院人文科学研究院 教授	米村千代
大学院社会科学研究院 教授	金原恭子
大学院医学研究院 教授	中山俊憲
大学院医学研究院 教授	山本修一

## 教育研究評議会

学長	徳久剛史
理事（企画・人事）	中谷晴昭
理事（教育・国際）	渡邊誠
理事（研究）	関実
理事（広報・情報）	山田賢
理事（総務）	松浦晃幸
理事（法務）（非常勤）	堀裕
教育学部長	小宮山伴与志
大学院園芸学研究科長	松岡延浩
大学院看護学研究科長	中村伸枝
大学院国際学術研究院長	小澤弘明
大学院人文科学研究院長	米村千代
大学院社会科学研究院長	金原恭子
大学院理学研究院長	佐藤利典
大学院工学研究院長	佐藤之彦
大学院医学研究院長	中山俊憲
大学院薬学研究院長	森部久仁一
医学部附属病院長	横手幸太郎
環境リモートセンシング研究センター長	服部克巳
真菌医学研究センター長	笹川千尋
教育学部 教授	加藤徹也
大学院園芸学研究科 教授	櫻井清一
大学院看護学研究科 教授	諏訪さゆり
大学院国際学術研究院 教授	前田早苗
大学院人文科学研究院 教授	岡部嘉幸

大学院社会科学研究院 教授	善 積 康 夫
大学院理学研究院 教授	松 元 亮 治
大学院工学研究院 教授	赤 染 元 浩
大学院医学研究院 教授	三 木 隆 司
大学院薬学研究院 教授	高 野 博 之
大学院医学研究院 教授(医学部附属病院選出)	吉 野 一 郎
附属図書館長	竹 内 比 呂 也
事務局長	松 浦 晃 幸 (再掲)
副学長(教育改革)	小 澤 弘 明 (再掲)
副学長(学修支援)	竹 内 比 呂 也 (再掲)
副学長(教育・国際)	佐 藤 之 彦 (再掲)
副学長(入試)	佐 藤 智 司
副学長(研究)	柳 澤 章
副学長(経営)	山 本 修 一
副学長(病院)	横 手 幸 太 郎 (再掲)
副学長(未来医療)	中 山 俊 憲 (再掲)
副学長(広報・ハラスメント対応)	宮 崎 美 砂 子
副学長(地域連携・基金)	小 林 達 明
副学長(法務)	下 井 康 史

#### 学長選考会議

##### 経営協議会において選出された者

公益財団法人中東調査会 特別顧問	有 馬 龍 夫
株式会社帆風 取締役相談役	犬 養 俊 輔
一般社団法人大学資産共同運用機構 理事長 前日本私立学校振興・共済事業団 理事長	河 田 悌 一
独立行政法人日本学術振興会 学術システム研究センター 顧問	黒 木 登 志 夫
学校法人津田塾大学 理事長 元日本ユニシス株式会社 代表取締役社長	島 田 精 一
独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館 館長	銭 谷 眞 美
東京医科歯科大学 名誉教授	宮 坂 信 之

##### 教育研究評議会において選出された者

大学院看護学研究科長	中 村 伸 枝
大学院国際学術研究院長	小 澤 弘 明
大学院人文科学研究院長	米 村 千 代
大学院医学研究院長	中 山 俊 憲
大学院理学研究院長	佐 藤 利 典
大学院工学研究院長	佐 藤 之 彦
医学部附属病院長	横 手 幸 太 郎

##### 機構長・部門長等

グローバルプロミネント研究基幹長	徳 久 剛 史
国際未来教育基幹長	徳 久 剛 史
国際未来教育基幹キャビネット長	渡 邊 誠
イノベーション教育センター長	小 澤 弘 明
全学教育センター長	泉 利 明

入試センター長	佐 藤 智 司
国際教育センター長	吉 野 文
学生支援センター長	下 永 田 修 二
キャリアセンター長	一 國 伸 之
高大接続センター長	加 納 博 文
地域連携教育センター長	鈴 木 雅 之
アカデミック・リンク・センター長	竹 内 比 呂 也
グローバル・キャンパス推進基幹長	徳 久 剛 史
運営基盤機構長	中 谷 晴 昭
運営基盤戦略室長	中 谷 晴 昭
危機管理部門長	中 谷 晴 昭
大学評価部門長	中 谷 晴 昭
IR部門長	中 谷 晴 昭
ダイバーシティ推進部門長	森 惠 美
地域連携推進部門長	小 林 達 明
アラムナイ部門長	竹 内 比 呂 也
情報環境部門長	山 田 賢
キャンパス整備企画部門長	中 谷 晴 昭
学術研究・イノベーション推進機構長	関 実
学術研究・イノベーション推進戦略室長	関 実
戦略・IR部門長	西 田 篤 司
知財・技術移転戦略部門長	渋谷 善 弘
プロジェクト推進部門長	武 居 昌 宏
学術研究基盤支援部門長	伊 藤 智 義
管理・リスクマネジメント部門長	鈴 木 健 之
総合安全衛生管理機構長	今 関 文 夫
人文社会科学系教育研究機構長	山 田 賢
地方創生戦略研究教育推進センター長	山 田 賢
自然科学系教育研究機構長	関 実
未来医療教育研究機構長	中 山 俊 憲
未来医療教育研究戦略室長	小 川 明 宏
イノベーション推進室長	大 澤 健 一
千葉大みらい医療基金室長	大 鳥 精 司
広報戦略本部長	山 田 賢
広報戦略室長	宮 崎 美 砂 子

##### 部局長・センター長

国際教養学部長	小 澤 弘 明
文学部長	米 村 千 代
法政経学部長	金 原 恭 子
教育学部長	小 宮 山 伴 与 志
理学部長	佐 藤 利 典
工学部長	佐 藤 之 彦
園芸学部長	松 岡 延 浩
医学部長	中 山 俊 憲
薬学部長	森 部 久 仁 一
看護学部長	中 村 伸 枝
大学院人文公共学府長	水 島 治 郎
大学院専門法務研究科長	下 井 康 史
大学院教育学研究科長	小 宮 山 伴 与 志

大学院融合理工学府長	柳 澤 章
大学院園芸学研究所長	松 岡 延 浩
大学院医学薬学府長	伊 藤 素 行
大学院看護学研究所長	中 村 伸 枝
大学院国際学術研究院長	小 澤 弘 明
大学院総合国際学位プログラム長	神 里 達 博
大学院人文科学研究院長	米 村 千 代
大学院社会科学研究院長	金 原 恭 子
大学院理学研究院長	佐 藤 利 典
大学院工学研究院長	佐 藤 之 彦
大学院医学研究院長	中 山 俊 憲
大学院薬学研究院長	森 部 久 仁 一
附属図書館長	竹 内 比 呂 也
医学部附属病院長	横 手 幸 太 郎
環境リモートセンシング研究センター長	服 部 克 巳
真菌医学研究センター長	笹 川 千 尋
アカデミック・リンク・センター長	竹 内 比 呂 也
共用機器センター長	西 田 篤 司
統合情報センター長	井 宮 淳
先進科学センター長	音 賢 一
グローバル関係融合研究センター長	酒 井 啓 子
海洋バイオシステム研究センター長	富 樫 辰 也
ソフト分子活性化研究センター長	荒 井 孝 義
分子キラリティー研究センター長	尾 松 孝 茂
フロンティア医工学センター長	羽 石 秀 昭
環境健康フィールド科学センター長	高 垣 美 智 子
バイオメディカル研究センター長	幡 野 雅 彦
社会精神保健教育研究センター長	伊 豫 雅 臣
予防医学センター長	森 千 里
未来医療教育研究センター長	花 岡 英 紀
再生治療学研究センター長	本 橋 新 一 郎
子どものこころの発達教育研究センター長	清 水 栄 司
植物分子科学研究センター長	齊 藤 和 季
ベンチャービジネスラボラトリー施設長	児 玉 浩 明
アイソトープ実験施設長	上 原 知 也
千葉大学・上海交通大学国際共同研究センター長	劉 浩

#### 事務局等

事務局長	松 浦 晃 幸
事務局付課長（柏の葉地区等経営改革担当）	根 本 純 一
企画総務部長	高 見 太 也
企画総務部付課長	須 田 敏 之
総務課長	小 島 安 利
企画政策課長	高 橋 亮
人事労務課長	三 浦 一 男
渉外企画課長	立 石 公 史
情報企画課長	荒 井 幸 男
財務部長	片 田 晋
財務企画課長	佐 々 木 淳
経理課長	島 津 俊 長

契約課長	高 橋 忠 浩
研究推進部長	鈴 木 健 之
研究推進課長	岡 田 章 秀
産学連携課長	吉 田 正 彦
学務部長	菅 野 仁
国際統括役	高 尾 喜 代 志
教育企画課長	坂 本 陽 子
学生支援課長	丹 谷 浩 一
就職支援課長	田 中 和 茂
入試課長	有 賀 昭 彦
国際企画課長	高 尾 喜 代 志 (再掲)
留学生課長	戸 田 貴 子
施設環境部長	前 田 弘 喜
施設企画課長	関 英 徳
建築環境課長	有 野 克 己
設備環境課長	滝 口 光 信
西千葉地区事務部長	野 田 和 宏
人社会総務課長	多 田 幸 敏
理工系総務課長	天 野 千 恵 子
人社会学務課長	伊 藤 由 香
教員養成系学務課長	山 崎 敏 裕
理工系学務課長	杉 木 清 彦
玄鼻地区事務部長	小 川 明 宏
総務課長	中 山 善 将
管理企画課長	石 川 薫
研究推進課長	齋 藤 浩 之
学務課長	杉 村 晃 江
松戸地区事務部 松戸地区事務課長	宮 近 一 豊
柏の葉地区事務部 柏の葉地区事務課長	根 本 純 一 (再掲)
附属図書館事務部長	竹 田 透
利用支援企画課長	鈴 木 宏 子
学術コンテンツ課長	綾 部 輝 幸
医学部附属病院事務部長	永 田 昭 浩
総務課長	竹 本 浩 伸
経営企画課長	正 木 純 一
研究推進課長	大 塚 隆 司
管理課長	鈴 木 一 雄
医事課長	富 永 吉 司
医療サービス課長	鹿 倉 敏 則
監査室長	岡 田 裕 二

# 役員・教職員数

03.2

(令和2年5月1日現在)

区分	役員	教員					教員 小計	特任 研究員	教諭	事務職 技術職	医療職 その他	合計
		教授	准教授	講師	助教	助手						
学長	1											1
理事(非常勤含む)	6											6
監事(非常勤含む)	2											2
事務局									268			268
西千葉地区事務部									96	1		97
亥鼻地区事務部									63			63
松戸地区事務部松戸地区事務課									16			16
柏の葉地区事務部柏の葉事務課									19			19
教育学部		57	35		5		97		98		1	196
大学院園芸学研究所・園芸学部		30	22	6	7		65	3		1		69
大学院看護学研究所・看護学部		17	11	6	16	1	51			1		52
大学院国際学術研究院		17	20	4	5		46					46
大学院人文科学研究院		36	16		3		55					55
大学院社会科学研究院		41	21	2	1	3	68					68
大学院理学研究院・理学部		41	31	3	15		90	3		1		94
大学院工学研究院・工学部		74	67	1	32		174	6		13		193
大学院医学研究院・医学部		47	36	36	65		184	3		17		204
大学院薬学研究院・薬学部		16	11	6	16		49			1		50
附属図書館									25			25
医学部附属病院		15	17	37	163		232	2		159	1288	1681
環境リモートセンシング研究センター		3	6	1	4		14	1				15
真菌医学研究センター		3	7		6		16	1		2	1	20
アカデミック・リンク・センター			4	2	2		8					8
共用機器センター										1		1
統合情報センター		4	4				8					8
先進科学センター		2			1		3					3
海洋バイオシステム研究センター		1	1				2			2		4
フロンティア医工学センター		7	4		5		16			2		18
環境健康フィールドセンター		2	1	1	6		10	2				12
バイオメディカル研究センター			1		1		2					2
社会精神保健センター		2	1	3			6					6
予防医学センター		5	4		8		17	6				23
未来医療教育研究センター					1		1					1
子どものこころの発達教育研究センター		2		2	1		5					5
グローバルプロミネット研究基幹		2	5	1	5		13	4				17
国際未来教育基幹		3	1	10	2		16					16
運営基盤機構		1	1				2	1				3
学術研究・イノベーション推進機構		3		1			4	8				12
総合安全衛生管理機構		2	2		2		6				4	10
人文社会科学系教育研究機構					1		1					1
自然科学系教育研究機構		1					1					1
未来医療教育研究機構				1	1	3	5	1		1		7
監査室										4		4
合計	9	434	330	123	376	4	1,267	41	98	692	1,295	3,402

※特定雇用職員(常勤)を含む。ただし、特定雇用職員(常勤)のうち、令和2年4月1日以降、1年以上の雇用が見込まれない者及びクロスアポイント協定により本学での勤務割合(エフォート)が50%未満の者を除く。

※非常勤職員、特定雇用職員(短時間)除く。

蔵書数

(令和2年3月31日現在)

	図書(冊)			雑誌(種)		
	和書	洋書	計	和雑誌	洋雑誌	計
本館	654,111	337,588	991,699	9,851	5,826	15,677
亥鼻分館	118,486	122,087	240,573	2,730	3,097	5,827
松戸分館	54,798	14,334	69,132	3,085	904	3,989
計	827,395	474,009	1,301,404	15,666	9,827	25,493

開館・休館

	授業期間		休業期間	
	平日	土・日・祝日	平日	土・日・祝日
本館	8:30-22:30	10:30-18:00	9:00-16:45	閉館
亥鼻分館	8:40-21:45	10:30-20:00	9:00-16:45	閉館
松戸分館	9:00-21:00	10:30-18:00	9:00-16:50	閉館

利用状況等(令和元年度)

	開館日数 (日)	入館者数 (人)	貸出冊数 (冊)	電子ジャー ナル 利用可能数 (種)	文献複写件数		現物貸借件数		ガイダンス 開催回数
					受託	依頼	受託	依頼	
本館	299	557,476	110,428	21,929	1,519	1,413	320	828	72
亥鼻分館	326	63,278	16,030	21,897	2,726	1,614	36	45	15
松戸分館	279	16,384	2,637	21,855	77	70	4	24	4
計		637,138	129,095	21,977	4,322	3,097	360	897	91



本館



亥鼻分館



松戸分館

園児・児童・生徒の学級数及び定員数

●幼稚園			●中学校		
学級編成	学級数	定員	学年	学級数	定員
3歳児	1	28	1年	4	140(12)
4歳児	2	56	2年	4	140(12)
5歳児	2	56	3年	4	140(12)
計	5	140	計	12	420(36)

( )は、帰国生徒数で外数

●小学校			●特別支援学校			
学年	学級数	定員	部	学年	学級数	定員
1年	3	105	小学部	低中高	3	18
2年	3	105	中学部	1・2・3	3	18
3年	3	105	高等部	1・2・3	3	24
4年	3(1)	105(15)	計		9	60
5年	3(1)	105(15)				
6年	3(1)	105(15)				
計	18(3)	630(45)				

( )は、帰国児童学級数・帰国児童数で外数

04 学生

学生数(学部、研究生等)

学部学生在籍者数、定員

(令和2年5月1日現在)  
※数値は休学者・外国人留学生を含む

学部・学科等	在籍者数															定員	
	1年次			2年次			3年次			4年次(5・6年次)			計			3年次編入生	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
国際教養学部 国際教養学科	43	56	99	34	68	102	39	59	98	39	65	104	155	248	403	360	
行動科学部 行動科学学科										3	3	6	3	3	6	-	
史学科				1		1				2	2	4	3	2	5	-	
日本文化学科										3	1	4	3	1	4	-	
国際言語文化学科										3	1	4	3	1	4	-	
文学部 人文学科行動科学コース	35	45	80	36	41	77	35	48	83	45	42	87	151	176	327		
人文学科歴史学コース	17	16	33	20	13	33	22	16	38	17	20	37	76	65	141		
人文学科日本・コウラシア文化コース	11	19	30	14	18	32	9	23	32	12	28	40	46	88	134		10
人文学科国際言語文化コース	7	28	35	8	28	36	9	27	36	5	35	40	29	118	147		
先進科学プログラム	1	1	2					1	1				1	2	3	-	
計	71	109	180	79	100	179	75	115	190	90	132	222	315	456	771	700	10
法政学部 法学科										1		1	1		1	-	
経済学科										4		4	4		4	-	
総合政策学科										1		1	1		1	-	
計										6		6	6		6	-	
法政経学部 法政経学科	255	122	377	256	118	374	263	113	376	336	130	466	1,110	483	1,593	1,480	
教育学部 小学校教員養成課程					1	1	95	157	252	131	154	285	226	312	538	490	
中学校教員養成課程					1	1	37	49	86	53	49	102	90	99	189	170	
特別支援教育教員養成課程							2	18	20	3	19	22	5	37	42	40	
幼稚園教員養成課程							2	19	21	1	19	20	3	38	41	40	
養護教諭養成課程								38	38			37	37	75	75	70	
スポーツ科学課程										2		2	2		2	-	
生涯教育課程											2	2	2	2	2	-	

学部学生在籍者数、定員

(令和2年5月1日現在)  
※数値は休学者・外国人留学生を含む

学部・学科等	在籍者数															定員			
	1年次			2年次			3年次			4年次(5・6年次)			計			3年次 編入学			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計				
教育学部	学校教員養成課程小学校コース	73	98	171	66	99	165						139	197	336	780			
	学校教員養成課程中学校コース	33	14	47	25	18	43						58	32	90				
	学校教員養成課程小中専門教科コース	18	45	63	16	52	68						34	97	131				
	学校教員養成課程英語教育コース	18	22	40	16	22	38						34	44	78				
	学校教員養成課程特別支援教育コース	8	23	31	10	20	30						18	43	61				
	学校教員養成課程乳幼児教育コース	1	20	21		20	20						1	40	41				
	学校教員養成課程養護教諭コース		25	25		26	26							51	51				
計	151	247	398	133	259	392	136	281	417	190	280	470	610	1,067	1,677	1,590			
理学部	数学・情報数理学科	41	4	45	40	3	43	46	1	47	50	6	56	177	14	191	176		
	物理学科	37	2	39	36	4	40	40	4	44	48	5	53	161	15	176	156		
	化学科	35	11	46	35	10	45	34	7	41	30	14	44	134	42	176	156		
	生物学科	21	18	39	24	17	41	26	18	44	31	18	49	102	71	173	156		
	地球科学科	31	9	40	27	13	40	30	9	39	35	14	49	123	45	168	156		
	先進科学プログラム	1		1	4		4	1		1	1		1	7		7	-		
	計	166	44	210	166	47	213	177	39	216	195	57	252	704	187	891	800		
工学部	建築学科					1	1	1	1	11	1	12	12	2	14	-			
	都市環境システム学科							2	2	7	3	10	9	3	12	-			
	デザイン学科						1	1	2	11	4	15	12	5	17	-			
	機械工学科				1		1	2	2	23		23	26		26	-			
	メディカルシステム工学科				2		2			9	2	11	11	2	13	-			
	電気電子工学科				1		1	2	2	19		19	22		22	-			
	ナノサイエンス学科				1		1			10	1	11	11	1	12	-			
	共生応用化学科				1		1	1	1	10	2	12	12	2	14	-			
	画像科学科				2		2			9	1	10	11	1	12	-			
	情報画像学科							1	1		4	2	6	5	2	7	-		
	総合工学科建築学コース	52	18	70	58	19	77	45	33	78	53	23	76	208	93	301	2,600		
	総合工学科都市環境システムコース	44	8	52	43	14	57	46	13	59	50	14	64	183	49	232			
	総合工学科デザインコース	31	28	59	45	24	69	38	30	68	36	28	64	150	110	260			
	総合工学科機械工学コース	81	1	82	85	7	92	74	6	80	75	1	76	315	15	330			
総合工学科医工学コース	27	15	42	27	18	45	30	11	41	32	12	44	116	56	172				
総合工学科電気電子工学コース	67	7	74	78	1	79	75	6	81	80		80	300	14	314				
総合工学科物質科学コース	68	15	83	76	9	85	55	16	71	61	5	66	260	45	305				
総合工学科共生応用化学コース	77	19	96	79	24	103	72	27	99	75	29	104	303	99	402				
総合工学科情報工学コース	75	7	82	71	5	76	93	5	98	77	13	90	316	30	346				
先進科学プログラム	1		1				1		1			2		2	-				
計	523	118	641	570	122	692	539	148	687	652	141	793	2,284	529	2,813	2,600			
園芸学部	園芸学科	38	31	69	34	33	67	32	35	67	43	28	71	147	127	274		256	
	応用生命化学科	12	21	33	17	16	33	10	20	30	18	21	39	57	78	135		124	
	緑地環境学科	36	34	70	37	31	68	33	32	65	39	45	84	145	142	287		264	
	食料資源経済学科	16	14	30	11	19	30	10	21	31	21	18	39	58	72	130	116		
計	102	100	202	99	99	198	85	108	193			121	112	233	407	419	826	760	
医学部	医学科	82	36	118	95	37	132	93	19	112	4年次	92	30	122	541	190	731	717	
		5年次	87	31	118														
		6年次	92	37	129														
薬学部	薬学科・薬科学科	31	40	71	33	35	68				4年次	15	27	42	64	75	139	-	
		5年次	15	27	42														
		6年次	12	27	39														
	薬学科	2	8	10	5	6	11	12	30	42	4年次	41	43	84	61	125	186	260	
		5年次	15	27	42														
		6年次	12	27	39														
薬科学科	4	8	12	6	5	11	29	14	43	4年次	15	27	42	65	43	108	160		
	5年次	15	27	42															
	6年次	12	27	39															
計	37	56	93	44	46	90	41	44	85	190	243	433	420						
看護学部	看護学科	3	78	81	3	85	88	2	78	80	4年次	1,763	1,069	2,832	9	320	329	340	10
		5年次	102	58	160														
		6年次	104	64	168														
合計	1,433	966	2,399	1,479	981	2,460	1,450	1,004	2,454	6,331	4,142	10,473	9,767	80					

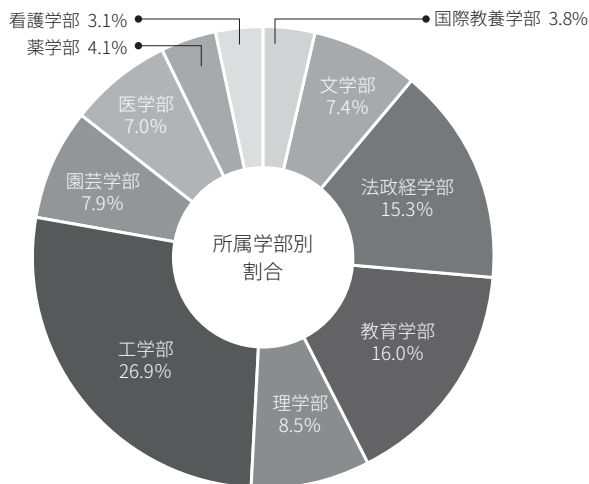
## 研究生等在籍者数

(令和2年5月1日現在)

部局名	在籍者数																		総計
	特別聴講学生			科目等履修生			研究生			専攻生			委託研究生			特別研究学生			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
国際教養学部	15	42	57	1	2	3	1	1											61
文学部	1	1	2		3	3	1	2	3										8
法政経学部																			0
教育学部	1	1	2	8	16	24	5	7	12	2	3	5	25	11	36				79
理学部				3	1	4	2		2										6
工学部	5	14	19	3	1	4	31	19	50	2	1	3	1		1				77
園芸学部				2	5	7	10	26	36	1	1	2							45
医学部					1	1													1
薬学部				5	6	11	4	4											15
看護学部																			0
人文公共学府		2	2				2	2								1	4	5	9
教育学研究科		1	1	25	13	38		2	2										41
融合理工学府	2	11	13				3	4	7							3	4	7	27
園芸学研究科	1	4	5																5
医学薬学府				12	26	38	6	6	12							7	1	8	58
看護学研究科								7	7				1	1					8
環境リモートセンシング 研究センター							9	1	10										10
合計	25	76	101	59	74	133	67	81	148	5	5	10	26	12	38	11	9	20	450

## 学部学生の内訳

(令和2年5月1日現在)

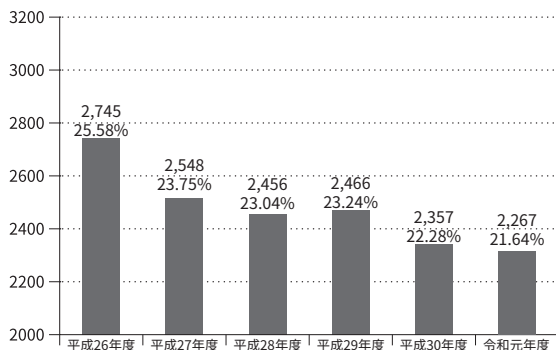


## 日本学生支援機構奨学生数

(令和元年度)

区分	学生数	奨学生数
学部	10,476	2,267 (21.64%)

備考 各年度 2月末日現在で示す。  
( )内は学生に対する奨学生数の割合。  
専攻生・別科生を含む。





# | 学生数(大学院)

# 04.2

## 大学院学生在籍者数、定員

(令和2年5月1日現在)  
※数値は休学者・外国人留学生を含む

研究科・専攻等	年次	在籍者数															定員			
		1年次			2年次			3年次			4年次			5年次				計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		男	女	計
人文社会科学 研究科	(博士前期課程)	地域文化形成専攻				2	2											2	2	—
		公共研究専攻				1	1											1	1	—
		社会科学研究専攻																0	0	—
		計				3	3											3	3	—
	(博士後期課程)	公共研究専攻				1	1	17	13	30							17	14	31	—
		社会科学研究専攻							1	1					1	1		1	1	—
文化科学研究専攻								5	6	11				5	6	11	5	6	11	
	計				1	1	23	19	42							23	20	43		
人文公共学府	(博士前期課程)	人文科学専攻	12	17	29	18	28	46							30	45	75	76		
		公共社会科学専攻	7	2	9	7	4	11							14	6	20	20		
		計	19	19	38	25	32	57							44	51	95	96		
	(博士後期課程)	人文公共学専攻	8	9	17	9	7	16	11	13	24				28	29	57	45		
	専門法務 研究科	(専門職学位課程)	法務専攻2年コース				9	8	17	6	4	10				15	12	27		
			法務専攻3年コース	8	4	12	9	2	11	5	1	6				22	7	29	120	
計			8	4	12	18	10	28	11	5	16				37	19	56			
教育学研究科	(修士課程)	学校教育科学専攻				1	1	2							1	1	2	—		
		教科教育科学専攻				1	2	3							1	2	3	—		
		学校教育学専攻	34	27	61	42	46	88							76	73	149	118		
		計	34	27	61	44	49	93							78	76	154	118		
(専門職学位課程)	高度教職実践専攻	8	8	16	7	20	27							15	28	43	40			
理学研究科	(博士前期課程)	地球生命圏科学専攻				1	1								1	1	1	—		
		計				1	1								1	1	—			
	(博士後期課程)	基礎理学専攻				1	1	3	1	1					4	4	—			
		地球生命圏科学研究専攻							1	1	4				4	1	5	—		
工学研究科	(博士後期課程)	建築・都市科学専攻							10	3	13				10	3	13	—		
		デザイン科学専攻				1	1	8	5	13				9	5	14	—			
		人工システム科学専攻専攻							12	2	14				12	2	14	—		
		共生応用化学専攻							2	1	3				2	1	3	—		
		計				1	1	32	11	43				33	11	44	—			
融合科学 研究科	(博士後期課程)	ナノサイエンス専攻							3	3					3	3	—			
		情報科学専攻							7	7					7	7	—			
		計							10	10					10	10	—			
融合理工学府	(博士前期課程)	数学情報科学専攻	59	6	65	65	8	73							124	14	138	148		
		地球環境科学専攻	63	15	78	60	22	82							123	37	160	162		
		先進理化学専攻	160	45	205	172	47	219							332	92	424	414		
		創成工学専攻	77	45	122	87	49	136							164	94	258	234		
		基幹工学専攻	152	7	159	146	12	158							298	19	317	300		
		計	511	118	629	530	138	668							1,041	256	1,297	1,258		
	(博士後期課程)	数学情報科学専攻	5	5	10	8	2	10	8	3	11				21	10	31	27		
		地球環境科学専攻	8	1	9	8	6	14	7	1	8				23	8	31	45		
		先進理化学専攻	19	7	26	20	3	23	22	5	27				61	15	76	87		
		創成工学専攻	8	14	22	15	9	24	18	9	27				41	32	73	54		
基幹工学専攻		22	3	25	16	3	19	24	4	28				62	10	72	51			
	計	62	30	92	67	23	90	79	22	101				208	75	283	264			
園芸学研究科	(博士前期課程)	環境園芸学専攻	63	62	125	56	66	122							119	128	247	210		
	(博士後期課程)	環境園芸学専攻	11	22	33	7	13	20	25	18	43				43	53	96	54		

研究科・専攻等	年次	在籍者数															定員			
		1年次			2年次			3年次			4年次			5年次				計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		男	女	計
(修士課程)	医科学専攻	11	14	25	13	11	24										24	25	49	54
	総合薬品科学専攻	36	18	54	30	18	48										66	36	102	100
	計	47	32	79	43	29	72										90	61	151	154
医学薬学府	環境健康科学専攻										2		2				2		2	—
	先端生命科学専攻							1		1							1		1	—
	(4年博士課程) 先端医学薬学専攻	82	36	118	96	30	126	99	36	135	88	43	131				365	145	510	432
	先進予防医学共同専攻	9	1	10	7	4	11	9	2	11	5	6	11				30	13	43	40
	計	91	37	128	103	34	137	108	38	146	96	49	145				398	158	556	472
(後期3年博士課程)	先端創薬科学専攻	13	5	18	14	3	17	18	3	21							45	11	56	45
(博士前期課程)	看護学専攻	1	19	20	2	26	28										3	45	48	50
(修士課程)	看護システム管理学専攻	1	10	11		11	11		14	14							1	35	36	36
看護学研究科	(博士後期課程) 看護学専攻	5	10	15	4	14	18	6	25	31							15	49	64	36
	(5年一貫制博士課程) 共同災害看護学専攻					1	1	1	1		3	3		3	3		8	8		10
総合国際学位プログラム (修士課程)		4	2	6													4	2	6	[5]
合 計		886	414	1,300	932	480	1,412	326	170	496	96	52	148	3	3	2,240	1,119	3,359	3,008	

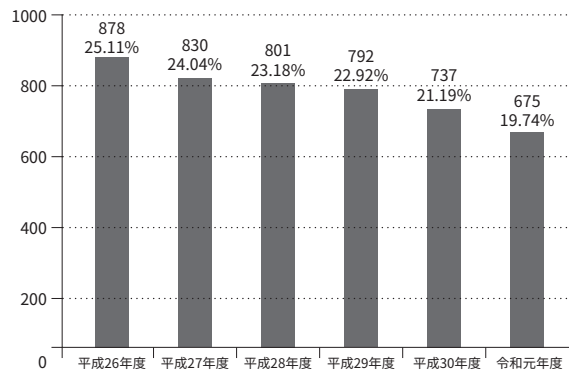
※ [ ]内の数字は、千葉大学大学院学則第26条の2に規定する二以上の研究科から、研究科等連携課程実施基本組織に活用する入学定員及び収容定員を示す。

### 日本学生支援機構奨学生数

(令和元年度)

区 分	学生数	奨学生数
大 学 院	3,420	675 (19.74%)

備考 各年度2月末日現在で示す。  
( )内は学生に対する奨学生の割合。



## 入学状況(学部)

04.3

### 学部学生の入学状況

(令和2年度入試)

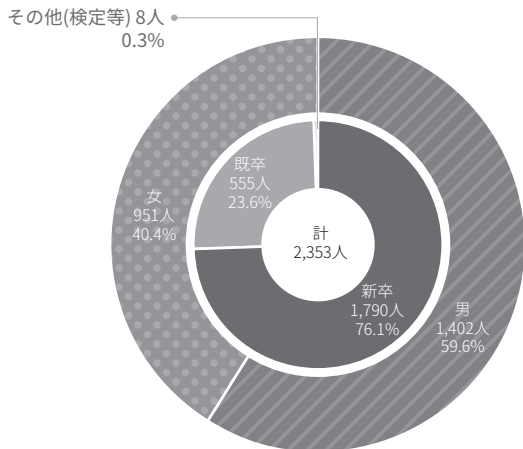
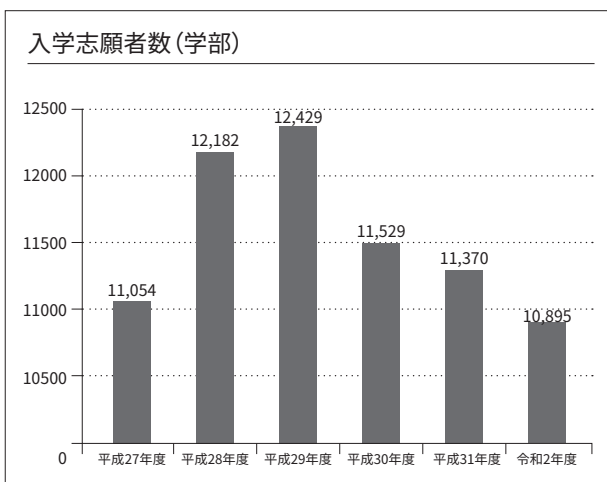
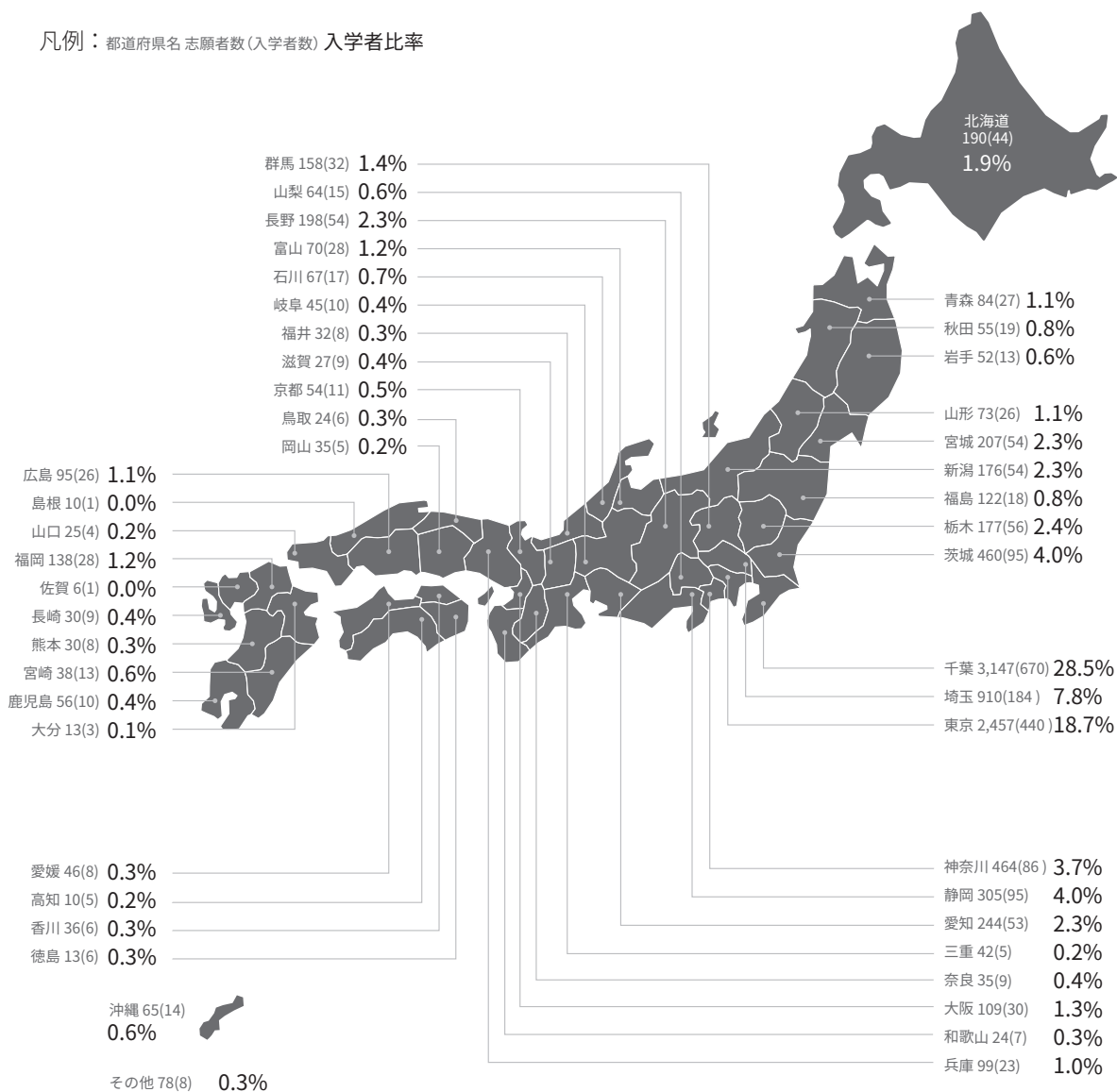
学部名	入学定員	入学志願者			入 学 者			計
		志願者数	倍 率	新 卒	既 卒	そ の 他		
国際教養学部	90	372	4.1	82	17		99	
文 学 部	170	877	5.2	138	32	3	173	
法政経学部	370	1,860	5.0	279	95		374	
教 育 学 部	390	934	2.4	342	54	1	397	
理 学 部	200	1,232	6.2	139	61	2	202	
工 学 部	620	3,186	5.1	451	174	2	627	
園 芸 学 部	190	902	4.7	139	56		195	
医 学 部	117	736	6.3	73	44		117	
薬 学 部	90	521	5.8	80	12		92	
看 護 学 部	80	275	3.4	67	10		77	
計	2,317	10,895	4.7	1,790	555	8	2,353	

備考

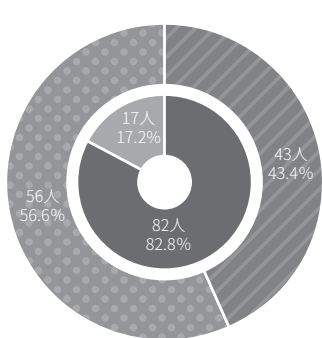
一般入試・AO・推薦・園芸産業創発学プログラム・帰国子女・社会人・先進科学プログラムを合計した。

# 入学者内訳 (令和2年度)

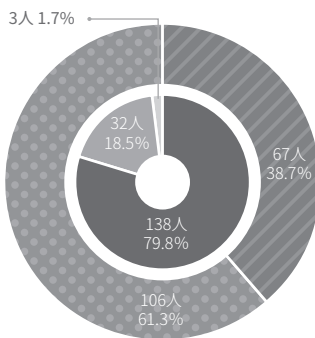
凡例：都道府県名 志願者数(入学者数) 入学者比率



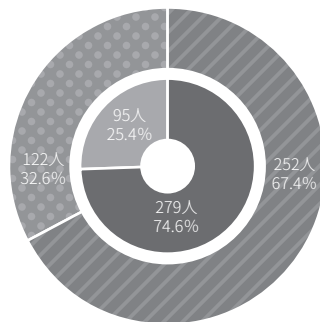
学部別入学者内訳 (令和2年度)



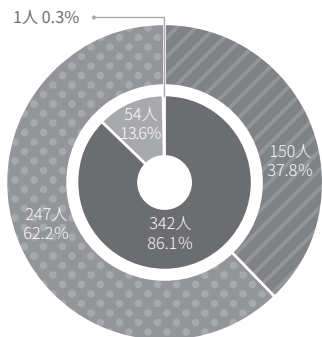
国際教養学部  
99人



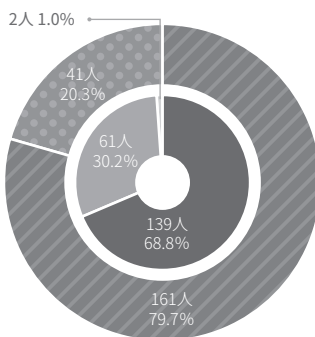
文学部  
173人



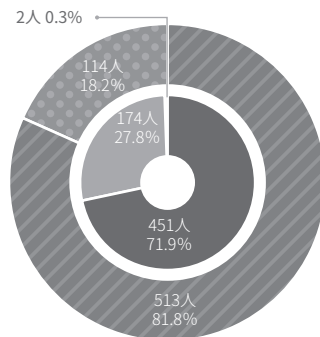
法政経学部  
374人



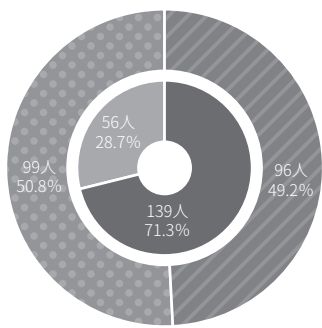
教育学部  
397人



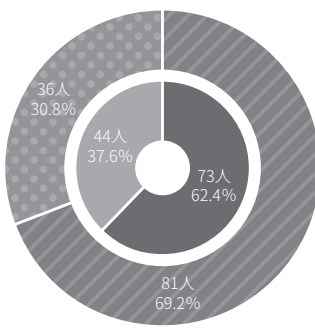
理学部  
202人



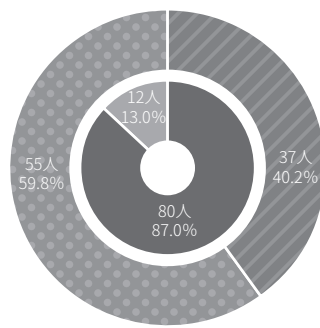
工学部  
627人



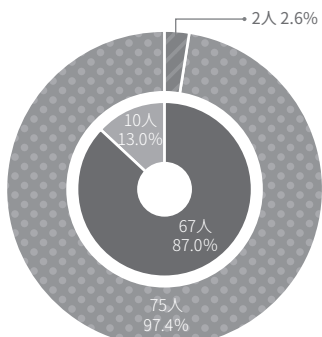
園芸学部  
195人



医学部  
117人



薬学部  
92人



看護学部  
77人

- 男
- 女
- 新卒
- 既卒
- その他

(令和2年3月31日)

学 位	専攻分野	旧 制	新 制			
			課程修了によるもの		論文提出によるもの	
			令和元年度	累 計	令和元年度	累 計
博 士	学 術	2,590	27	627	3	134
	文 学		6	117	0	9
	法 学		0	23	0	5
	経 済 学		0	22	0	0
	経 営 学		0	1	0	0
	政 治 学		0	0	0	1
	公 共 学		0	4	0	1
	理 学		12	565	2	124
	医 学		114	3,302	1	1,987
	医 薬 学		0	77	0	0
	薬 学		2	379	1	340
	薬 科 学		10	72	3	9
	臨 床 薬 学		0	17	0	0
	看 護 学		12	217	1	22
	工 学		34	1,000	2	251
	農 学		12	269	2	127
法務博士	専 門 職		12	517		
修 士	学 術		44	633		
	文 学		28	924		
	教 育 学		58	2,466		
	法 学		0	171		
	経 済 学		1	266		
	総 合 政 策		0	28		
	経 営 学		2	50		
	政 治 学		0	20		
	公 共 学		4	47		
	理 学		140	3,688		
	医 科 学		29	406		
	薬 学		0	1,946		
	薬 科 学		50	453		
	臨 床 薬 学		0	250		
	看 護 学		36	978		
	工 学		505	13,467		
農 学		102	3,169			
教職修士	専 門 職		14	68		
合 計		2,590	1,254	36,239	15	3,010

備考 平成3年7月1日以前の学位の種類及び授与件数は、文学修士39、教育学修士306、法学修士11、経済学修士17、理学修士506、薬学修士701、看護学修士144、工学修士2,229、農学修士676、学術博士75(課程)・2(論文)、理学博士3(課程)、医学博士724(課程)・1,097(論文)、薬学博士64(課程)・100(論文)、工学博士6(課程)、農学博士2(課程)であり、対応する学位(専攻分野)の累計を含む。

# 卒業生の進路状況

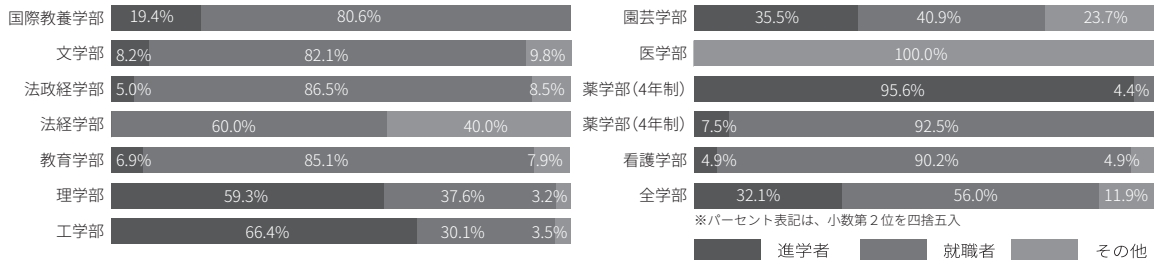
04.5

## 令和元年度卒業生の進路

(令和2年5月1日現在)

学部	進学者				就職者				左記以外の者				合計	
	大学院研究科	学部(本科)	短大(本科)	専攻科・別科	小計	自営業上等 無期雇用労働者	有期雇用労働者	臨時労働者	小計	進学準備中の者	就職準備中の者	その他		小計
国際教養学部	12	1			13	54			54				0	67
文学部	4				4	36			36				0	40
法政経学部	15				15	151			151	1	10	7	18	184
法経学部	7				7	102			102	1	6	4	11	120
教育学部	19				19	326			326		30	2	32	377
理学部	6				6	121			121		6	6	6	133
工学部					0	3			3		2		2	5
園芸学部					0	1			1				0	1
医学部	27	1			28	288	55		343	1	1	18	12	31
薬学部(4年制)	10				10	202	35		237	1	1	11	5	17
薬学部(6年制)														
看護学部	111	1			112	68	3		71		6		6	189
工学部	31	1			32	16			16				0	48
園芸学部	473				473	213	1		214	4	2	6	13	21
医学部	71				71	71	1		72		1	2	3	146
薬学部(4年制)	65	1			66	76			76	2	3	39	44	186
看護学部	30	1			31	41			41	2	2	19	23	95
医学部					0				0	121		3	3	124
薬学部(4年制)					0				0	27		1	1	28
薬学部(6年制)	43				43	2			2				0	45
看護学部	10				10				0				0	10
看護学部	3				3	29	8		37				0	40
看護学部	1				1	22	8		30				0	31
看護学部	3			1	4	74			74	1		3	3	82
看護学部	3			1	4	70			70	1		3	3	78
計	771	4	0	1	776	1,284	67	0	1,351	121	6	6	75	79
	173	2	0	1	176	682	44	0	726	27	2	4	26	64

※下段は、女子を内数で示す。 ※本表中「左記以外の者」のその他とは、学校基本調査「卒業後の状況調査票(2-1)」の「左記以外の者」のその他及び「不詳・死亡の者」をいう。



## 卒業生産業別就職状況

(令和元年度)

区分	農業・林業・漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	水道業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売・小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	学術研究・専門・技術サービス業	宿泊業・飲食サービス業	生活関連サービス業・娯楽業	教育・学習支援業	医療・福祉	複合サービス事業	サービス業	公務	その他	計	
国際教養学部			5	14	6	6	3	2	1	1	1	1	1	1	1		6	3	5	54		
文学部			2	11	31	6	12	4	2	11	3	9	4	6	1	2	9	16	21	1	151	
法政経学部	1		6	18	4	56	5	6	48	8	19	2	13	5	1	7	58	69		326		
法経学部			1								1				1						3	
教育学部			1	13	2	27	2	13	10	6	3	1	7	178	15	16	1	11	7	28	2	343
理学部			2	9	22		7	2	3			1	5	3	1		3	4	8	1	71	
工学部	1		31	49	7	62	6	5	4	3	12	1	2				5	11	14	1	214	
園芸学部	4		4	8	11		7	2	2	7	1	1	1	1	1	3		6	17	1	76	
医学部																					0	
薬学部(4年制)			1																1		2	
薬学部(6年制)			13								1				6			2	3		37	
看護学部															74						74	
合計	6	0	46	128	13	223	25	61	78	25	58	9	34	187	31	101	6	41	108	165	6,135	

# | 修了生の進路状況

04.6

令和元年度修了生の進路

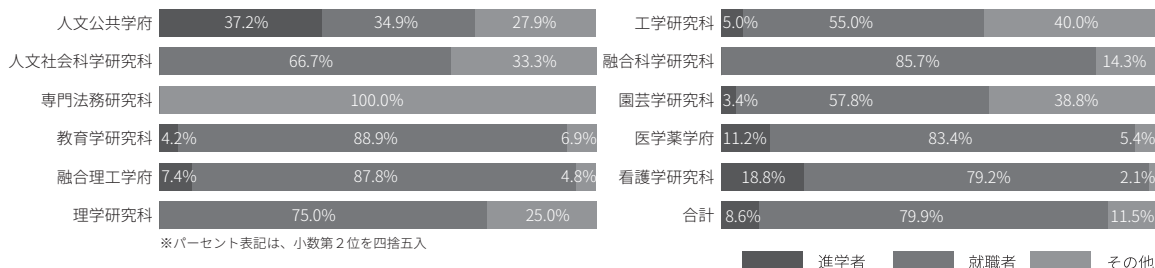
(令和2年5月1日現在)

研究科	進学者				就職者				小計	臨時労働者	小計	臨床研修医 (予定者を含む)	専修学校・ 外国の学校等入学者	左記以外の者			合計
	大学院研究科	学部 (本科)	短大 (本科)	専攻科・別科	小計	自営業主等 無期雇用労働者	有期雇用労働者	小計						進学準備中の者	就職準備中の者	その他	
人文公共学府	16				16	13		2	15			1		6	5	11	43
人文社会科学研究科	9				9	6		1	7			1		3	2	5	22
専門法務研究科					0	1		4	1	6					3	3	9
教育学研究科	3				3	54	10		64							4	72
融合理工学府	1				1	24	4		28			1		2	2	32	32
理学研究科	51				51	98	1		603			1	2	17	13	32	687
工学研究科	13				13	98	1		99			1	2	3	5	118	118
融合科学研究科					0	2	1		3						1	1	4
園芸学研究科	1				1	11			11					5	3	8	20
医学薬学府	1				1	2			2					2	3	5	8
看護学研究科					0	5	1		6					1	1	7	7
計	5				5	79	6		85					4	53	57	147
	5				5	39	3		42					3	23	26	73
	20	3			23	124	42	5	171					8	3	11	205
	7	2			9	34	19	1	54					4	2	6	69
	9				9	31	7		38					1	1	48	48
	5				5	29	6		35					1	1	41	41
計	105	3	0	0	108	917	77	8	1,002	0	3	2	45	94	141	1,254	1,254
	41	2	0	0	43	233	36	3	272	0	3	2	18	36	56	374	374

※下段は、女子を内数で示す。

※進学者に、就職かつ進学者の者を含む。

※本表中「左記以外の者」のその他とは、学校基本調査「卒業後の状況調査票(2-1)」の「左記以外の者」のその他及び「不詳・死亡の者」をいう。



## 修了生産業別就職状況

(令和元年度)

区分	農業・林業・漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	水道業・ガス・熱供給・ 電気	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売・小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸 業	技術サービス業	学術研究・専門・ 技術サービス業	宿泊業・飲食サービス業	生活関連サービス業・娯楽業	教育・ 学習支援業	医療・福祉	複合サービス事業	サービス業	公務 国家公務 地方公務	その他	計
人文公共学府	1																			3	15
人文社会科学研究科															1	1			3	1	6
専門法務研究科																					0
教育学研究科				1		3		1	2					1	44	2	3		1	5	64
融合理工学府	1	2	49	319	8	105	14	7	7	11	33			4	12	2		4	16	5	603
理学研究科				1		1															3
工学研究科			2	4		1									2		1		1		11
融合科学研究科				3		1					1										6
園芸学研究科	1		8	33	1	8		1	1	1	12					1		2	10	5	85
医学薬学府				39		3		2			10				4	98		1	12	2	171
看護学研究科															12	26					38
合計	3	2	59	401	9	127	15	11	11	12	58	0	6	75	7	128	2	5	43	15	1,002

## 令和元事業年度決算

## 貸借対照表

(単位:億円)

資産の部			負債の部		
固定資産			資産見返負債	151	(147)
土地	1,293	(1,297)	借入金 ※4	301	(255)
建物等	482	(504)	長期未払金	16	(26)
備品	75	(91)	寄附金債務	41	(39)
図書	51	(51)	未払金	133	(111)
建設仮勘定 ※1	111	(42)	その他	49	(42)
投資有価証券	25	(26)	負債合計	692	(619)
その他	7	(6)			
流動資産			純資産の部		
現金及び預金※2	164	(80)	資本金	1,506	(1,508)
未収入金	71	(69)	資本剰余金	52	(59)
有価証券※3	17	(55)	利益剰余金	42	(35)
棚卸資産	4	(5)	当期末処分利益(当期末処理損失)	9	(6)
その他	1	(1)	純資産合計	1,609	(1,609)
資産合計	2,301	(2,227)	負債・純資産合計	2,301	(2,227)

\*単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある。

( )は平成30事業年度

## I. 貸借対照表の概要

- 附属病院中央診療棟新営その他工事等の前金払いに伴い、建設仮勘定が増加しています。(※1)
- 譲渡性預金の償還や未払金の発生に伴う普通預金、元本償還通貨特約型定期預金の運用開始による定期預金が増したことに伴い、現金及び預金が増加しています。(※2)
- 前年度から繰り越された譲渡性預金の償還に伴い、有価証券が減少しています。(※3)
- 附属病院中央診療棟新営その他工事等の増加に伴い、借入金が増加しています。(※4)

## 損益計算書

(単位:億円)

経常費用			経常収益		
教育経費	29	(30)	運営費交付金収益 ※2	173	(177)
研究経費	36	(37)	学生納付金収益	83	(83)
診療経費 ※1	235	(227)	附属病院収益 ※3	363	(355)
教育研究支援経費	13	(12)	外部資金	60	(59)
受託研究費等	32	(32)	機関補助金	11	(11)
人件費	345	(348)	その他	28	(27)
一般管理費	17	(17)			
その他	1	(1)			
経常費用合計	708	(705)	経常収益合計	718	(712)
臨時損失	5	(3)	臨時利益	4	(2)
			目的積立金取崩等	0	(0)
計	713	(708)	計	722	(715)

当期総利益(損失)

9 (6)

\*単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある。

( )は平成30事業年度

## II. 損益計算書の概要

- 高額医療の実施に伴う注射薬や診療材料の購入に伴い、診療経費が増加しています。(※1)
- 業務達成基準の適用による学内プロジェクトの翌年度繰越に伴い、運営費交付金収益が減少しています。(※2)
- 入院診療単価の上昇や平均在院日数の維持、外来診療単価の上昇等に伴い、附属病院収益が増加しています。(※3)



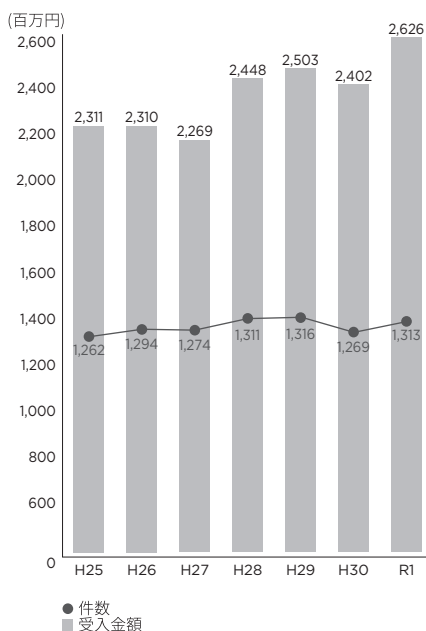
## 05.2

### 令和元年度科学研究費助成事業(科研費)等獲得状況

#### 科学研究費助成事業

研究種目	件数	金額(千円)
科学研究費補助金(分担も含む)	1,276 (887)	2,535,600
特別推進研究	2 (1)	233,810
新学術領域研究(研究領域提案型)	46 (30)	284,927
基盤研究(S)	13 (1)	139,087
基盤研究(A)	53 (15)	178,927
基盤研究(B)	254 (118)	616,427
基盤研究(C)	536 (382)	508,463
挑戦の萌芽研究	18 (18)	48,490
挑戦の研究(開拓)	4 (2)	20,497
挑戦の研究(萌芽)	39 (20)	57,977
若手研究(A)	2 (2)	8,970
若手研究(B)	44 (44)	44,338
若手研究	164 (164)	269,106
特別研究促進費	1 (1)	5,762
国際共同研究加速基金(国際活動支援班)	5 (1)	5,291
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))	2 (2)	26,780
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	9 (2)	5,823
研究活動スタート支援	12 (12)	17,184
奨励研究	5 (5)	2,569
研究成果公開促進費	3 (3)	1,340
特別研究員奨励費	64 (64)	59,826
厚生労働科学研究費補助金	35 (8)	90,262
労災疾病臨床研究事業費補助金	2 (0)	970
合計	1,313 (881)	2,626,833

0 内は研究代表者分の件数

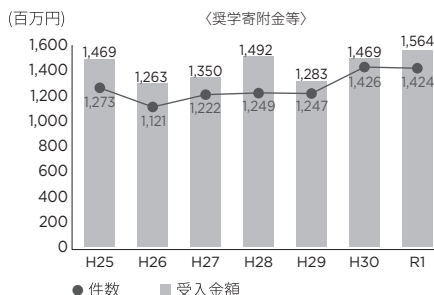
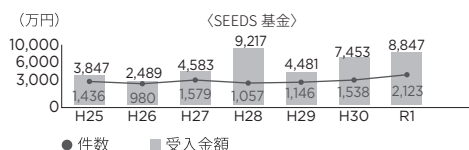


## 05.3

### 令和元年度寄附金受入状況

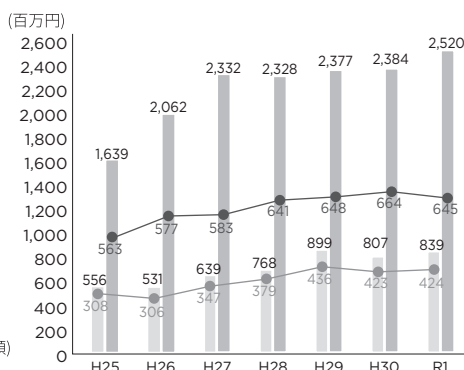
#### 外部資金

区分	件数	金額(千円)	
寄附金	奨学寄附金等	1,424	1,564,783
	SEEDS基金	2,123	88,479
合計	3,547	1,653,262	



### 令和元年度受託研究等受入状況

研究種目	件数	金額(千円)	
受託研究等	受託研究	645	2,520,001
	共同研究	424	839,160
合計	1,069	3,359,161	



## 05.4

### 特許出願

#### 特許出願

区分	保有特許						
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年3月31日現在
件数	157件	174件	168件	211件	148件	160件	749件

※国際出願・欧州出願を含む。

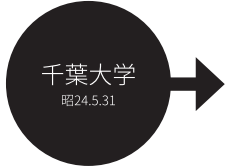
# 土地・建物及び所在地

05.5

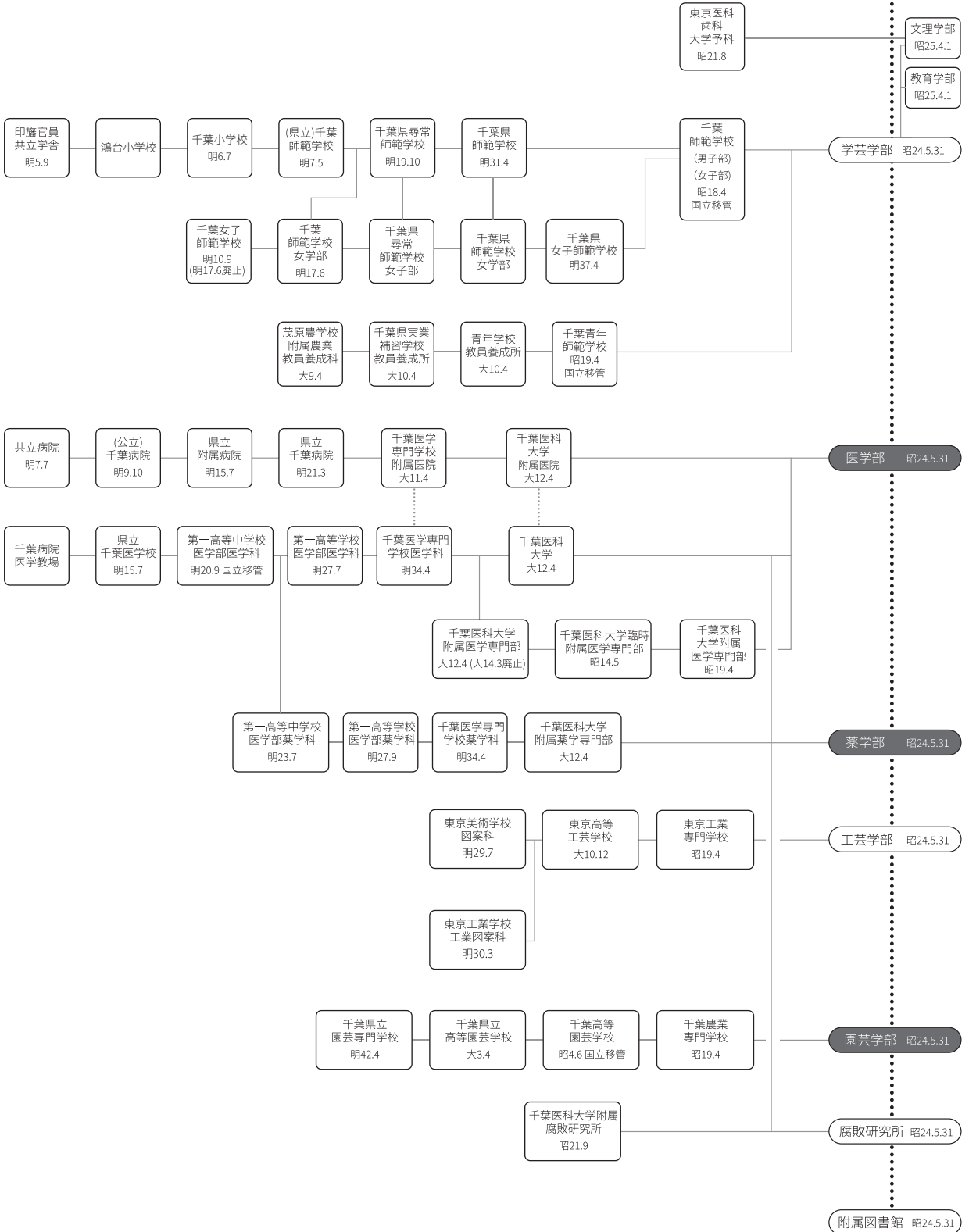
令和2年5月1日現在

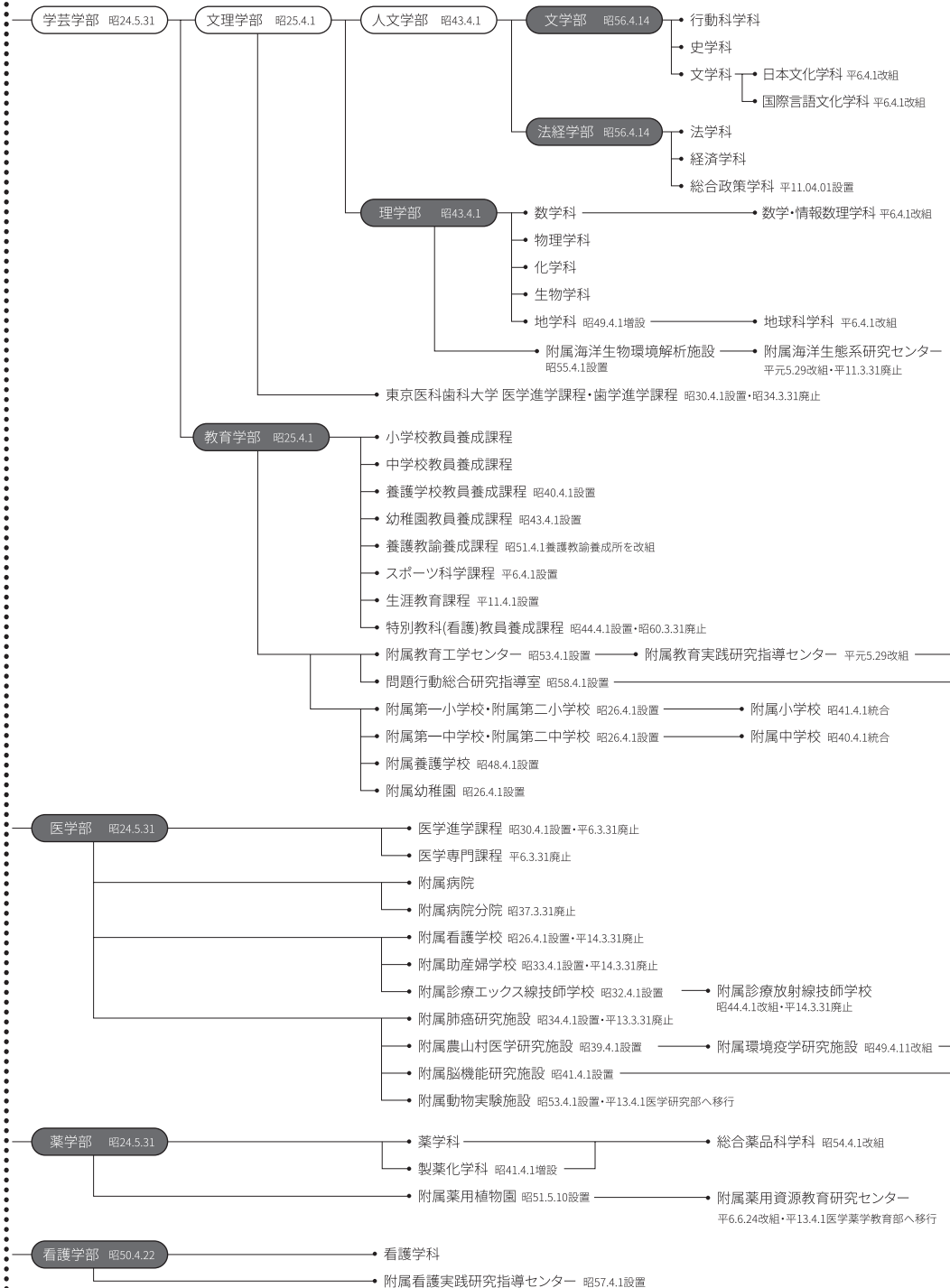
地区名	区分	施設名	所在地	土地㎡	建物(総面積)㎡	備考	
西千葉地区	本部	事務局庁舎			3,809	※内訳	
		共通棟			1,457	・第1体育館 2,625	
		その他			※29,724	・第2体育館 991	
		共用機器センター			2,543	・大学会館 2,675	
		統合情報センター			1,602	・総合学生支援センター 2,112	
		フロンティア医工学センター			2,307	・学生食堂 1,119	
		アイソトープ実験施設			2,680	・サークル会館 2,409	
		産業連携研究推進ステーション			1,132	・武道場 984	
		環境リモートセンシング研究センター	千葉市稲毛区弥生町	380,958	3,803	・宿泊施設 455	
		総合安全衛生管理機構	1番33号	(他に借入1,112)	1,254	・けやき会館 2,536	
亥鼻地区		ベンチャービジネスラボラトリー			1,516	・その他 13,818	
		附属図書館			16,037		
		文学部・法政経学部			16,904		
		教育学部	学部		21,953	※※内訳	
		附属学校	附属学校		※※19,731	・附属幼稚園 1,418	
		理学部			21,942	・附属小学校 8,199	
		工学部			59,446	・附属中学校 10,114	
		総合校舎			22,948		
		自然科学系総合研究棟			17,883		
		ソフト分子活性化研究センター			1,523		
松戸地区		真菌医学研究センター			3,466	※医学部所属	
		医学部			45,530		
		医学部附属病院			118,090	※※医学部附属病院所属	
		看護学部			17,492		
		亥鼻分館	千葉市中央区亥鼻	263,687	3,784		
		薬学部	1丁目8番1号	(他に借入83)	20,317	※※※内訳	
		学生寄宿舎	雄翔寮		※1,094	・看護師宿舎 10,018	
		さつき共同棟			※※2,662	・亥鼻宿舎 1,898	
		職員宿舎			※※※11,916		
					(他に借入1,183)		
小仲台地区		園芸学部			23,625		
		学生寄宿舎	松戸市松戸648	147,255	※2,019	※園芸学部所属	
		職員宿舎			1,142	1,338	
小仲台地区		学務部	江戸川艇庫	松戸市栄町西5丁目	543	195	
				(他に借入19)			
	学生寄宿舎		稲毛寮	千葉市稲毛区小仲台		3,439	
			無名寮	6丁目33番	11,212	1,800	
			薫風寮			4,098	
		睦寮	千葉市稲毛区小仲台	7,060	1,915		
		5丁目7番					
		国際交流会館	千葉市稲毛区小仲台	11,420	7,463		
		6丁目33番					
小仲台地区		職員宿舎	千葉市稲毛区小仲台	19,835	9,444		
			5・9丁目				
その他		海洋バイオシステム研究センター	鴨川市内浦1の1	57,190	1,553		
			(他に借入92)				
		銚子実験場	銚子市外川町1丁目10		191		
			835番6号	(借入607)	(他に借入142)		
	教育学部		附属特別支援学校	千葉市稲毛区長沼原	18,996	3,558	
				町312	(他に借入1)		
			臨海実習所	館山市大賀字西台地	6,228	649	
			(他に借入32)				
	そ		勝山セミナーハウス	千葉県安房郡鋸南町	1,512	47	
				勝山398の1			
の		学務部	山梨県南都留山中湖	22,730	467		
			村山中235の15				
他		薬学部	附属薬用資源教育研究センター館山圃場	館山市山本字上洲垂1	8,568	153	
				674の1			
		柏の葉地区	柏市柏の葉6丁目2	166,889	※9,521	※うち1,158㎡	
			番地1	(他に借入175)	予防医学センター		
		沼田地区	群馬県沼田市下川田町	71,358	868	うち510㎡	
			字大竹5773	(他に借入338)	柏の葉診療所		
		環境健康フィールド科学センター	静岡県賀茂郡東伊豆町	48,661	1,908		
			熱川地区	奈良本字角の山	(他に借入319)		
			1462-1				
		職員宿舎	千葉市稲毛区轟町、弥生町		9,745		
		千葉市中央区青葉町	13,644	(他に借入43)			
		習志野市谷津					
	貸付			2,332			
	その他			(借入20,298)	※9	※医学部納骨堂	
				(他に借入153)			
合 計				1,261,220	558,550		
				(他に借入23,076)	(他に借入1,521)		

# 06 沿革



(M):修士課程(博士前期課程を含む)  
 (D):博士課程(博士後期、後期3年博士、4年博士及び5年一貫制博士課程を含む)  
 (P):専門職学位課程  
 ※白抜き文字表記は、現在も存続する学部等を表す





国際教養学部 → 国際教養学科 平28.4.1設置

文学部 → 行動科学科 → 人文学科 平28.4.1改組  
 → 史学科  
 → 日本文化学科 平6.4.1改組  
 → 国際言語文化学科 平6.4.1改組

法経学部 → 法政経学部 平26.4.1 → 法政経学科

教育学部 → 小学校教員養成課程 → 学校教員養成課程 平31.4.1改組  
 → 中学校教員養成課程 昭40.4.1設置  
 → 養護学校教員養成課程 → 特別支援教育教員養成課程 平20.4.1改称  
 → 幼稚園教員養成課程 昭43.4.1設置  
 → 養護教諭養成課程 昭51.4.1養護教諭養成所を改組  
 → スポーツ科学課程 平6.4.1設置 平28.3.31募集停止  
 → 生涯教育課程 平11.4.1設置 平28.3.31募集停止  
 → 附属教育実践総合センター 平8.5.11統合 → 附属教員養成開発センター 平25.4.1改組  
 → 附属幼稚園 昭26.4.1設置  
 → 附属小学校 昭41.4.1統合  
 → 附属中学校 昭40.4.1統合  
 → 附属養護学校 昭48.4.1設置 → 附属特別支援学校 平19.4.1改称

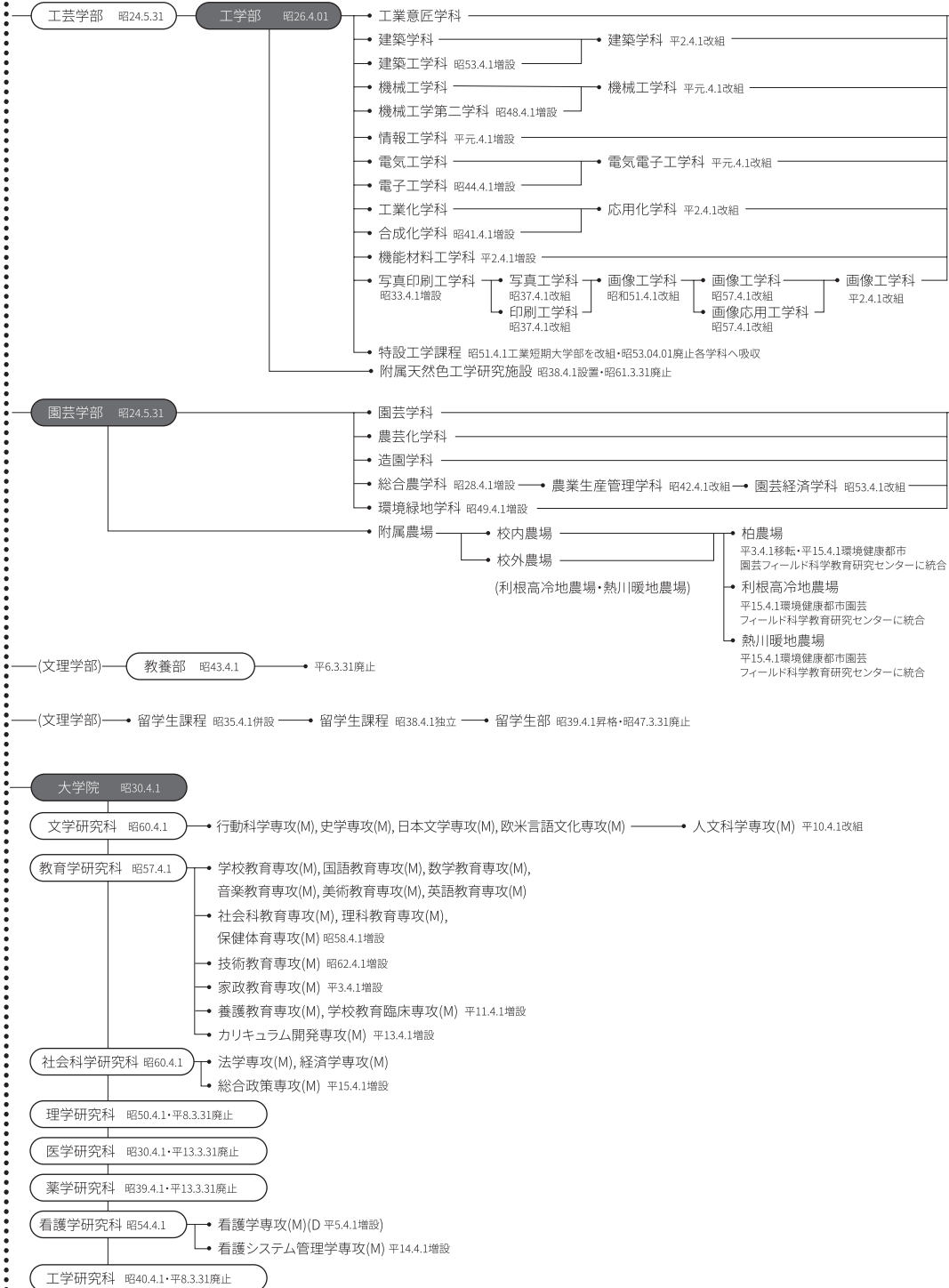
附属教育実践  
総合センター  
平8.5.11統合

理学部 → 数学・情報数理学科 平6.4.1改組  
 → 物理学科  
 → 化学科  
 → 生物学科  
 → 地球科学科 平6.4.1改組

工学部 → 都市環境システム学科 平10.4.1改組 → 建築学科 平20.4.1改組 → 総合工学科 平29.4.1改組  
 → デザイン工学科 平10.4.1改組 → 都市環境システム学科 平20.4.1改組  
 → 電子機械工学科 平10.4.1改組 → デザイン学科 平20.4.1改組  
 → メディカルシステム工学科 平16.4.1増設 → 機械工学科 平20.4.1改組  
 → 情報画像工学科 平10.4.1改組 → メディカルシステム工学科 平20.4.1改組  
 → 共生応用化学科 平16.4.1改組 → 電気電子工学科 平20.4.1改組  
 → ナノサイエンス学科 平20.4.1改組  
 → 共生応用化学科 平20.4.1改組  
 → 画像科学科 平20.4.1改組  
 → 情報画像学科 平20.4.1改組

附属高次機能  
制御研究センター  
昭63.4.8設置・平10.3.31廃止

園芸学部 → 生物生産科学科 平3.4.1改組 → 園芸学科 平19.4.1改組  
 → 緑地・環境学科 平3.4.1改組 → 応用生命化学科 平19.4.1改組  
 → 園芸経済学科 平3.4.1改組 → 緑地環境学科 平19.4.1改組  
 → 食料資源経済学科 平19.4.1改組



国立大学法人  
千葉大学  
平16.4.1

- 都市環境システム学科 平10.4.1改組
- デザイン工学科 平10.4.1改組
- 電子機械工学科 平10.4.1改組
- 情報画像工学科 平10.4.1改組
- 物質工学科 平10.4.1改組  
平16.4.1共生応用化学科に改組

- 生物生産科学科 平3.4.1改組
- 緑地・環境学科 平3.4.1改組
- 園芸経済学科 平3.4.1改組

医学部

医学科

附属病院

柏の葉診療所 平27.5.1環境健康フィールド科学センターから移行

薬学部

総合薬品科学科 昭54.4.1改組

薬学科 平18.4.1改組

薬科学科 平18.4.1改組

看護学部

看護学科

附属看護実践研究指導センター 昭57.4.1設置・平21.4.1看護学研究科へ移行

特殊教育特別専攻科(教育学部) 平4.4.1設置

特別支援教育特別専攻科(教育学部) 平19.4.1改称 平28.3.31廃止

園芸学部園芸別科 昭50.4.1改組・平成30.3.31廃止

大学院 昭30.4.1

人文公共学府 平29.4.1改組

人文科学専攻(M)

公共社会科学専攻(M)

人文公共学専攻(D)

専門法務研究科 平16.4.1

法務専攻(P)

教育学研究科 昭57.4.1

学校教育専攻(M)

国語教育専攻(M)

社会科教育専攻(M) 昭58.4.1増設

数学教育専攻(M)

理科教育専攻(M) 昭58.4.1増設

音楽教育専攻(M)

美術教育専攻(M)

保健体育専攻(M) 昭58.4.1増設

技術教育専攻(M) 昭62.4.1増設

家政教育専攻(M) 平3.4.1増設

英語教育専攻(M)

養護教育専攻(M) 平11.4.1増設

学校教育臨床専攻(M) 平11.4.1増設

カリキュラム開発専攻(M) 平13.4.1増設

特別支援専攻(M) 平17.4.1増設

スクールマネジメント専攻(M) 平17.4.1増設

学校教育科学専攻(M) 平23.4.1改組

教科教育科学専攻(M) 平23.4.1改組

学校教育学専攻(M) 平28.4.1改組

高度教職実践専攻(P) 平28.4.1改組

融合理工学府 平29.4.1改組

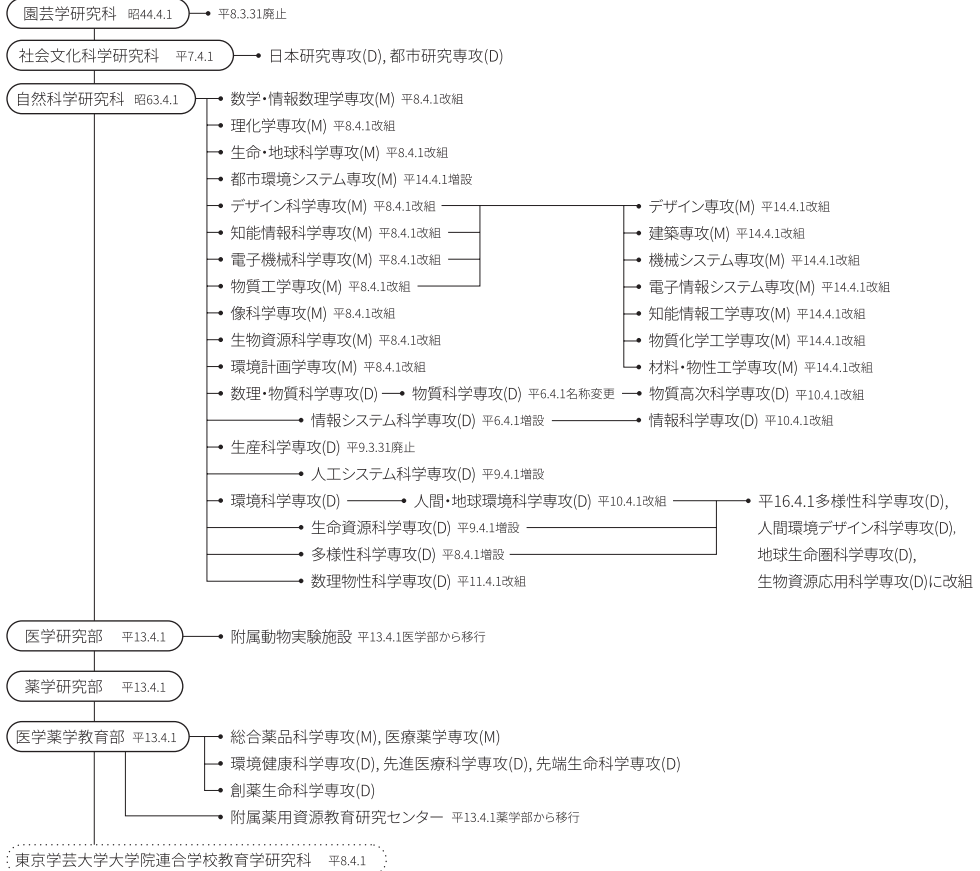
数学情報科学専攻(M)(D)

地球環境科学専攻(M)(D)

先進理化学専攻(M)(D)

創成工学専攻(M)(D)

基幹工学専攻(M)(D)





園芸学研究所 平19.4.1 → 環境園芸学専攻(M)(D)

医学薬学府 平16.4.1・医学薬学教育部から名称変更

- 医科学専攻(M) 平17.4.1増設
- 総合薬品科学専攻(M)
- 医療薬学専攻(M) 平22.3.31廃止
- 環境健康科学専攻(D)
- 先進医療科学専攻(D)
- 先端生命科学専攻(D)
- 先端生命科学専攻(D) → 先端医学薬学専攻(D) 平24.4.1改組
- 創薬生命科学専攻(D) → 先端創薬科学専攻(D) 平24.4.1改組
- 先進予防医学共同専攻 平28.4.1設置
- 附属薬用資源教育研究センター 平13.4.1薬学部から移行

看護学研究所 昭54.4.1

- 看護システム管理学専攻(M) 平14.4.1増設
- 看護学専攻(M)(D) 平5.4.1増設
- 共同災害看護学専攻(D) 平26.4.1増設
- 附属看護実践研究指導センター 平21.4.1看護学部から移行
- 附属専門職連携教育研究センター 平27.1.1設置

総合国際学位プログラム 令2.4.1

→ 総合国際学位プログラム (M)

国際学術研究院 令2.4.1

人文科学研究院 平29.4.1

社会科学研究院 平29.4.1

理学研究院 平29.4.1

→ 附属ハドロン宇宙国際研究センター 平29.4.1理学研究科から移行

工学研究院 平29.4.1

- 附属次世代モビリティパワースource研究センター 平29.4.1工学研究科から移行
- 附属インテリジェント飛行センター 令元.10.1設置

医学研究院 平16.4.1・医学研究部から名称変更

- 附属子どものこころの発達研究センター 平23.4.1設置  
平27.4.1学内共同教育研究施設に改組
- 附属クリニカル・スキルズ・センター 平24.2.1設置
- 附属法医学教育研究センター 平26.4.1設置
- 附属超高齢社会研究センター 平26.4.1設置
- 附属国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究センター 平28.4.1設置
- 附属治療学人工知能 (AI) 研究センター 平30.4.1設置
- 附属バイオリソース教育研究センター 平30.4.1設置
- 附属動物実験施設 平13.4.1医学部から移行

薬学研究院 平16.4.1・薬学研究部から名称変更

東京芸科大学大学院連合学校教育学研究所

大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所

文学研究科 昭60.4.1

→ 人文科学専攻(M) 平10.4.1改組・平18.3.31廃止

社会科学研究所 昭60.4.1

- 法学専攻(M) 平18.3.31廃止
- 経済学専攻(M) 平18.3.31廃止
- 総合政策専攻(M) 平15.4.1増設・平18.3.31廃止

社会文化科学研究科 平7.4.1

- 日本研究専攻(D) 平18.3.31廃止
- 都市研究専攻(D) 平18.3.31廃止





AD ALTIORA SEMPER  
UNIVERSITAS CHIBA

2020

CHIBA UNIVERSITY

〒263-8522 千葉県稲毛区弥生町1-33  
[www.chiba-u.jp](http://www.chiba-u.jp)

Copyright (C) 2020 Chiba University. All Rights Reserved.

